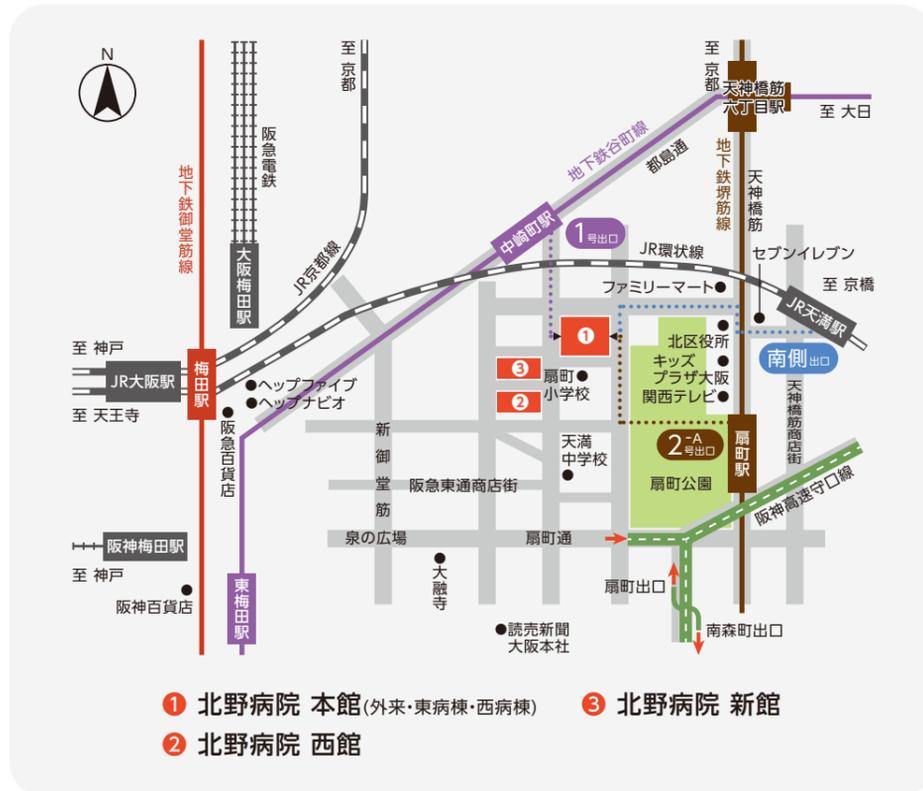


公益財団法人田附興風会

医学研究所北野病院

診療案内 2024

Medical Research Institute KITANO HOSPITAL



- 電車**
- 地下鉄堺筋線「扇町駅」徒歩約5分
 - 地下鉄谷町線「中崎町駅」徒歩約5分
 - JR大阪環状線「天満駅」徒歩約7分
- 車(阪神高速より)**
- 12号守口線 北行「扇町」出口 約3分
 - 12号守口線 南行「南森町」出口 約5分

地域医療サービスセンター

地域医療係

TEL.06-6131-2955 〈受付時間〉
月～金曜日 / 8:45～19:00

医療相談係

TEL.06-6131-2956 〈受付時間〉
月～金曜日 / 8:45～17:25

FAX

FAX.06-6312-8620
※FAXは24時間受信しておりますが、受付時間後のFAXは、翌営業日のお返事となります。

公益財団法人田附興風会
医学研究所北野病院

〒530-8480 大阪市北区扇町2丁目4番20号
TEL.06-6312-1221(代表) FAX.06-6361-0588(代表)
<https://www.kitano-hp.or.jp>

診療受付時間 8:45～11:30(月～金) ※診療科によって異なる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)



理念と基本方針

Kitano Quality



理念

- 質の高い医療を実践し、信頼される病院をめざします。
- 病む人の立場に立った安心の得られる病院をめざします。
- 各自が医療人としての誇りをもって最善を尽くす病院をめざします。

基本方針

- 地域の中核病院として先進の医療を実践します。
- 人権尊重を基盤として情報公開とインフォームドコンセントを推進します。
- 快適・安全・清潔な医療環境を提供します。
- 医療水準の向上のために教育・研修および臨床研究に努めます。
- 各自が自覚をもって経営の健全化に協力します。

理事長挨拶

いなぎ のぶや
理事長 稲垣 暢也



平素より関係の皆さまには大変お世話になり有難うございます。

田附興風会は、田附政次郎氏が医学に関する総合研究に資することを目的に、京都帝国大学(現 京都大学)医学部に提供されたご寄付により1925年に設立され、1928年に医学研究所北野病院が開設されました。間もなく100周年を迎えようとしている現在、「ともに100年、これからも」をキーワードに、これからも患者さんの立場に立った医療を提供し、地域の皆さまの命を守り、皆さまに愛される病院であり続けたいと願っています。

そのためには、患者さんが安心して満足できる治療が受けられるように、安全で最新・最良の医療を提供するとともに、地域の先生方との役割分担と連携が不可欠であると考えています。2020年の新館竣工に合わせてこれまでに進めてまいりました本館のリノベーション工事も2023年夏に完了し、より快適な環境で高度な治療を受けていただくことが可能となりました。これからも、地域の先生方とのさらなる連携を推し進めるべく、先生方や患者さんとできる限りの情報共有を行い、ご要望が届くような病院をめざして、職員一同、努力してまいりたいと思いますので、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

病院長挨拶

はた だいすけ
病院長 秦 大資



新年早々能登半島地震が発生し多くの方々被災されたことに深い悲しみを感じております。1日でも早い復興と安定した日常が戻ることを願い、当院からも被災地にAMAT、JMATを派遣し医療支援活動を継続して行っております。ただし当院の災害時の医療支援体制はまだ十分とは言えず、今後充実を図っていきたく考えております。

2023年度は幸い新型コロナウイルス感染症もまずまず落ち着き、また秋には本館の3年間にわたる大規模なリノベーションが終了し、最新、最良の医療を提供できる体制が整いました。また救急部の改修も行い、専門性の高い診療に加えて、救急患者さんの受け入れ体制の充実も図ってきました。その結果2023年度の救急車の受け入れ件数は年間約12,000件となり、全国でもトップレベルの受け入れ件数となりました。一方で開業医の先生方、また患者さんから当院の電話がつながりにくいのご指摘を多くいただいております。この問題を解消すべく、土曜日、日曜日、夜間に関しましては代表電話が繋がらない場合、内科、外科当直に直接つながる電話番号を、そして昼間地域医療サービスセンターに繋がりにくい際は、各診療科の部長あるいは当番の医師に直接つながる電話番号を開業医の先生方にこの夏から9月にかけてご連絡させていただきました。ぜひご利用ください。

今後も職員一同力を合わせて、近隣の住民の皆様、医療機関の先生方のご期待の応えられるように努力してまいります。皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

医学研究所北野病院 概要

概要

名称	公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院 Medical Research Institute KITANO HOSPITAL, PIIF Tazuke-kofukai
所在地	〒530-8480 大阪府大阪市北区扇町2丁目4番20号
TEL	06-6312-1221 (代)
FAX	06-6361-0588 (代)
URL	https://www.kitano-hp.or.jp/
開設年月	1928年(昭和3年)2月
病院の種類	一般病院、DPC対象病院 (急性期入院医療診断群分類包括評価方式対象病院)
許可病床数	一般685床
看護体系と体制	体系：一般病棟 7対1入院基本料 体制：継続受持制
診療受付時間	8：45～11：30(月～金) ※診療科によって異なる場合もありますので、ホームページをご確認ください。
休診日	土曜日、日曜日、祝日、 年末年始(12/29～1/3)

医学研究所

腫瘍 研究部：消化器外科、消化器内科、呼吸器外科、乳腺外科、泌尿器科、産婦人科、血液内科、腫瘍内科、病理診断科、緩和ケア科
呼吸・循環 研究部：循環器内科、不整脈科、心臓血管外科、呼吸器内科、臨床工芸学部
内分泌・代謝・腎臓 研究部：糖尿病内分泌内科、腎臓内科、栄養部
炎症・免疫 研究部：リウマチ膠原病内科、皮膚科、感染症科
神経・感覚運動器 研究部：脳神経内科、眼科、神経精神科、整形外科、形成外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科
発達・再生 研究部：小児科、小児外科
病態生理・薬理 研究部：麻酔科、集中治療部、救急部、薬剤部
保健・健康 研究部：放射線科、健診部、臨床検査部、医療情報部、看護部、リハビリテーション科、歯科・口腔外科

指定・認定

認定・承認	<ul style="list-style-type: none">■地域医療支援病院■大阪府難病診療連携拠点病院■大阪府がん診療拠点病院■小児がん連携病院■大阪府小児中核病院■大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院■大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関■地域周産期母子医療センター■大阪産婦人科相互援助システム(OGCS)準基幹病院■大阪新生児診療相互援助システム(NMCS)参加病院■産科医療補償制度加入医療機関■働きやすい病院評価・認証■ISO9001認証取得■ISO15189認定取得
診療指定	<ul style="list-style-type: none">■被爆者一般疾病医療機関■労災保険指定医療機関■精神保健指定医が配置されている医療機関■母体保護法指定医が配置されている医療機関■身体障害者福祉法指定医が配置されている医療機関■さい帯血バンク登録移植医療機関■非血縁者間骨髄採取認定施設■非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設■非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科■大阪府肝炎専門医療機関■大阪府肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関■感染症予防法による指定届出機関■結核指定医療機関■生活保護法による指定医療機関■生活保護法による指定介護機関(訪問リハビリ)■生活保護法による指定介護機関(介護予防訪問リハビリ)■公害医療機関■戦傷病者特別援護法指定医療機関
救急指定	<ul style="list-style-type: none">■大阪府二次救急告示医療機関(内科・小児科)■二次後送病院(眼科・耳鼻科)
研修・実習病院	<ul style="list-style-type: none">■厚生労働省基幹型臨床研修病院■母体保護法第14条指定医師研修機関■卒後臨床研修評価機構認定施設■看護学校実習指定施設■助産師学校実習指定病院■薬剤師実務実習施設■臨床検査技師実習指定病院■視能訓練士実習指定病院

診療科目

診療センター・診療科

- 救急部(救急科・初期診療科・発熱外来)
- 呼吸器センター(呼吸器内科・呼吸器外科)
- 消化器センター(消化器内科・消化器外科)
- 神経センター(脳神経内科・脳神経外科)
- 心臓センター(循環器内科・不整脈科・心臓血管外科)
- 化学療法センター(腫瘍内科)
- 放射線治療センター(腫瘍放射線科)
- 緩和ケアセンター(緩和ケア科)
- アイセンター(眼科)
- 腎臓内科
- 泌尿器科
- 糖尿病内分泌内科
- 血液内科
- リウマチ膠原病内科
- 神経精神科
- 小児科
- 小児外科
- 産婦人科
- 乳腺外科
- 皮膚科
- 形成外科
- 整形外科
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 歯科口腔外科
- リハビリテーション科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 病理診断科
- 感染症科

専門外来

- 難聴・鼓膜再生センター
- 漏斗胸センター
- こどものヘルニアセンター

支援部門

- 血液浄化センター
- 健康管理中心
- プレストセンター
- がん診療センター

学会認定	<ul style="list-style-type: none">■日本内科学会認定教育施設■日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設■日本呼吸器学会呼吸器専門研修プログラム(施設群)基幹施設■日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設(成人部門)■呼吸器外科専門医合同委員会専門医研修基幹施設■日本循環器学会認定循環器専門医研修施設■日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設■日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設■三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医認定機構基幹施設■日本消化器内視鏡学会専門医制度指定施設■日本肝臓学会認定施設■日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設■日本消化器病学会専門医制度認定施設■日本胆道学会指導施設■日本膵臓学会認定指導施設■日本外科学会外科専門医制度修練施設■日本消化器外科学会専門医制度修練施設(認定施設)■日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B■日本神経学会専門医制度教育施設■日本脳神経外科学会専門研修プログラム 基幹施設・連携施設■日本脳卒中学会研修教育施設■日本定位・機能神経外科学会技術認定施設■日本腎臓学会認定教育施設■日本急性血液浄化学会認定指定施設■日本腎臓財団賛助会員■日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設■日本透析医学会専門医制度認定施設■日本アフレスシス学会認定施設■日本糖尿病学会認定教育施設1■日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設■日本血液学会専門医研修認定施設(血内)■日本がん治療認定医機構認定研修施設■日本リウマチ学会教育施設■日本小児科学会専門医基幹施設■日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設(小児部門)■日本小児血液・がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設■日本小児神経学会小児神経専門医研修施設■日本小児感染症学会指導医教育研修プログラム施設■日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法(NCPR)トレーニングサイト施設■日本血液学会専門医研修認定施設(小児)■日本小児外科学会認定施設■日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設■日本眼科学会専門医制度研修施設■日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設■日本気管食道科学会認定専門医研修施設(咽喉系)■日本耳科学会耳科手術指導医制度認可研修施設■日本専門医機構研修基幹病院■日本産科婦人科学会専門研修プログラム基幹施設■日本周産期・新生児医学会周産期専門医認定施設(指定施設)■日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設■日本女性医学会認定研修施設■日本婦人科腫瘍学会指定修練施設A■日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設■日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設■日本整形外科学会専門医制度研修施設■日本手外科学会認定研修施設■日本脊椎脊性病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設■日本形成外科学会認定施設■日本皮膚科学会認定専門医研修施設■日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設■日本臨床腫瘍学会認定研修施設■日本緩和医療学会認定研修施設■日本救急医学会救急科専門医指定施設■日本麻酔科学会麻酔科認定病院■日本心臓血管麻酔学会専門医認定基幹施設■日本集中治療医学会専門医研修施設■日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関■日本核医学会専門医教育病院■日本病理学会病理専門医研修登録施設■日本臨床細胞学会認定施設■日本臨床細胞学会教育研修施設■日本口腔外科学会研修施設■日本感染症学会認定研修施設■日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設■日本病態栄養学会認定・病態栄養専門医研修認定施設■日本医療薬学会認定薬剤師研修施設■日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設■日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設■日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設(基幹施設)■日本臨床薬理学会認定薬剤師制度研修施設■日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設	<ul style="list-style-type: none">■薬学教育協議会薬学生長期実務実習受入施設■日本リハビリテーション医学会研修施設■関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設■関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設■浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設■IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設■日本循環器学会認定ビンダクル導入施設・認定施設■日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋凍焼均術に関する認定施設■日本不整脈デバイス工業会、日本不整脈心電学会認定ICD認定施設■日本消化器内視鏡学会 JED Project 参加施設■一次脳卒中センター(PSC)■多発性嚢胞腎協会施設会員■日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療連携施設■日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設■日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設■下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設■日本医学放射線学会画像診断管理認証施設■日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設■補助人工心臓治療関連学会協議会インペラ部会事務局認定 IMPELLA実施施設■日本形成外科学会専門医制度研修プログラム基幹施設■多血小板血漿 (PRP：Platelet-Rich Plasma)を用いた難治性潰瘍治療■鼻咽喉閉鎖不全に対する自家脂肪注入基準施設■乳房増大用エキスパンダーおよびインプラント実施施設■日本造血・免疫細胞療法学会 非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準移植施設■日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設■日本臨床神経生理学学会認定施設■一般社団法人 日本周産期・新生児医学会新生児認定施設■一般社団法人 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設
-------------	---	--

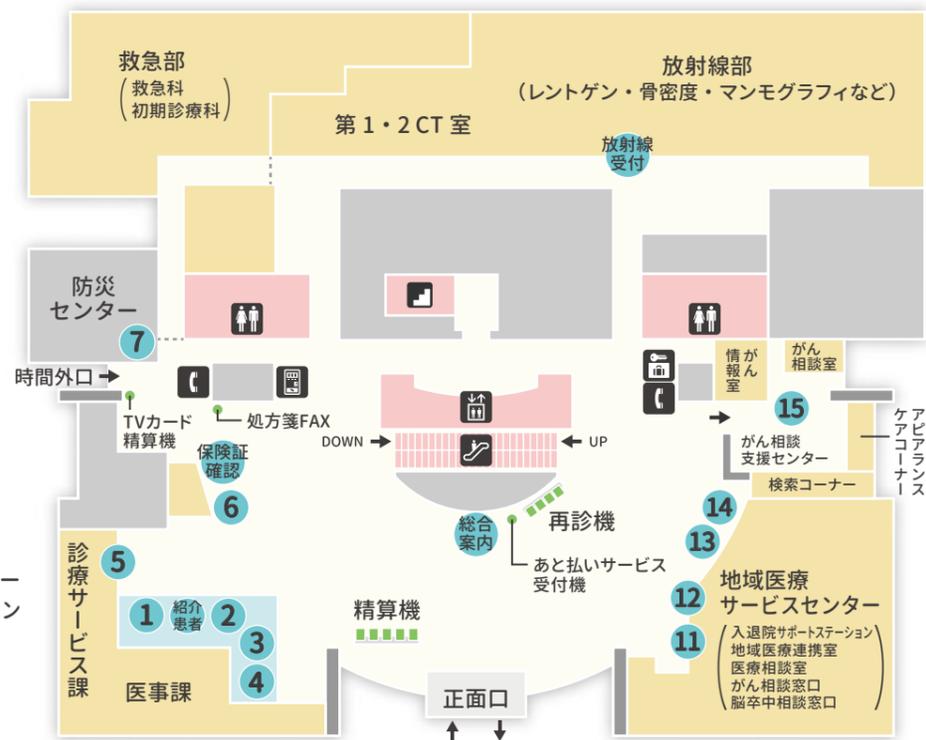
沿革

1925(大正14)年 9月	医学に関する総合研究を行い、あわせて京都帝国大学(現 京都大学)医学部における学術研究を助成し、研究の成果の普及を図り、もって学術・文化の発展に寄与することを目的として、田附政次郎氏が寄付金を提供。財団法人田附興風会を設立する。	2014(平成26)年 4月 11月	プレストセンターを開設する。化学療法センターを開設する。
1928(昭和 3)年 2月 11月	病床数120床をもって、京都帝国大学医学部に付属する臨床医学研究用として、北野病院を開設。中新館(西側)の増築により、病床数が188床に増床。連合国軍に接收される。	2015(平成27)年 4月	NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)の認定取得。人間ドック健診専門医研修施設の認定取得。[ISO 9001:2015]の認証を受ける。
1938(昭和13)年 4月	病床数120床をもって、京都帝国大学医学部に付属する臨床医学研究用として、北野病院を開設。中新館(西側)の増築により、病床数が188床に増床。連合国軍に接收される。	2017(平成29)年 3月	当財団第20代・22代理事長を務めた本庶佑先生がノーベル生理学・医学賞の受賞が決まる。漏斗胸センターを開設する。
1945(昭和20)年 10月	1950(昭和25)年 11月	2018(平成30)年 10月	「大阪府難病診療連携拠点病院」の指定を受ける。入院院サポートステーションを開設する。
1951(昭和26)年 11月	1952(昭和27)年 7月	2019(平成31)年 4月	歯科口腔外科を開設する。
1954(昭和29)年 12月	1962(昭和37)年 4月	2019(令和元)年 6月 7月 10月 11月	がん診療センターを開設する。緩和ケア科を開設する。「小児がん連携病院」の指定を受ける。臨床検査部が[ISO 15189:2012]の認証を受ける。難聴・鼓膜再生センターを開設する。新館を増築する。
1968(昭和43)年 7月	1981(昭和56)年 3月	2020(令和 2)年 4月	放射線部を開設し、放射線科を放射線診断科と放射線治療センター(腫瘍放射線科)に組織改編する。病床数を見直し、685床に変更。
1985(昭和60)年 4月	1993(平成 5)年 3月	2021(令和 3)年 4月	こどものヘルニアセンターを開設する。緩和ケアセンターを開設する。
1998(平成10)年 4月	2000(平成12)年 4月	2022(令和 4)年 1月 3月	血液浄化センターを本館4階から本館6階へ移転する。化学療法センターを本館1階から本館6階へ移転する。眼科外来を本館3階から本館5階へ移転し、アイセンターを開設する。
2001(平成13)年 9月	2006(平成18)年 4月 5月 6月 10月	2023(令和 5)年 1月 4月	リハビリテーション科を本館4階から本館5階へ移転する。大阪府から「大阪府小児中核病院」に指定される。地域医療サービスセンター、入院院サポートステーションが移転・拡充される。
2007(平成19)年 3月	2009(平成21)年 4月 11月	2023(令和 5)年 1月 4月	ICU(集中治療室)が移転、全個室化される。本館3階にデイ・サージャリー室を開設する。第1・第3・第5土曜日を休診日とし、完全週休二日制に移行する。
2010(平成22)年 2月	2011(平成23)年 9月 11月	2024(令和 6)年 2月	本館4階にハイブリッド手術室を含む手術室を増設する。がん相談支援センターを拡大する。
2012(平成24)年 4月	2013(平成25)年 3月 5月 8月		

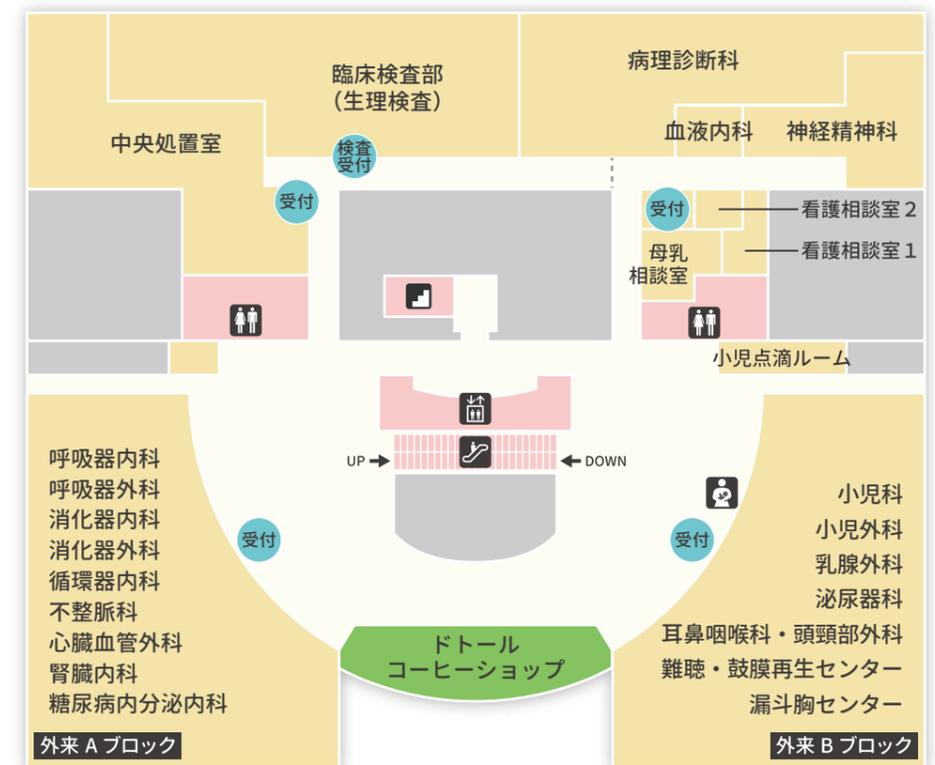
外来フロア (本館) の紹介

1F

- 1 初診受付
- 2 計算窓口
- 3 会計
- 4 文書受付
- 5 患者相談窓口
- 6 薬窓口
- 7 救急・時間外受付
- 11 入院受付
- 12 地域医療サービスセンター
入退院サポートステーション
- 13 持参薬確認
- 14 検査説明
- 15 がん相談支援センター



2F

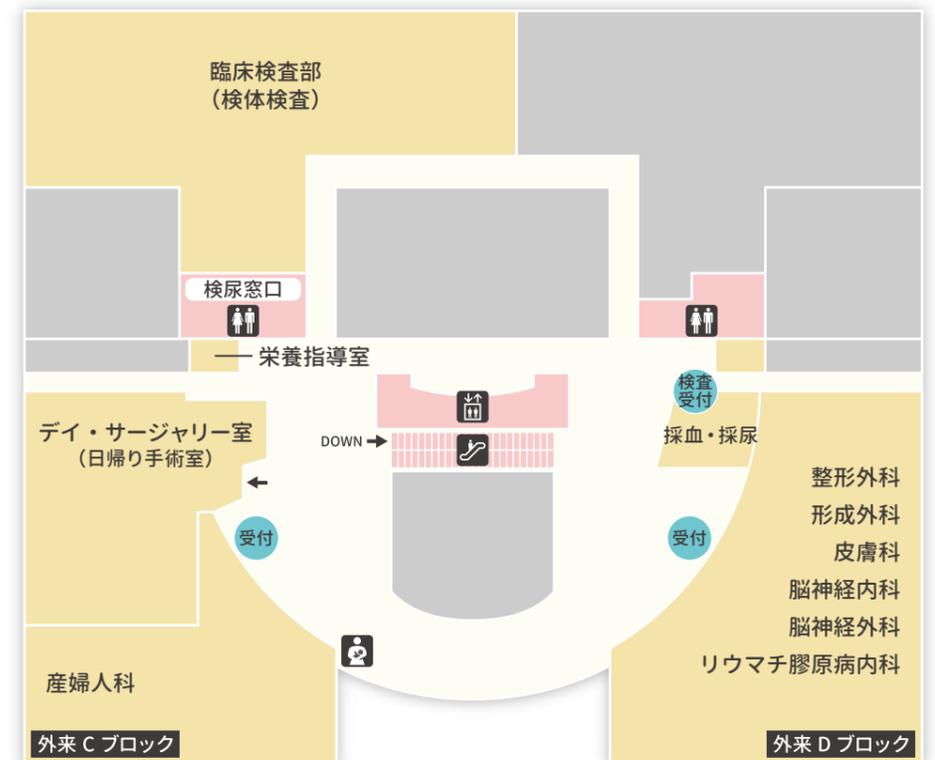


B1F

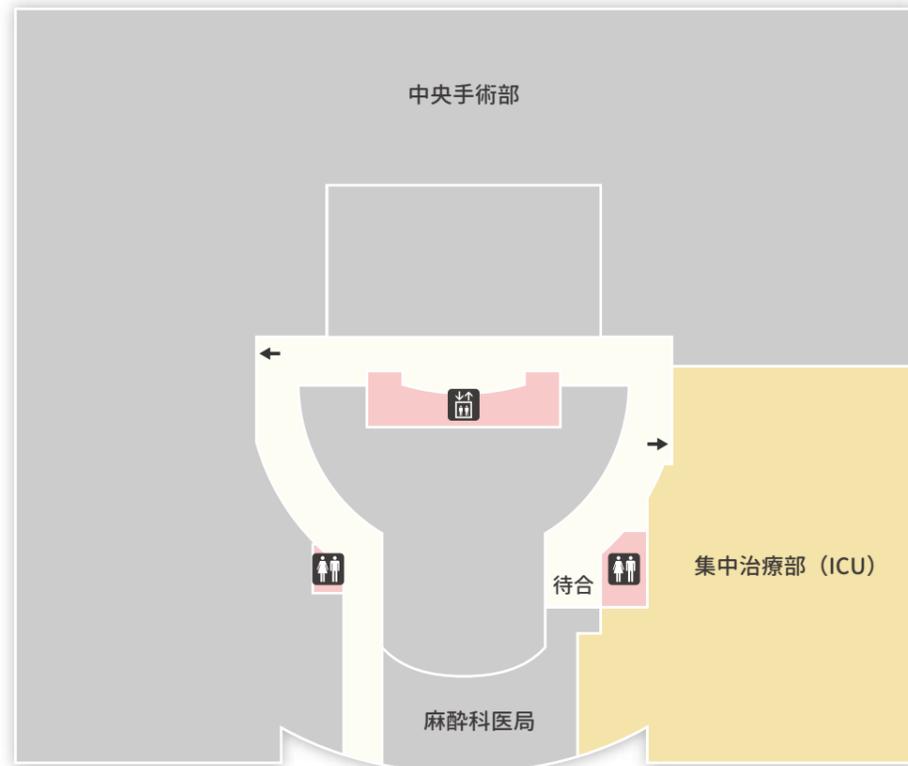


- ♿ トイレ
- 🚪 エレベーター
- 🚶 エスカレーター
- ☎ 公衆電話
- 👛 コインロッカー
- 📺 飲料自動販売機
- 🏧 銀行ATM
- 👶 授乳室

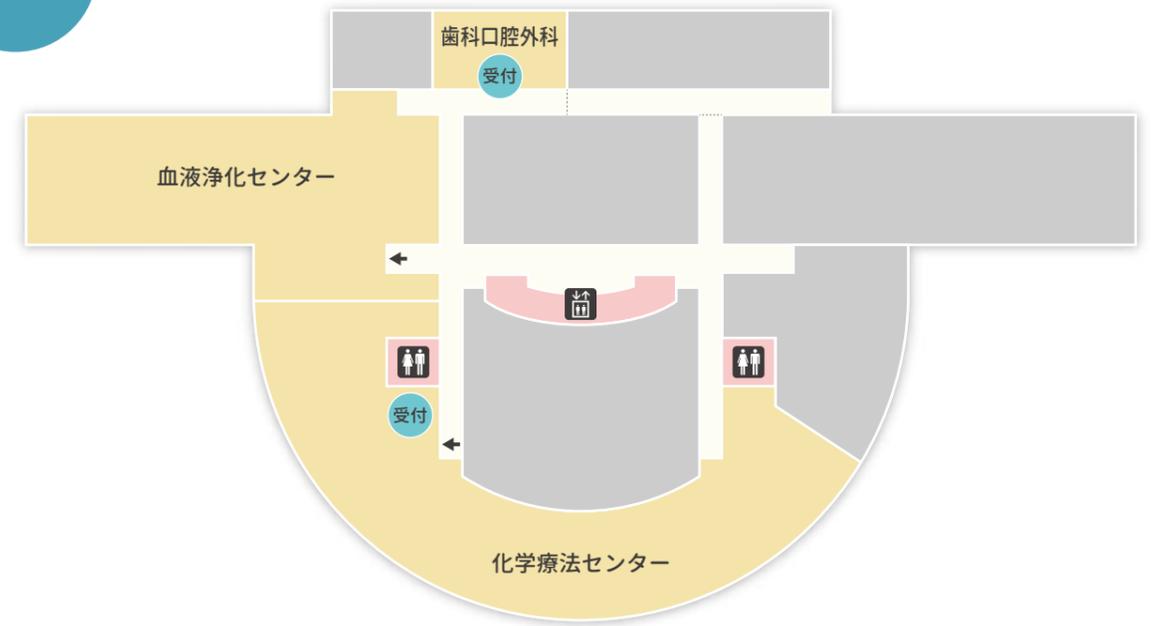
3F



4F



6F



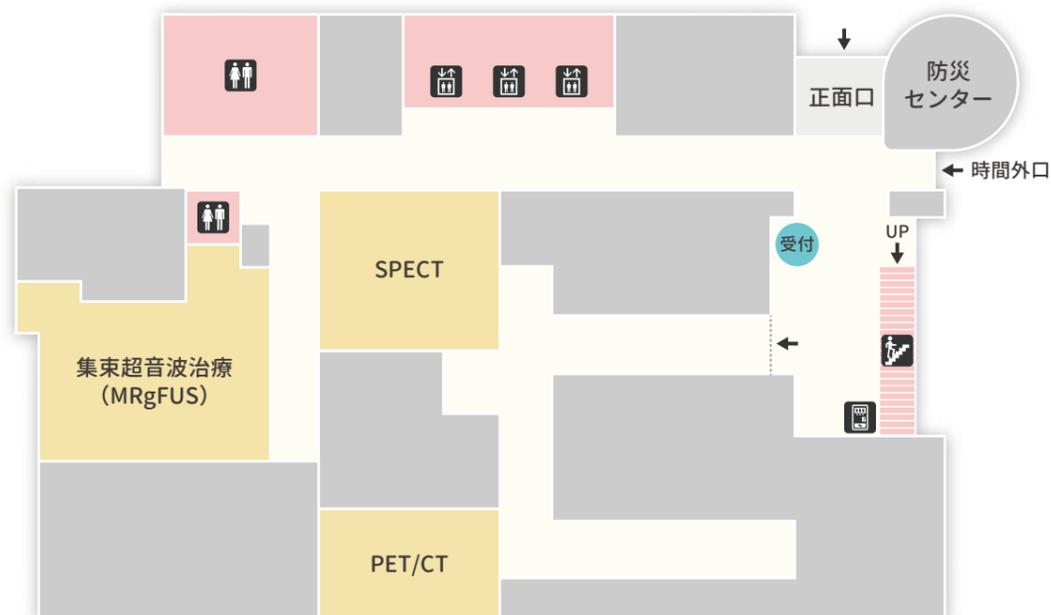
5F



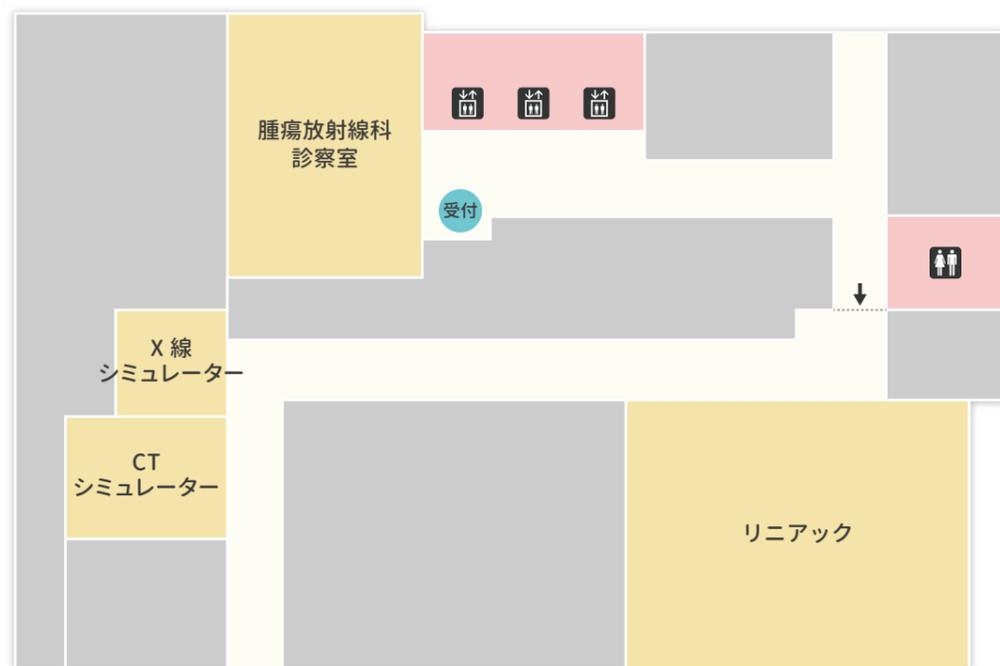
トイレ
 エレベーター
 階段
 飲料自動販売機

外来フロア（新館）の紹介

1F



B1F



トイレル エレベーター 階段 飲料自動販売機

目次

理事長・病院長挨拶 P1
 医学研究所北野病院 概要 P2
 外来フロアの紹介 P4
 目次 P9

地域医療サービスセンター P10

地域医療サービスセンター P11
 ファクシミリ診療予約依頼書 P13
 セカンドオピニオンについて P14
 セカンドオピニオン申込書 P15
 登録医制度・開放型病床について P16
 開放型病床入院申込書 P17
 開放型病床入院同意書 P18
 入退院サポートステーション P19

診療科のご案内 P20

診療センター

救急部 救急科 P21
 消化器センター 消化器内科 P22
 消化器センター 消化器外科 P24
 心臓センター 循環器内科 P25
 心臓センター 不整脈科 P26
 心臓センター 心臓血管外科 P27
 呼吸器センター 呼吸器内科 P28
 呼吸器センター 呼吸器外科 P29
 神経センター 脳神経内科 P30
 神経センター 脳神経外科 P31

内科系診療科

腫瘍内科 P32
 放射線治療センター 腫瘍放射線科 P33
 糖尿病内分泌内科 P34
 腎臓内科 P35
 小児科 P36
 リウマチ膠原病内科 P38
 血液内科 P39
 神経精神科 P40
 緩和ケアセンター / 緩和ケア科 P41

外科系診療科

乳腺外科 P42
 整形外科 P43
 形成外科 P44
 皮膚科 P45
 アイセンター (眼科) P46
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 P47
 歯科口腔外科 P48
 泌尿器科 P49
 小児外科 P50
 産婦人科 P51

支援系診療科・部門

麻酔科・集中治療部 P52
 中央手術部 P53
 放射線診断科 P54
 病理診断科 P55
 感染症科 P56
 健康管理センター・人間ドック P57
 リハビリテーション科 P58
 栄養部 P59
 看護部 P60
 薬剤部 P61
 支援部門 P62
 支援部門 (チーム医療) P66
 がん診療センター P70
 最新機器紹介 P72

医学研究所北野病院FAQ ～よくある質問～ P73

地域医療 サービスセンター

地域医療サービスセンター

当センターは、地域の医療機関様と連携し、患者さんに高水準かつ一貫性のある医療を迅速に提供することを目的としています。ご紹介いただきます患者さんの診療予約・検査予約のスムーズな手続きなどのサービスを行っています。



主な業務

地域医療係

- 紹介患者さんの受診予約
- かかりつけ医のご紹介
- 当院への転入院相談
- 医療機関からの救急受診手配
- 医療機関からの検査予約

入院係

- 入院に関する各種手続き
- 高額療養制度のご案内
- 出産育児一時金の手続き
- 入院患者さんの病棟へのご案内

医療相談係

- 在宅退院支援
- 転院支援
- その他相談支援



診察申し込みから当日受付までのフロー

当院に対して診察・検査などのご利用については、地域医療サービスセンターへ「ファクシミリ診療予約依頼書」(13ページ)をFAXでお送りいただきますと、当該診療科・部門と調整を行い、診察・検査日をFAXで「予約通知書」にてご返信いたします。 ※必要に応じて診療情報提供書を取り寄せさせていただくことがあります。



- 患者さんへは、ご受診日当日に「予約通知書」「診療情報提供書」「健康保険証」をお持ちの上、当院1階初診受付の「紹介患者窓口」へお越しいただくよう、ご案内願います。
- 入院治療につきましては、当該診療科をご受診の上、ご症状により、担当医が説明・指示させていただきます。

予約可能な検査

医学研究所北野病院では、地域の医療機関から各種検査のみの直接予約をお受けしています。

- 検査結果は、ご依頼いただいた医療機関宛に郵送いたします。
- ご依頼元の医療機関より、検査を受けられた患者さんへ結果のご説明・ご報告をお願いいたします。
- お申し込み書類は、当院ホームページの地域医療サービスセンター → 診療・検査予約ページよりダウンロードいただけます。

申し込み方法	
CT	放射線検査申込書 兼 診療情報提供書に必要事項をご記入の上、地域医療サービスセンターへFAXで送信してください。
MRI	
PET	※希望日時・・・決定した検査日時 ※紹介目的・・・依頼検査項目
RI	
骨密度	
インプラント	
胃透視	
注腸透視	
腹部エコー	
甲状腺エコー	
胃内視鏡(鎮静なし)	※ポリペクトミーなどの内視鏡治療は原則入院施行

お問い合わせ

地域医療係

TEL.06-6131-2955
FAX.06-6312-8620

〈受付時間〉

- 月曜日～金曜日 / 8:45～19:00

医療相談係

TEL.06-6131-2956

※FAXは24時間受信していますが、受付時間後のFAXは、翌営業日のお返事となります。

〈受付時間〉

- 月曜日～金曜日 / 8:45～17:25

送信先：医学研究所北野病院 地域医療サービスセンター FAX:06-6312-8620 FAX 診察予約依頼書

紹介元医療機関	記載日：西暦	年	月	日
名称	医師名	印		
住所 〒	担当者名			
	電話	—	—	
	FAX	—	—	

■紹介先
受診科 (医師の指定があれば：) 医師)

■患者情報
希望日 ① 月 日 ② 月 日 ③ 月 日
受診歴 有 [ID:] 無 不明
保 険： 国保 協会 共済 組合 後期高齢 生保 私費 交通事故 労災 公費
自己負担割合： 1割 2割 3割

フリガナ		実母の氏名(必須)
氏名	(旧姓) (男・女)	姓 名
西暦	年 月 日生 歳	
住所 〒		
電話	— —	

※カルテの二重登録防止の為、ご記入下さい。

現 状 入院中 外来通院中 透析中(施行曜日：)
来 院 本人 家族のみ ※患者様が来院されない場合は保険適応外。
移動方法 ストレッチャー 車いす 歩行
外国の方 日本語(可・不可) 英語(可・不可) 通訳同行(可・不可) 日本の健康保険証(有・無)

依頼内容 診察(翌日以降の外来・当日救急外来)
★放射線検査は「放射線検査専用の申込書」でお申込み下さい。
 検査(エコー：腹部・甲状腺)
(上部内視鏡：経口・経鼻 抗血栓薬：(無・有[薬剤名]))
★鎮静希望は、まず消化器内科の外来を受診して下さい。

病名・症状 ★かならず「診療情報提供書(紹介状)」を添付送信して下さい。
.....
.....
.....

受付：月～金 8:45～19:00

休診日：土・日・祝日・12月29日～1月3日
受付時間終了後の申込みは「翌日のお返事」となります。
問合先：地域医療サービスセンター TEL 06-6131-2955(直通)

セカンドオピニオンについて

50103D03001

当院では、「セカンドオピニオン」として、現在の診療内容や治療方針について主治医以外の専門医が意見を提供し、患者さんやそのご家族さんに治療法を選択する際の参考にさせていただいています。

下記の事例での相談は受け付けていません

- 主治医が了解していない場合
 - 現在受診中の病院・主治医に対する不満
 - 医療過誤および裁判係争中に関する相談
 - 医療費の内容、医療給付に関わる相談
 - 死亡された患者さんを対象とする場合
 - 患者さん・ご家族さん以外からの相談
 - 相談内容が、当院の専門外の場合
 - 「診療情報提供書」、検査データ、画像データなどの資料、また当院が指定した資料をお持ちでない場合
- ※当院で診療を受けており、他院でのセカンドオピニオンをご希望される場合、主治医にご相談ください。

料金 一回 **3万3,000円** (税込) ※相談時間は30分～1時間程度

お申し込み方法

① セカンドオピニオン利用申し込み

- お申し込みは医療機関からのみ受け付けています。患者さんからの直接のお申し込みは受け付けていません。
- セカンドオピニオンは原則、予約が必要となります。
- 患者さんの「診療情報提供書(紹介状)」・検査データ・画像データなどの資料をお手元にご準備ください。
- セカンドオピニオン申込書(19ページ)に必要な事項を記入の上、FAXにてお送りください。

FAX. 06-6312-8620

② 日程の調整

お送りいただいた申し込み内容を担当診療科の専門医師が確認し、相談が可能かどうかを判断させていただきます。その後、相談日時を決定し、ご連絡いたします。

- ※お申し込みいただいてから相談までに、数日かかる場合がございます。
- ※確認事項などがある場合、お電話にてご連絡をさせていただく場合がございます。
- ※ご相談内容・診療科により、前もって「診療情報提供書(紹介状)」をお届けいただく場合がございます。
- ※内容によっては、通常の外来受診のご案内や、セカンドオピニオンをお断りさせていただく場合もあります。あらかじめご了承ください。

③ セカンドオピニオン当日

相談日当日は予約時間の10分前に、資料一式をお持ちの上、当院1階・地域医療サービスセンターまでお越しください。

オンライン・セカンドオピニオンを始めました

詳しくは当院ホームページをご確認ください。
https://www.kitano-hp.or.jp/section/local/online_2nd



セカンドオピニオン申込書

(医療機関からのみ申込みができます)

申込日 西暦 年 月 日

■ご紹介医療機関の情報

医療機関名			
所属部署		事務担当	
住所	〒		
TEL	()	FAX	()

■患者様の情報

フリガナ			生年月日	
氏名	男・女	西暦	年	月 日 歳
当院受診歴	有 無	当院ID		
住所・TEL	〒		TEL ()	
希望する診療科	科 (希望の医師があれば)		医師)	
都合の悪い日時				
相談事項	※必ず診療情報提供書(紹介状)を添えてお申し込みして下さい。			
持参資料	<ul style="list-style-type: none"> ・診療情報提供書(紹介状) ・画像データ(CT MRI X線フィルム) ・検査データ(血液 病理 内視鏡 エコー) ・カルテの写し 			

FAX番号 06-6312-8620
 TEL番号 06-6131-2955
 医学研究所北野病院 地域医療サービスセンター

開放型病床入院申込書

公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院
地域医療サービスセンター御中

FAX 06-6312-8620

受診科	科	医師名	先生
紹介元医療機関		TEL	
		FAX	
医師名			
受診希望日： 西暦 年 月 日 ()			

フリガナ		性別
患者氏名		男・女
生年月日	西暦 年 月 日 (歳)	
住所	〒	TEL ()

【傷病名】
【紹介目的】
【既往症・家族歴】
【症状の治療・経過及び検査結果】
【現在の処方】
【備考】

登録医制度について

当院の登録医は、当院の理念と本制度の趣旨を賛同・承諾の上、当院制定の登録医届出書を提出された方のうち、当院病院長が認定した方を指します。本制度は、当院が登録医からの紹介患者さんに対して、高水準かつ一貫性のあるより良い医療を提供するために、診療の連携と医療技術の向上および研鑽に努めることを目的としています。

※登録医としての認定期間は登録後1年間としており、当事者のどちらか一方より、何らかの異議がなければ自動更新しています。
※北野病院または開放型病床運営協議会が、登録医として不適切と判断した場合には、その時点で登録を抹消することがございます。

登録を希望いただける場合、地域医療サービスセンターへご連絡をお願いいたします。
必要書類を送付させていただきます。

開放型病床について

「開放型病床」とは、地域医療機関の登録医と当院の医師が共同して患者さんの治療を行える病床のことを指します。高水準かつ一貫性のある医療を地域住民に提供することを目的としています。

ご利用方法

- ① 患者さんの同意を得る**
登録医は患者さんに開放型病床について説明し、「開放型病床入院同意書」(17ページ)を患者さんより得てください。
- ② 当院への入院のための診察申し込み**
登録医は、「開放型病床入院申込書」(16ページ)を当院へFAX送付してください。
※開放型病床入院申込書には、傷病名・主訴・既往歴・治療経過などを記載してください。
- ③ 「開放型病床入院確認書」の受取**
当院から登録医へ「開放型病床入院確認書」をFAX送付いたします。
※入院日は外来を受診後決定いたします。
- ④ 患者さん紹介(患者さん受診)**
患者さんには下記の資料を持参し受診していただけます。
● 診療情報提供書(紹介状) ● 開放型病床入院確認書
● 開放型病床入院同意書 ● 健康保険証・その他医療証
- ⑤ 患者さん訪問(患者さん入院後)**
来院日時を地域医療サービスセンターへご連絡ください。
手続き方法についてご説明させていただきます。

登録医制度・開放型病床についてのお問い合わせは

地域医療サービスセンター

TEL.06-6131-2955
FAX.06-6312-8620

〈受付時間〉
● 月曜日～金曜日 / 8:45～19:00

開放型病床入院同意書

紹介医療機関名： _____

医 師 名： _____

この度、開放型病床についての説明を十分に聞き納得しましたので、公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の開放型病床に入院する事に同意いたします。

西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

住 所 _____

電 話 _____

氏 名 _____

代理人 _____ (続柄 _____)

入退院サポートステーション

当院は、PFM(Patient Flow Management)※を導入しています。具体的な介入は、予定入院の患者さんの健康状態・生活背景を把握し、多職種とのチーム連携で問題解決を行いながら、入院前から退院後までの流れをマネジメントしています。

※ PFM：入院前から退院後までの流れの管理を行います。



入退院サポートステーションの方針

① 標準化した入院・手術のマネジメント

- クリニカルパスを使用することで入院期間・治療の標準化を図ります。患者さんには外来の段階で患者さん用のクリニカルパスを用いて入院前から治療や経過などの教育をさせていただきます。

予定入院患者さんにクリニカルパスを使用

入院日数の
目安が分かる

患者パス使用
患者教育



② 入院前から多職種連携のマネジメント

入院前から多職種連携し、患者満足度の上昇に向け質の高い安全・安心な医療を提供させていただきます。

- **看護師**
患者さん情報の聴取、入院生活に関する説明、患者パスの説明
- **薬剤師**
服薬中の薬剤確認、中止薬の説明
- **栄養士**
食物アレルギーの確認、栄養・嚥下の確認
- **MSWや認定看護師など**
社会資源や介護に関する情報提供、退院後の生活に関する相談



③ 地域連携パスによるかかりつけ医との連携

急性期病院として、治療後は逆紹介によりかかりつけ医と連携を強化させていただきます。2人の主治医が連携しているという安心感を患者さんにご提供させていただきます。

〈入退院サポートステーションで運用中の地域連携パス〉

- 大腸がんパス ● 乳がんパス
- 胃がんパス ● 心不全パス
- 胃ESDパス



きたのん



サポちゃん

診療科のご案内

救急部 救急科

強い熱意と誠意をもって救急医療に取り組む

今日の救急医療現場では、年齢、性別、重症度、罹患臓器に関わらず、短時間での対応を迫られる場合が多く、従来の各診療科での縦割り方式では対応できない場面が多くみられます。当院救急科は、あらゆる領域の救急患者さんの初期診療に対し適切な診断と治療を行い、強い熱意と誠意をもって救急医療に取り組んでいます。

救急科を受診される際のお願い

当院での受診を希望される場合は、必ず前もってお電話をいただきますようお願いいたします。患者さんには迅速かつ安心していただけるような診療を心がけていますが、重症の患者さんが来られた場合には、すぐには診察ができずご迷惑をおかけすることがあります。また、他病院へのご紹介をさせていただかなければならないこともありますので、ご容赦のほど宜しくお願い申し上げます。

救急医療体制

救急外来エリアには重症患者さんの集学的な治療が行える初期治療室および救急処置ブース14床を有しています。時間内は救急科専従医(日本救急医学会指導医1名、専門医1名含む)の医師が1次～3次救急(循環器、脳血管障害など)患者さんの初期診療に当たり、各診療科と連携することで患者さんの治療戦略を立てています。時間外では専門的な検査・治療が必要となる症例に備えて、すべての科がバックアップ待機体制を敷いています。

スタッフ紹介



主任部長

平川 昭彦 (ひらかわ あきひこ)

〈専門領域〉

- 救急全般
- 外傷
- 熱傷
- 災害医療
- 中毒

資格など

- 医学博士
- 日本救急医学会認定指導医
- 日本外傷学会 専門医
- 日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- 日本職業・災害医学会認定労災補償指導医
- 日本職業・災害医学会認定海外勤務健康管理指導医
- 日本DMAT・統括DMAT隊員
- 名古屋市立大学医学部客員教授
- 臨床研修指導医講習会修了
- 日本救急医学会認定専門医
- 日本外科学会外科専門医
- 日本腹部救急学会教育医
- 日本中毒学会認定トキシコロジスト
- 災害医療コーディネーター
- 京都大学医学部臨床教授
- プログラム責任者養成講習会修了

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	資格など
王 徳雄 (おう とくお)	医員	日本救急医学会認定専門医

● 非常勤医師 1名

診療対象となる主な疾患

- 1次から3次救急疾患(循環器、脳血管障害など)に対応

※左記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

受付について

時間内

- 平日 / 8:45 ~ 17:25

地域医療サービスセンター(TEL: 06-6131-2955)にご連絡ください。地域連携担当者(看護師・事務)が対応します。

時間外

左記時間以外および土曜・日曜・祝日・年末年始
時間外受付(TEL: 06-6312-1221)にご連絡ください。

- 救急
- 消内
- 消外
- 循内
- 不整脈
- 心外
- 呼内
- 呼外
- 脳内
- 脳外
- 腫内
- 放治療
- 糖内
- 腎内
- 小児
- リ膠
- 血内
- 精神
- 緩和
- 乳腺
- 整形
- 形成
- 皮膚
- 眼科
- 耳鼻
- 歯科
- 泌尿
- 児外
- 産婦
- 麻酔
- 手術
- 放診断
- 病理
- 感染
- 健診
- リハ
- 栄養
- 看護
- 薬剤
- 支援
- チーム
- がん

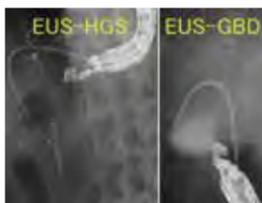
消化管部門

早期の食道・胃・大腸がんに対して、精密な内視鏡診断に基づいた内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行っています。また、小腸を含めた様々な消化管出血に対する診断および内視鏡による止血処置を行うとともに、大腸憩室出血に対しては内視鏡的バンド結紮術(EBL)を行っています。緩和医療の一環として、悪性消化管閉塞に対する消化管ステント留置術なども行っています。



胆膵部門

膵がん・胆道がんに対しては、精度の高い画像および内視鏡診断と超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)などによる病理組織学的診断を行うとともに、消化器外科と連携し、術前化学療法なども併用した集学的治療を行っています。乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術や、超音波内視鏡(EUS)を用いた悪性胆道狭窄に対する経消化管的な胆道ドレナージなど最新の内視鏡的治療にも取り組んでいます。



肝臓部門

局所治療の適応となる肝細胞がんに対しては、経皮的穿刺治療(エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法)を行っています。肝外転移を伴うなど局所治療の適応とならない肝細胞がんや肝動脈化学塞栓療法(TACE)効果が十分でない肝細胞がんに対しては、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬による全身化学療法を行っています。

炎症性腸疾患部門

軽症から中等度の活動性を有する潰瘍性大腸炎に対しては、5-ASA製剤やステロイド製剤の他、血球成分除去療法を積極的に導入することにより副作用の少ない治療法による寛解導入をめざしています。その一方、重症例に対しては、タクロリムスなどの免疫抑制剤やTNF-α抗体製剤などを使用することにより、大腸全摘術を回避するように努めています。クローン病に対しては、ステロイドの他、免疫抑制剤や抗TNF-α抗体製剤を積極的に用い、できる限り日常生活を続けながら外来で治療できる体制を整えています。



診療対象となる主な疾患

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 食道 <ul style="list-style-type: none"> 食道がん 食道静脈瘤 食道粘膜下腫瘍 逆流性食道炎 | 小腸 <ul style="list-style-type: none"> 原因不明の消化器出血 小腸腫瘍 クローン病 小腸結核 非特異性小腸潰瘍 腸管ペーチェット病 | 肝臓 <ul style="list-style-type: none"> 急性肝炎 慢性肝炎 劇症肝炎 ウイルス性肝炎(B型・C型など) 肝臓がん 肝内胆管がん 肝細胞がん 肝嚢胞 肝臓腫瘍 肝良性腫瘍 急性肝不全 肝硬変 原発性胆汁性肝硬変 脂肪肝 薬物性肝障害 ウィルソン病 肝不全 肝腫瘍 自己免疫性肝疾患 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH) ヘモクロマトーシス 特異性門脈圧亢進症 | 胆嚢・胆管 <ul style="list-style-type: none"> 急性胆嚢炎 胆嚢ポリープ 胆嚢結石 総胆管結石 胆嚢がん 胆管がん 閉塞性黄疸 胆石 胆管結石 原発性硬化性胆管炎 |
| 胃 <ul style="list-style-type: none"> 胃潰瘍 胃ポリープ 胃炎 胃癌 胃マルトリリンパ腫 胃粘膜下腫瘍 胃悪性リンパ腫 胃静脈瘤 上部消化管出血 | 大腸 <ul style="list-style-type: none"> 大腸がん 大腸ポリープ 潰瘍性大腸炎 下部消化管出血 感染性腸炎 大腸憩室 虫垂炎 腸管ペーチェット病 | 膵臓 <ul style="list-style-type: none"> 急性膵炎 慢性膵炎 膵石 膵臓がん 膵内分泌系腫瘍 | |
| 十二指腸 <ul style="list-style-type: none"> 十二指腸潰瘍 十二指腸腫瘍 十二指腸乳頭部腫瘍 | | | |

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

スタッフ紹介



主任部長 兼 低侵襲治療センター長
兼 消化器センター長

八隅 秀二郎(やずみ しゅうじろう)

〈専門領域〉

- 消化器一般
- 胆膵領域の疾患の診断・治療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本消化器病学会消化器病専門医
- 日本消化器病学会評議員
- 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
- 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医
- 日本消化器内視鏡学会評議員
- 日本胆道学会認定指導医(内視鏡診断治療・経皮経肝の診断治療・癌薬物治療)
- 日本膵臓学会認定指導医(膵炎治療・内視鏡診断治療・癌薬物治療)
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本内科学会内科指導医
- 日本消化器病学会消化器病指導医
- 日本消化器病学会近畿支部評議員
- 日本消化器内視鏡学会近畿支部評議員



部長
高 忠之(こう ただゆき)

〈専門領域〉

- 消化器がんの薬物治療
- がんゲノム医療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本消化器病学会消化器病専門医
- 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
- 日本肝臓学会肝臓指導医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会内科指導医
- 日本消化器病学会消化器病指導医
- 日本肝臓学会肝臓専門医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
廣橋 研志郎(ひろはしけんじろう)	副部長	消化器内科一般、消化管疾患の診断・治療、消化器がんの薬物治療
東 俊二郎(あずましゅんじろう)	副部長	消化器内科一般、胆膵領域の疾患の診断・治療
森田 敏広(もりたとしひろ)	副部長	消化器内科一般、胆膵領域の疾患の診断・治療
中野 重治(なかのしげはる)	副部長	消化器内科一般、肝疾患の診断・治療
吉川 貴章(よしかわ たかあき)	副部長	消化器内科一般、消化管疾患の診断・治療

医師名	役職	医師名	役職
中神 聡太(なかがみ そうた)	医員	大沢 一希(おおさわ かずき)	医員
伊藤 凌(いとうりょう)	医員	池谷 桃子(いけたに ももこ)	医員
岩野 光佑(いわたの こうすけ)	医員	勝山 苑香(かつやま そのか)	医員

- 専攻医 5名
- 非常勤医師 4名

消化器センター 消化器外科

高度な専門的外科診療と腹腔鏡手術適応拡大に向けた取り組み

上部消化管・下部消化管・肝胆膵の各領域に特化した診療経験豊富な指導医のもとに、専門性の高い最新の外科診療を行っています。手術については、低侵襲手術である腹腔鏡手術の適応を拡大し、ロボット支援手術も導入しています。ぜひご相談ください。

地域との積極的な病病・病診連携

がん地域連携パスなどを用いたチームとしての地域医療病々・病診連携のシステム構築をめざしています。綿密な報告・連絡・相談を実践し「気持ちを通じ合える連携」が生まれるように努力します。

多職種/多部門を交えたチーム医療

多くの専門的知識と臨床経験を有する上級医と若手医師が複数で患者さんを担当する「チーム診療体制」を取っており、症例によっては多職種/多部門による横断的協議(消化器センターカンファレンス、カンサーボードなど)で診療方針を決定しています。

集学的治療によるブレイクスルー

切除不能な高度進行悪性腫瘍に対し、化学療法や化学放射線療法により腫瘍縮小が得られ、切除可能になった集学的治療有効症例(食道がん、大腸がん、膵がん、転移性肝がんなど)も多数経験しています。



スタッフ紹介



主任部長 兼 消化器センター副センター長
田浦 康二郎 (たうら こうじろう)

〈専門領域〉

- 肝胆膵外科
- 消化器外科
- 肝移植
- 腹腔鏡手術

資格など

- 日本外科学会認定医
- 日本外科学会指導医
- 日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本肝臓学会肝臓専門医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学医学部附属病院医師臨床研修指導医講習会修了
- 近畿外科学会評議員
- 日本外科学会外科専門医
- 日本移植学会移植認定医
- 日本消化器外科学会指導医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学医学部臨床教授
- 医学博士



副院長 兼 部長
兼 がん診療センター長 兼 地域医療連携本部長
兼 地域医療サービスセンター長
寺嶋 宏明 (てらしま ひろあき)

〈専門領域〉

- 肝胆膵外科
- 消化器外科
- ヘルニア外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会指導医
- 日本消化器外科学会指導医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学先端・国際医学講座客員准教授
- 日本外科学会外科専門医
- 日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 近畿外科学会評議員
- 京都大学医学部臨床教授

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
福田 明輝 (ふくだ めいき)	副部長	大腸外科、消化器外科、結腸がん・直腸がん、腹腔鏡手術、腹部救急
田中 英治 (たなか えいじ)	副部長	食道・胃外科、内視鏡外科、消化器外科
井口 公太 (いぐち こうた)	副部長	肝胆膵外科、消化器外科

医師名	役職	医師名	役職	専攻医 3名
奥知 慶久 (おくち よしひさ)	医員	山本 健人 (やまもと たけひと)	医員	● 専攻医 3名
河合 隆之 (かわい たかゆき)	医員	久野 晃路 (ひさの こうじ)	医員	
仲野 健三 (なかの けんぞう)	医員			

診療対象となる主な疾患

食道	胆道	慢性膵炎	消化管間葉系腫瘍
● 食道がん	● 胆管がん (肝門部胆管がん、肝外胆管がん)	● 膵管癒合不全	(GIST)
● 食道裂孔ヘルニア	● 胆嚢がん	● 外傷性膵破裂	● 神経内分泌腫瘍
● 逆流性食道炎	● 乳頭部がん	● 脾臓	● 後腹膜腫瘍
● 特異性食道破裂	● 胆石症 (胆嚢結石、胆管結石)	● 脾腫瘍	救急・その他
胃・十二指腸・小腸	● 胆嚢炎 (急性/慢性)	● 外傷性脾破裂	● 急性腹症
● 胃がん	● 胆嚢腺筋腫症	ヘルニア	● 腸閉塞
● 胃・十二指腸潰瘍	● 胆嚢ポリープ	● 鼠径ヘルニア	● 腹膜炎
● 十二指腸がん	● 総胆管拡張症	● 大腿ヘルニア	● 腹腔内出血
● 小腸腫瘍	● 膵管胆管合流異常	● 臍ヘルニア	● 消化管出血
大腸	膵臓	● 腹壁癆痕ヘルニア	● 内臓動脈瘤
● 大腸 (結腸・直腸) がん	● 膵がん	● 腫瘍	(肝動脈瘤、脾動脈瘤 など)
● 潰瘍性大腸炎	● 急性膵炎	● 消化管悪性リンパ腫	● 後腹膜腫瘍
● クローン病			

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 循環器内科

経皮的冠動脈インターベンション (PCI)

冠動脈造影におけるFFR測定、冠動脈CTにおけるFFR測定 (FFR CT)、負荷心筋シンチにおける心筋虚血を精査しPCI適応を正確に判断しています。最良の予後を達成すべく血管内エコーなどで病変を精密に評価しロータブレード、IVL(衝撃波血管内碎石術)、エキシマレーザーなどの高度な治療機材を駆使して治療を行っています。

高齢心不全患者の早期退院の取り組みと地域心不全チーム医療

入院早期からのリハビリテーション、入院中の患者教育、退院後の生活のサポートを行って早期退院と再入院減少を達成しています。このような先進的な取り組みを「大阪心不全地域医療連携の会(OSHEF)」を通じて広い地域で活用いただいています。

下肢閉塞性動脈硬化症の治療

間欠性跛行を有する患者さんの治療のみならず、近年増加しつつある重症下肢虚血の症例にも取り組んでいます。完全閉塞病変に対する高度な血行再建を施行することに加えて、皮膚科、形成外科とのチーム医療でできる限り足趾を温存できるように心がけています。

ダイレクトコール 患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

1. 循環器内科 主任部長
2. 循環器内科 日直・当直
(1につながらないとき、夜間、休日)



スタッフ紹介



主任部長
兼 心臓センター長 兼 医療情報部長
猪子 森明 (いのこ もりあき)

〈専門領域〉

- 心不全
- 虚血性心疾患

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本循環器学会循環器専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医
- 京都大学臨床教授
- 徳島大学臨床教授



部長
中根 英策 (なかね えいさく)

〈専門領域〉

- 心不全
- 虚血性心疾患
- 運動療法

資格など

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会内科指導医
- 日本循環器学会循環器専門医
- 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション認定医
- ACLS assistant instructor

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
福田 弘毅 (ふくだ ひろき)	副部長	心不全、虚血性心疾患
山地 雄平 (やまぢ ゆうへい)	副部長	冠動脈、末梢血管のインターベンション治療
北野 真理子 (きたの まりこ)	副部長	心臓弁膜症、心エコー
柴 昌行 (しば まさゆき)	副部長	循環器一般、集中治療医学

医師名	役職	● 専攻医 2名
濱口 桃香 (はまぐち とうか)	医員	● 非常勤医師 1名
齊藤 亘 (さいとう わたる)	医員	
山本 裕貴 (やまもと ゆうき)	医員	

診療対象となる主な疾患

● 感染性心内膜炎	● 高血圧	● 心臓腫瘍	● 先天性心疾患
● 急性動脈閉塞	● 心筋炎	● 心臓弁膜症	● 大動脈解離
● 狭心症	● 心筋梗塞	● 深部静脈血栓症	● 肺血栓栓症
● 大動脈瘤	● 心筋症	● 心不全	● 閉塞性動脈硬化症

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 不整脈科

頻脈性不整脈(心房細動、心室頻拍)に対するアブレーション治療

他施設に先んじて、持続性心房細動、心房粗動へのアブレーション治療(高周波・クライオ)に取り組み、心不全患者さんの治療オプションとして確立させています。

また、最新のカルト、リズミア、エンサイトなどを駆使して、複雑な回路の心房粗動、心室頻拍にもアブレーションを積極的に行っています。

心臓デバイス治療(ペースメーカー、植込み型心臓除細動器など)

全ての心臓デバイス(ペースメーカー、CRT、ICD、S-ICD)手術・管理を行い、心房・心室のペースング部位の工夫を行い、心機能への影響を軽減させ、不整脈予防も行っています。

感染・不要心臓デバイスリード抜去

心臓デバイス植込み患者のリードに感染した場合や不要になったリードを抜去する必要がある場合には、ハイブリッド手術室にて、エキシマ・レーザーやメカニカル・シースを用いて、抜去が可能です。症例の難易度に応じて、心臓外科と連携して行います。

2023年度より新規導入した
リズミアマッピングシステム

左心耳閉鎖術

心房細動患者で、出血トラブルを繰り返す方で、抗凝固薬を中止したいケースで、血栓の温床である左心耳と左心房連結を閉鎖するデバイス植込みをハイブリッド手術室で行います。現在、施行開始に向けて準備中です。

ダイレクトコール 患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

1. 不整脈科 主任部長
2. 不整脈科 日直・当直
(1につながらないとき、夜間、休日)



スタッフ紹介



主任部長
春名 徹也 (はるな てつや)

〈専門領域〉

- 不整脈 ■ カテーテルアブレーション治療
- ペースメーカー植込手術・管理
- 植込み型心臓除細動器手術・管理 ■ 心臓再同期療法

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本循環学会循環器専門医
- 日本不整脈心電学会不整脈専門医
- 植込み型心臓除細動器(ICD)/CRT研修修了登録医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
張田 健志(はりた たけし)	副部長	不整脈、カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー植込手術・管理 植込み型心臓除細動器手術・管理、心臓再同期療法

医師名	役職	専門領域
木村 光輝(きむら こうき)	医員	不整脈、カテーテルアブレーション治療、ペースメーカー植込手術・管理 植込み型心臓除細動器手術・管理、心臓再同期療法

診療対象となる主な疾患

- 動悸・期外収縮
- 失神
- 心電図異常
- 頻脈性不整脈(心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍、WPW症候群、心室頻拍、心室細動)
- 徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック)
- ブルガダ症候群、QT延長症候群
- 左脚ブロック
- 心臓ペースメーカー・植込み型心臓除細動器
- 遺伝性不整脈

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

心臓センター 心臓血管外科

成人心臓・大血管手術すべてに対応

心臓血管外科では成人の冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢動脈疾患すべてに対応します。

狭心症・心筋梗塞に対する単独冠動脈バイパス術では心停止下、心拍動下冠動脈バイパス術を患者さんの病態に合わせて選択します。

僧帽弁閉鎖不全症に対しては可能な限り自分の弁を温存、修復する僧帽弁形成術を積極的に、抗凝固薬(血液をさらさらにする薬)をできるだけ飲まなくて済むよう、患者さんの生活の質を低くさせないよう努めています。

大動脈疾患に対しては高齢の患者さんには身体への負担の少ないステントグラフトによる治療も行っています。

今後は大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)など低侵襲治療の導入もめざします。

総合病院の強み

北野病院では、循環器内科、不整脈科、心臓血管外科が心臓センターという一つのチームでひとりひとりの患者さんについて議論し最善の治療を提供しています。そして呼吸器内科外科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科(透析)、消化器内科・外科をはじめ多くの診療科がそろった総合病院であり、総合力で術前術後の治療を行っています。伝統的に心臓リハビリにも力をいれており、早期回復のお手伝いをしています。

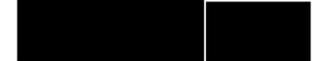
患者さんに安心して手術を受けていただけるよう医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、放射線技師など多職種が力を合わせて治療にあたっています。



ダイレクトコール

患者さんのご紹介、相談につきましては
ご遠慮なく下記までお電話ください。

心臓血管外科 主任部長



スタッフ紹介



主任部長 兼 心臓センター副センター長
兼 臨床工学部長

金光 ひでお (かねみつ ひでお)

〈専門領域〉

- 成人心臓血管外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定外科専門医
- 日本外科学会認定外科指導医
- 心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医
- 心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科修練指導者



特任部長

荻野 均 (おぎの ひとし)

〈専門領域〉

- 心臓血管外科全般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会認定外科指導医
- 日本胸部外科学会認定指導医
- 心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医
- 心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科修練指導医
- 日本循環器学会認定専門医
- 日本脈管学会認定脈管専門医
- 植込型補助人工心臓実施医

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
森島 学(もりしま まなぶ)	副部長	

- 非常勤医師 1名

診療対象となる主な疾患

冠動脈疾患に対する外科治療

- 冠動脈バイパス術
- 心拍動下冠動脈バイパス術

弁膜症に対する外科治療

- 大動脈弁置換術
- 僧帽弁形成術
- 三尖弁形成術
- 大動脈弁温存基部置換術
- ベントール手術

大動脈瘤に対する外科治療

- 弓部大動脈瘤人工血管置換術
- 胸部大動脈瘤ステントグラフト治療
- 腹部大動脈瘤人工血管置換術
- 腹部大動脈瘤ステントグラフト治療

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

呼吸器センター 呼吸器内科

多彩な呼吸器疾患に対して最新の医療を提供するとともに、全人的な診療を

肺がん、肺炎、喘息・COPD、間質性肺疾患、呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群など多彩な呼吸器疾患に対して最新の医療を提供するとともに、複雑な病態や併存症を有した患者さんに対してもチーム医療や他科との密な連携により全人的な診療をめざします。

間質性肺疾患患者において新しい診療スタイルを

特発性肺線維症 (IPF) は原因不明の予後不良疾患として知られていますが、慢性過敏性肺炎などの鑑別が困難です。当科では、問診や環境調査などによりまず過敏性肺炎の可能性を徹底的に追求し、その原因抗原を除去することで成果を上げています。

呼吸器疾患を通じて地域連携の充実を

北区薬剤師会や保険薬局と協力で「吸入指導ネットワーク」を立ち上げ、喘息やCOPD患者の吸入療法の正しい手技の取得やアドヒアランス向上に大きく貢献しています。また、「地域包括呼吸ケアを考える会」などを通じて、地域の医療・介護スタッフとの連携を深めています。

慢性呼吸不全患者の最善の在宅呼吸ケアを追求

様々な非侵襲的モニタリングを用いて、慢性呼吸不全患者の病態をより正確に解明することで、それに適した在宅呼吸ケアを選択・設定することが可能となっています。また在宅まで連続して行われる包括的リハビリテーションの確立をめざしています。



スタッフ紹介

副院長 兼 主任部長 兼 呼吸器センター長
兼 初期診療センター副センター長
兼 臨床医学研究推進本部長 兼 経営企画本部長
兼 医師卒後教育センター長 兼 医学研究所副所長

福井 基成 (ふくい もとなり)

〈専門領域〉

- 呼吸器内科全般
- 呼吸不全
- 睡眠呼吸障害

部長 兼 病院長補佐 (感染制御対策担当)
兼 感染制御対策室長

丸毛 聡 (まるも さとし)

〈専門領域〉

- 気管支喘息
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 抗酸菌症
- 間質性肺炎

部長 兼 感染制御対策室副室長
兼 医師卒後教育センター副センター長

井上 大生 (いのうえ だいき)

〈専門領域〉

- 呼吸器内科全般

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
北島 尚昌 (きたじま たかまさ)	副部長	呼吸器内科全般
森本 千絵 (もりもと ちえ)	副部長 (カデット)	
田嶋 範之 (たしま のりゆき)	副部長	

医師名	役職	専攻医	非常勤医師
神野 志織 (かんの しおり)	医員	5名	2名

診療対象となる主な疾患

● 肺がん	● 肺結核	● 気管支喘息	● 過敏性肺炎	● 薬剤性肺炎	● 肺高血圧症	● 気胸
● 中皮腫	● 非結核性抗酸菌症	● 好酸球性肺炎	● 器質性肺炎	● 血管炎	● 胸水	● 縦隔気腫
● 肺炎	● 肺膿瘍	● サルコイドーシス	● 膠原病肺	● 肺胞出血	● 胸膜炎	● 睡眠時無呼吸症候群
● 気管支炎	● 肺アルベスギルス症	● 間質性肺炎	● じん肺	● 肺血栓塞栓症	● 膿胸	● 呼吸不全
● 気管支拡張症	● 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)					

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

呼吸器センター 呼吸器外科

dual operatorの平行剥離による胸腔鏡手術

胸腔鏡手術において一人の術者だけのアプローチでは、手術操作の自由度にある程度の制限があります。そのため、私たちは開胸手術と同じ手術操作を心がけて、胸腔鏡下肺葉切除術における手術手技の標準化を行い、完全鏡視下手術で行っています。血管壁などの組織に対する緊張を最小限にする手術手技を基本としています (平行剥離)。そのため、術者と第一助手の共通認識のもと、4本の手が自由な角度から、安全で確実な手術操作を行っています。



バイオマーカーに基づく肺がん個別化化学療法

私たちは手術で摘出した肺がん組織における抗腫瘍剤関連バイオマーカーの発現を、北野病院の医学研究所で免疫組織化学法を用いて評価し、有効な抗がん剤の選択を行っています。TS発現が低い肺がんでは、5FU系またはPemetrexed (Pem) を中心とした化学療法を行います。TUBB3発現が低い肺がんでは、タキサン系を中心とした化学療法を行います。局所進行期肺がんにおける術後補助化学療法で有効性が認められています。



スタッフ紹介

主任部長
兼 呼吸器センター副センター長

大角 明宏 (おおすみ あきひろ)

〈専門領域〉

- 肺がんなど悪性腫瘍
- 肺移植
- 気胸
- 膿胸
- 縦隔腫瘍
- 胸壁腫瘍
- 感染性肺疾患
- その他呼吸器外科全領域
- 開胸拡大手術から低侵襲手術 (胸腔鏡手術、ロボット支援手術)

- 資格など
- 京都大学医学博士
 - 日本外科学会認定医
 - 日本外科学会指導医
 - 関西胸部外科学会評議員
 - 日本呼吸器外科学会評議員 (指導医)
 - 日本呼吸器外科学会胸腔鏡安全技術認定
 - 日本内視鏡外科学会技術認定 (呼吸器外科)
 - Certificate of da Vinci Console Surgeon
 - 日本呼吸器外科学会 ロボット支援手術プロクター (手術指導医)
 - 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡認定医
 - 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 - 臨床研修指導医講習修了
 - 麻酔科標榜医資格
 - 日本外科学会 外科専門医
 - 日本胸部外科学会認定医
 - 呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医

部長 兼 医学研究所副所長

黄 政龍 (こう せいりゅう)

〈専門領域〉

- 呼吸器外科全般
- 胸腔鏡手術

- 資格など
- 京都大学医学博士
 - 日本外科学会指導医
 - 日本呼吸器外科学会指導医
 - 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医
 - 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 - Active member of American Association for Cancer Research (AACR)
 - Active member of American Society of Clinical Oncology (ASCO)
 - 臨床研修指導医講習修了
 - 京都大学医学部臨床教授
 - 日本外科学会外科専門医
 - 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医
 - 日本呼吸器外科学会評議員
 - 日本胸部外科学会指導医
 - 日本肺癌学会評議員

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
長 博之 (ちやう ひろゆき)	副部長	呼吸器外科全般、胸腔鏡手術
尾田 博美 (おだ ひろみ)	副部長 (カデット)	呼吸器外科全般

医師名	役職	医師名	役職
平山 安見子 (ひらやま やすみこ)	医員	青野 泰正 (あおの たいせい)	医員

診療対象となる主な疾患

● 気胸	● 胸壁腫瘍	● 重症筋無力症	● 転移性肺腫瘍	● 肺がん
● 胸部外傷	● 縦隔腫瘍	● 手掌多汗症		

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経センター 脳神経内科

24時間365日、脳卒中急性期に対応

脳梗塞発症4.5時間以内の症例では、tPAの静注療法を行い、脳神経外科と連携して経皮的血栓回収療法へ移行します。いかに早く病院へ紹介いただくかが急性期脳卒中診療の鍵とされていますので、疑わしい症例ではまずはご一報いただければ幸いです。

筋力低下や感覚障害は、 神経伝導検査・筋電図検査で原因を診断

筋力低下やしびれの鑑別は多岐にわたります。適切な問診と神経学的診察、神経伝導検査・筋電図検査と画像検査から総合的に診断を行います。状況により各診療科と連携し治療選択肢を提案させていただきます。

ふるえや手の使いづらさ、動作緩慢、歩行障害があればご紹介を

当院はパーキンソン病や関連疾患症例を多数診療しています。希望に応じ検査入院の上で、診断および治療します。症例によっては薬物療法に加え、脳神経外科と連携し脳深部刺激療法やMRIガイド下集束超音波治療、経腸レボドパ持続注入療法も行います。

患者さんごとに環境調整を提案

杖や車椅子を利用する通院困難な神経難病の方のために、複数の病院および診療所が連携し、訪問診療を行うシステムを開始しています。独居の方やご家族の状況など様々な理由で通院困難な方はこちらにご相談ください。

スタッフ紹介

主任部長
金子 鋭 (かねこ さとし)

〈専門領域〉

- 脳神経内科学
- 神経科学

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定内科医
- 日本神経学会認定神経内科専門医
- 日本神経学会認定指導医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
小松 研一 (こまつ けんいち)	副部長	脳神経内科全般
宮本 将和 (みやもと まさかず)	副部長	脳神経内科全般、認知症
樽野 陽亮 (たるの ようすけ)	副部長	脳神経内科一般、パーキンソン病及びその類縁疾患、パーキンソン病に対するデバイス補助療法(脳深部刺激療法・レボドパカルビドパ経腸療法)
奥田 真也 (おくだ しんや)	副部長	パーキンソン病およびその類縁疾患
後藤 昌広 (ごとう まさひろ)	副部長	てんかん

医師名	役職	
辻村 敦史 (つじむら あつし)	医員	<ul style="list-style-type: none"> ● 専攻医 4名 ● 非常勤医師 1名

診療対象となる主な疾患

<ul style="list-style-type: none"> ● 一過性脳虚血発作 ● 運動ニューロン病 ● 炎症性脱髄性多発神経炎 ● 急性散在性脳脊髄炎 ● ギラン・バレー症候群 ● 筋萎縮性側索硬化症 ● 筋疾患 ● 頸動脈プラーク ● 視神経脊髄炎 ● シャルコマリートゥース病 ● 重症筋無力症 	<ul style="list-style-type: none"> ● 進行性核上性麻痺 ● 髄膜炎 ● 頭痛 ● 脊髄炎 ● 脊髄障害 ● 脊髄小脳変性症 ● 脊髄性筋萎縮症 ● 多系統萎縮症 ● 多発性筋炎 ● 多発性硬化症 ● 多発性単神経炎 	<ul style="list-style-type: none"> ● 椎骨脳底動脈循環不全症 ● てんかん ● 脳炎 ● 脳血管炎 ● 脳血管障害 ● 脳梗塞 ● 脳塞栓症 ● パーキンソン症候群 ● パーキンソン病 ● ハンチントン病 ● 皮質基底核変性症 	<ul style="list-style-type: none"> ● 皮膚筋炎 ● フィッシャー症候群 ● 複視 ● 片頭痛 ● 本態性振戦 ● 末梢神経障害 ● 無菌性髄膜炎 ● めまい ● ラクナ梗塞 ● ランバートイートン筋無力症候群
---	--	--	--

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経センター 脳神経外科

脳腫瘍の外科治療・集学的治療

良性脳腫瘍はできるだけ合併症を来さず、また悪性脳腫瘍は最大限の摘出と化学療法・放射線治療を併用する集学的治療を行います。治験の相談にも応じています。各種モニタリングや覚醒下手術で神経機能を温存する手術を行います。下垂体腺腫は間脳下垂体学会から内視鏡手術の施設認定を受けています。高精度な4K3D外視鏡を用いて聴神経腫瘍など繊細な操作が必要な手術も多く行っています。

最新の脳血管ハイブリッド手術

脳血管内治療と外視鏡手術を組み合わせたハイブリッド手術室で脳動脈瘤や内頸動脈狭窄症、治療を行っています。また超急性期脳梗塞、内頸動脈狭窄症や脳動脈瘤の治療を行う際に使用する最新の血管撮影装置が導入され、高精度な治療を行っています。24時間体制で脳卒中治療にあたり、特に脳梗塞の後遺症をできるだけ最小限にするよう、急性期血行再建治療に神経センターの20名以上の医師が取り組んでいます。



また、血管内治療が必要な脳動脈瘤や脳動脈静脈奇形、開頭手術が必要な脳卒中手術には脳血管内治療専門医・脳卒中の外科指導医・専門医が中心になり取り組んでいます。

機能的脳神経外科： 顔面けいれん・三叉神経痛・舌咽神経痛手術と 集束超音波治療による「きらい」ふるえの手術

顔面けいれんや三叉神経痛・舌咽神経痛に対する微小血管減圧術(神経減圧術)は本邦でも一、二の手術実施数となっております。また手足がふるえる本態性振戦やパーキンソン病に対して集束超音波治療による「きらい」手術を2021年から200名近い方に受けていただいております。

低侵襲脊椎手術による術後の早期回復

当科では整形外科、脳神経外科の両領域で認定される脊椎脊髄外科専門医2名が、手足のしびれから動かしにくさ、歩きにくさの原因となる脊椎・脊髄疾患に対して外科治療を行っています。筋肉・靭帯・骨組織を温存する低侵襲な手術であり(3cmの創部で行う頸椎椎弓形成術、低侵襲腰椎椎間固定術など)、患者さんには術後早期に日常生活に復帰していただいております。



スタッフ紹介

主任部長 兼 神経センター長 兼 脳卒中センター長
兼 地域医療サービスセンター副センター長
兼 病院院長補佐(地域医療連携担当)

戸田 弘紀 (とだ ひろき)

〈専門領域〉

- 脳腫瘍(髄膜腫、神経鞘腫、神経膠腫)
- 脳血管障害
- 脊椎・脊髄外科疾患
- 三叉神経痛
- 顔面けいれん
- 舌咽神経痛
- 脳深部刺激療法(パーキンソン病・振戦・ジストニア・斜頸・書痙)

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本脳神経外科学会脳神経外科専門医
- 日本脳神経外科学会脳神経外科指導医
- 日本脳卒中学会脳卒中専門医
- 日本脳卒中学会脳卒中指導医
- 日本脳卒中の外科学会技術指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本脊髄外科学会脊髄外科認定医
- 日本脊椎脊髄病学会・日本脊髄外科学会脊椎脊髄外科専門医
- 日本定位・機能神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医
- 京都大学臨床教授
- 京都大学非常勤講師
- 徳島大学臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
西田 南海子 (にしだ なみこ)	副部長	脳深部刺激療法、集束超音波治療、機能的脳神経外科、神経内視鏡、水頭症、脳腫瘍
林 英樹 (はやし ひでき)	副部長	脊椎脊髄外科、血管内治療、脳神経外科全般
石橋 良太 (いしばし りょうた)	副部長	脳神経外科全般、脳血管内手術、脳血管障害の外科
箸方 宏州 (はしかた ひろくに)	副部長	脳神経外科全般、神経内視鏡、脳血管内手術
武部 軌良 (たけべ のりよし)	副部長	脳神経外科全般、脳腫瘍、脳血管障害
杉田 義人 (すぎた よしと)	副部長	脳神経外科全般、機能神経外科、脳血管内手術

医師名	役職	
大島 仁実 (おおしま ひとみ)	医員	● 専攻医 4名

診療対象となる主な疾患

<p>脳腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神経膠腫 ● 髄膜腫 ● 下垂体腺腫 ● 聴神経腫瘍 ● 転移性脳腫瘍 など 	<p>脳血管障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脳梗塞・一過性脳虚血発作・内頸動脈狭窄症 ● 脳動脈瘤・くも膜下出血 ● 脳動脈静脈奇形 ● 脳出血 など 	<p>脊椎・脊髄疾患(頸椎・胸椎・腰椎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脊椎椎間板ヘルニア ● 脊柱管狭窄症 ● 後縦靭帯骨化症 ● 脊髄空洞症 ● 脊髄腫瘍・神経鞘腫・脊椎腫瘍 など 	<p>機能的脳神経外科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 顔面けいれん ● 三叉神経痛・舌咽神経痛 ● 本態性振戦・パーキンソン病 ● 書痙・ジストニア など <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 正常圧水頭症 ● 外傷手術
--	--	--	---

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

化学療法外来

各診療科と連携し、化学療法、支持療法、効果判定の診察などを行っています。当院での化学療法を希望される患者さんをご紹介いただける場合は各臓器別診療科または当科にご連絡ください。

コンサルテーション・セカンドオピニオン

原発不明がんや希少がんも含め、種々のがんに対する化学療法についての相談をお受けしています。

化学療法センターの安全管理

がん化学療法の通院治療部門である化学療法センター内で診察を行っており、治療中の患者さんの緊急時の対応を行います。また、患者さんからの電話相談(ホットライン)に対応しています。

その他の特色

化学療法レジメンの申請・管理を行っています。各科化学療法カンファレンスに参加し、治療方針の相談に対応しています。



スタッフ紹介



主任部長
兼 化学療法センター長
西村 貴文 (にしむら たかひみ)
〈専門領域〉
■ がん化学療法一般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
竹下 純平 (たけした じゅんぺい)	副部長	がん化学療法一般

医師名	役職
富田 和輝 (とみた かずき)	医員

診療対象となる主な疾患

- 固形がん全般

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

放射線治療センター

放射線治療センターでは、専任の医学物理士を配した医学物理室を設置し、放射線治療専門医2名、専任医学物理士1名、放射線技師7名(放射線治療専門技師3名を含む)、看護師2名(放射線治療認定看護師1名を含む)の体制で、これからの高精度放射線治療に即した診療を行っています。

高精度放射線治療の実施

従来からの三次元原体照射のほか、画像誘導放射線治療、局所に限局した固形がんに対して回転強度変調放射線治療、早期肺がんに対する体幹部定位放射線治療、肝臓がんに対して金マーカーを用いた動態追跡放射線治療、転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療、左乳房温存後での深吸気停止下照射など、年々進歩する放射線治療に対応しています。

小線源治療の実施

子宮頸がんに対してCT、MRIを用いた画像誘導腔内照射、画像誘導組織内照射併用腔内照射(ハイブリッド照射)を実施しています。また乳房温存療法に対するSAVIカテーテルを用いた組織内照射も開始しています。



スタッフ紹介



主任部長
兼 放射線治療センター長
高木 雄久 (たかぎ たけひさ)
〈専門領域〉
■ 放射線治療

資格など

- 日本医学放射線学会認定放射線治療専門医
- 日本放射線腫瘍学会認定放射線治療認定医
- 日本放射線腫瘍学会認定放射線治療専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長
今輩倍 敏行 (いまぐんばい としゆき)
〈専門領域〉
■ 放射線治療全般

資格など

- 日本医学放射線学会研修指導者
- 日本医学放射線学会放射線科専門医
- 日本放射線腫瘍学会/日本医学放射線学会共同認定放射線治療専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
宮部 結城 (みやべ ゆうき)	医学物理士 室長	高精度放射線治療の治療計画・品質管理

- 非常勤医師 2名

診療対象となる主な疾患

- 悪性腫瘍全般、および一部の良性疾患(ケロイドなど)

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

長期フォローの視点に立った糖尿病診療・支援

糖尿病診療は日々アップデートします。当院では、各部署・職種を横断した「糖尿病サポートチーム」が、常に治療や生活スタイルについて最新の知見を共有するよう努めています。かかりつけ先生方のプライマリケアから長年にわたるフォローまで、チーム一丸となって、トータル診療をサポートします。

内分泌疾患の高度な専門性をもった診断と治療

内分泌疾患はcommonなものから希少疾患まで、非常に多岐にわたります。当院ではこれらに幅広く対応して、専門的検査を駆使した診断を行うとともに最適な治療を提供します。診断はもとより、特に治療においては複数診療科の連携が欠かせません。当院は高い専門性をもつ各診療科を擁しており、最適な診療を行うたいへん大きな力となっています。

日常診療における糖尿病・内分泌疾患の診断と治療を連携診療で提供

高血圧や電解質異常、画像検査から見出される下垂体・副腎・甲状腺疾患、検診で指摘される高血糖など、各種疾患・病態のスクリーニングから精査と治療、さらにその後のフォローにわたる各ステップを、かかりつけ先生方と共有させていただきながら病診連携をすすめております。



スタッフ紹介



主任部長
兼 医学研究所 医学研究支援センター
データ管理室室長

濱崎 暁洋 (はまさき あきひろ)

〈専門領域〉
■ 内分泌代謝 ■ 糖尿病

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本糖尿病学会認定指導医
- 日本内分泌学会認定指導医
- 日本内科学会認定内科医
- 日本糖尿病学会認定専門医
- 日本内分泌学会認定専門医
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
稲垣 暢也 (いながきの ながや)	理事長	内分泌代謝、糖尿病
本原 祥子 (ほんじよ さちこ)	副部長 兼 栄養部部长	内分泌代謝、糖尿病
渋谷 公尊 (しぶえ きみたか)	副部長	内分泌代謝、糖尿病
泉 諒太 (いずみ りょうた)	副部長	内分泌代謝、糖尿病

医師名	役職	専攻医 2名	非常勤医師 2名
酒井 麻里子 (さかい まりこ)	医員		
塚口 諒 (つかぐち りょう)	医員		

診療対象となる主な疾患

● 亜急性甲状腺炎	● 高脂血症	● 上皮小体機能低下症	● 糖尿病性腎症	● 副腎偶発腫瘍
● インスリンノーマ	● 甲状腺機能亢進症	● 成人GH分泌不全症	● 二次性高血圧症	● 副腎腫瘍
● 下垂体機能低下症	● 甲状腺機能低下症	● 先端巨大症	● 尿崩症	● 副腎皮質機能低下症
● 下垂体腺腫	● 甲状腺疾患	● 低カリウム血症	● 妊娠糖尿病	● プロラクチノーマ
● 褐色細胞腫	● 甲状腺腫瘍	● 低カルシウム血症	● 橋本病	● 末端肥大症
● クッシング症候群	● 甲状腺中毒症	● 低血糖症	● パセドウ病	● 無痛性甲状腺炎
● クッシング病	● 高プロラクチン血症	● 糖尿病	● 肥満症	● 1型糖尿病
● 原発性アルドステロン症	● 骨粗鬆症	● 糖尿病合併症	● 副甲状腺機能亢進症	● 2型糖尿病
● 高カルシウム血症	● 脂質異常症	● 糖尿病性ケトアシドーシス	● 副甲状腺機能低下症	● ACTH単独欠損症
● 高血糖性高浸透圧性昏睡	● 上皮小体機能亢進症	● 糖尿病性神経障害	● 副腎機能不全	● ADH分泌異常症

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

全ての腎疾患に対して患者さんに最適化した治療を提供

①遺伝子異常を含む先天性腎臓病②糸球体腎炎やネフローゼ症候群を代表とした一次性腎臓病③生活習慣病あるいは膠原病などに合併する二次性腎臓病④がんや心血管系疾患治療関連の腎臓病⑤腎尿路感染症に対して標準治療の他に個別化治療を行います。

難治性腎臓病に対して最新の治療法を提供

厚生労働省の難治性ネフローゼ症候群や難治性血管炎に関する研究事業での新規治療法開発に参加しており、新しい治療法開発のための臨床試験(治験)も行っています。これらを基盤として軽度の検尿異常から早期に的確な診断をして患者さんに最適な治療を提供します。

慢性腎臓病では、かかりつけ医との連携診療を継続

慢性腎臓病では、管理栄養士や看護師のほか、薬剤師、臨床検査技士、理学療法士およびソーシャルワーカーからなる患者さん中心のチーム医療体制を構築しており、教育入院やかかりつけ医との慢性腎臓病地域連携パスを用いた連携診療を10年以上継続しています。

血液透析・腹膜透析・腎移植が可能で透析合併症にも対応

院内全ての血液浄化療法(血液透析・腹膜透析・血漿交換など)を担当し、急性血液浄化、慢性透析導入、生体間腎移植のほか、シャント・トラブル、アミロイド症、がんや心血管系疾患治療を含めた透析関連合併症治療を他診療科と連携して実施しています。



スタッフ紹介



主任部長
兼 血液浄化センター長

松原 雄 (まつばら たけし)

〈専門領域〉
■ 腎臓内科学

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本腎臓学会認定指導医
- 日本透析医学会認定指導医
- 日本アフェリシス学会評議員
- 日本腎臓学会評議員
- 日本内科学会認定内科医
- 日本腎臓学会認定腎臓専門医
- 日本透析医学会認定透析専門医
- 日本アフェリシス学会認定血漿交換療法専門医
- 日本アフェリシス学会関西地方会幹事
- 臨床研修指導医講習会修了

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
遠藤 知美 (えんどう ともみ)	副部長	腎尿細管再生研究、腎炎、血管炎、ネフローゼ症候群
半田 貴也 (はんた たかや)	副部長	腎臓内科学、腎病理学、透析学

医師名	役職	専攻医 3名	非常勤医師 3名
宮内 美帆 (みやうち みほ)	医員		
大植 薫 (おおうえ かおる)	医員		

診療対象となる主な疾患

● 検尿異常(顕微鏡的血尿、蛋白尿)	● 急速進行性糸球体腎炎	● ループス腎炎	● 多発性嚢胞腎
● 高度蛋白尿	● 急性腎不全	● 悪性高血圧	● アルポート症候群
● 腎機能低下	● 慢性腎臓病(CKD)	● 腎硬化症	● 先天性腎尿路異常
● 急性糸球体腎炎	● IgA腎症	● 糖尿病性腎症	● 間質性腎炎
● 慢性糸球体腎炎	● ANCA関連血管炎	● 薬剤性腎障害	● 腎盂腎炎
● ネフローゼ症候群	● IgA血管炎(紫斑病性腎炎)		

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

治療体制

- 24時間365日小児科医が2名から4名体制で救急当直、NICU当直を行い、断らない医療を実践しています。
- 病棟に準PICU4床が備えられているので重症患者さんの受け入れが可能です。

医療設備

- 病床数は86床、うちNICU9床、GCU12床、準PICU4床です。
- NICU(新生児集中治療管理室)では、NICU専属医師が24時間待機しており、低出生体重児や病的新生児の診療を行っています。
- NMCS(大阪新生児診療相互援助システム)からの紹介入院に対応しています。新生児の緊急搬送の場合には06-6312-8824までご連絡ください。
- 日本周産期・新生児医学会指定研修施設に認定されており、一酸化窒素吸入療法・脳低体温療法など最新の医療機器を備え、超低出生体重児や外科治療を要する病的新生児まで、幅広い治療にあたっています。
- 毎年約100例のドクターカーによる新生児搬送入院があります。

心臓・循環器疾患は疑い症例を含めて全て診療可能

日本胎児心臓病学会専門施設に認定。新生児は随時精査可。先天性心疾患は手術以外の診療を全て当科で行うシステムを確立。学校検診外来を設置。川崎病心変は急性期から慢性期まで一貫して診療しており、心臓カテーテル検査・治療が可能です。

アレルギー疾患やリウマチ膠原病の診療も

日本アレルギー学会研修施設に認定。専門医3名中心に食物負荷試験、スギ・ダニの舌下免疫療法をはじめ専門性の高い診療を行っています。またリウマチ学会専門医2名中心にSLEなどの自己免疫疾患や炎症性腸疾患などについても生物学的製剤を含めた最先端の治療を行っています。

悪性腫瘍についても積極的に診断・治療

日本小児血液・がん学会の小児血液・がん専門医研修施設に認定され、白血病・悪性リンパ腫など血液腫瘍のみならず、小児外科・脳外科の協力のもと、脳腫瘍・神経芽腫・腎芽腫・肝芽腫など固形腫瘍も、夜間休日も断ることなく受け入れ治療しています。

神経発達症、てんかん、心身症、急性の脳神経疾患などの診療も充実

日本小児神経学会認定小児神経専門医研修施設に認定され、神経発達症はじめ、てんかん、心身症、急性の脳神経疾患などの診療に当たっています。現在、小児神経専門医3名を中心に、長いこと付き合っていくことになるかもしれない状況に対しても、子どもたちのケアの面も意識した診療を心がけています。

スタッフ紹介



病院長
秦 大資 (はた だいすけ)

〈専門領域〉
■ アレルギー ■ 免疫感染症

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本アレルギー学会認定専門医
- 日本小児アレルギー学会評議員
- 京都大学小児科学教室臨床教授
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本小児科学会代議員
- 日本アレルギー学会認定指導医
- 日本周産期・新生児医学会認定暫定指導医



主任部長
塩田 光隆 (しおた みつたか)

〈専門領域〉
■ 腫瘍 ■ 血液

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本血液学会認定指導医
- 日本小児血液がん学会専門医
- 日本小児血液がん学会指導医
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本血液学会認定専門医
- 日本小児血液がん学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



小児科新生児部門 主任部長
水本 洋 (みずもと ひろし)

〈専門領域〉
■ 新生児・未熟児 小児救急蘇生
■ 低出生体重児 ■ 低血糖
■ 持続糖モニタリング ■ 蘇生教育

資格など

- 日本小児科学会認定専門医
- NCPRインストラクター
- 日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医(新生児)
- 日本周産期・新生児医学会認定周産期指導医(新生児)
- 新生児蘇生法普及事業小委員会委員
- 日本周産期新生児医学会B(小児科)領域評議員
- 日本小児科学会認定指導医



部長
渡辺 健 (わたなべ けん)

〈専門領域〉
■ 小児循環器 ■ 先天性心疾患

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定小児科指導医
- 日本小児循環器学会評議員
- 日本胎児心臓病学会幹事
- 日本循環器学会循環器専門医
- 日本小児科学会小児科専門医
- 日本小児循環器学会小児循環器専門医
- 日本小児肺循環研究会幹事
- 大阪胎児心臓病研究会幹事



部長
羽田 敦子 (はた あつこ)

〈専門領域〉
■ 夜尿 ■ 感染症 ■ 腎臓

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本感染症学会認定指導医
- 日本小児感染症学会認定暫定指導医
- 日本化学療法学会認定抗菌化学療法指導医
- 日本小児科医会子どもの心相談医
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本感染症学会認定専門医
- 日本感染症学会評議員
- ICD (infection control doctor)
- 日本夜尿症学会理事

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
吉岡 孝和 (よしおか たかかず)	副部長	アレルギー・免疫、リウマチ膠原病
熊倉 啓 (くまくら あきら)	副部長	小児神経、てんかん
中川 権史 (なかがわ けんじ)	副部長	アレルギー・免疫、リウマチ膠原病
阿水 利沙 (あすい りさ)	副部長 兼 NICU/GCU病棟 副主任医師	新生児、未熟児
三上 真充 (みかみ まさみつ)	副部長	腫瘍、血液
高折 徹 (たかおり とおる)	副部長	小児神経、てんかん
兵頭 勇紀 (ひょうどう ゆうき)	副部長	小児神経、てんかん
大西 健仁 (おおにし けんじ)	副部長	新生児・集中治療

医師名	役職	医師名	役職
磯部 葵 (いそべ あおい)	医員	成宮 牧子 (なるみや まきこ)	公認心理師、臨床心理士
酒井 達紘 (さかい たつひろ)	医員		

● 専攻医 16名
● 非常勤医師 5名

診療対象となる主な疾患

● 悪性リンパ腫	● 甲状腺機能低下症	● 先天性血小板減少症	● 脳腫瘍
● アトピー性皮膚炎	● 固形腫瘍	● 先天性心疾患	● 肺炎
● 遺伝性球状赤血球症	● 抗リン脂質抗体症候群	● 先天性ヘモグロビン異常症	● 白血病
● インフルエンザ	● 骨代謝疾患	● グウン症	● 発達・発育障害
● ウイルス感染症	● 再生不良性貧血	● 血尿・蛋白尿	● 肥満症
● 下垂体機能低下症	● 三尖弁閉鎖症	● チック	● 百日咳
● 川崎病	● 自己免疫性好中球減少症	● 屋間遺尿・尿失禁	● フォンビルブランド病
● 肝芽腫	● 思春期早発症	● 低血糖症	● 副腎疾患
● 感染性腸炎	● 食物アレルギー	● 低身長症	● 不整脈
● 気管支炎	● 神経芽腫	● てんかん	● 不明熱
● 気管支喘息	● 神経症	● 糖尿病	● 蜂窩織炎
● 急性糸球体腎炎	● 心身症	● 特発性血小板減少性紫斑病	● マイコプラズマ肺炎
● クループ症候群	● 新生児黄疸	● 乳児血管腫・母状血管腫	● 麻疹
● 血球貪食症候群	● 腎炎	● 尿路感染症	● 無月経
● 血友病	● 腎不全	● 熱性痙攣	● 夜尿症
● 高血圧	● 髄膜炎	● ネフローゼ症候群	● Evans症候群
● 膠原病	● 喘息性気管支炎	● 脳炎・脳症	● IgA腎症
● 甲状腺機能亢進症			

*上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

リウマチ膠原病内科

総合病院として、それぞれの専門医と連携して診療

「リウマチ」とは流れを意味する古代ギリシャ語で、体の中の悪い流れにより引き起こされると考えられていた関節を侵す疾患を「リウマチ」と呼んでいました。

リウマチ性疾患では関節以外も障害されることも多く、病気の障害部位にコラーゲン(膠原)が存在していることに由来して、「膠原病」や「結合組織病」とも称されます。

自己免疫により様々な臓器が障害されますが、当院は総合病院として各臓器の専門医が揃っており、適宜連携して診療しています。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を

リウマチ・膠原病疾患は同じ診断名でも、それぞれの患者さんで病気の活動性が違い、侵される臓器や障害の程度も異なります。治療も長期にわたることが多いため、いかに患者さんの良きパートナーになれるかが重要です。そのため、当科では十分な説明と同意のもと、科学的根拠に基づいたオーダーメイド医療を行っています。

スタッフ紹介



主任部長
兼 医療安全管理室 副室長

井村 嘉孝 (いむら よしたか)

〈専門領域〉

- 臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本リウマチ学会リウマチ専門医
- 日本リウマチ学会評議員
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会認定指導医
- 日本リウマチ学会認定指導医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
中島 俊樹(なかじま としき)	副部長 兼 感染制御対策室副室長	臨床免疫学(リウマチ・膠原病疾患)

医師名	役職	専攻医 3名	非常勤医師 1名
大北 莉奈(おおきた りな)	医員		
福村 麻綾(ふくむら まあや)	医員		

診療対象となる主な疾患

<ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチ 偽痛風 強皮症 血球貧食性症候群 結節性多発動脈炎 血栓性血小板減少性紫斑病 	<ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡的多発血管炎 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA) 抗リン脂質抗体症候群 混合性結合組織病 シェーグレン症候群 シェーンライン・ヘンッホ紫斑病 	<ul style="list-style-type: none"> 成人スチル病 全身性エリテマトーデス 大動脈炎症候群(側頭動脈炎も含む) 多発血管炎性肉芽腫症(GPA) 多発性筋炎 皮膚筋炎 	<ul style="list-style-type: none"> ベーチェット病 リウマチ性多発筋痛症 IgG4関連疾患
--	---	--	---

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

血液内科



造血幹細胞移植

自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植を患者さんごとに適応を検討し行っています。骨髄バンクの骨髄および末梢血幹細胞の採取施設としても認定されています。新規薬剤も積極的に導入し、血液疾患の予後改善に努めています。

悪性疾患以外の血液の疾患に幅広く対応

病棟では、主に悪性疾患の患者さんの診療を行っていますが、悪性腫瘍以外の血液疾患全般に対応しています。

緊急入院も積極的に受け入れていますので、血液に関してお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもお問い合わせください。

スタッフ紹介



主任部長

北野 俊行 (きたの としゆき)

〈専門領域〉

- 腫瘍内科
- 血液疾患全般

資格など

- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本血液学会認定専門医
- 日本血液学会評議員
- 日本臨床腫瘍学会認定指導医
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本内科学会認定指導医
- 日本血液学会認定指導医
- 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
田端 淑恵(たばた すみえ)	副部長	血液疾患全般
坂本 宗一郎(さかもと そういちろう)	副部長	血液疾患全般
小倉 愛子(おぐら あいこ)	副部長	血液疾患全般

医師名	役職	専攻医 3名
島田 充浩(しまだ みつひろ)	医員	
武田 考平(たけだ こうへい)	医員	
土井 究(どい きわむ)	医員	

診療対象となる主な疾患

<ul style="list-style-type: none"> 白血病 骨髄異形成症候群 悪性リンパ腫 	<ul style="list-style-type: none"> 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 真性多血症 	<ul style="list-style-type: none"> 本態性血小板増多症 骨髄線維症 特発性血小板減少性紫斑病 	<ul style="list-style-type: none"> 再生不良性貧血 赤芽球癆 キャッスルマン病
---	--	--	---

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

神経精神科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

ていねいな外来診察

外来診察において、一人ひとりの患者さんに十分な診察時間を確保できるように心掛けています。そのため外来診察は主治医制、完全予約制とさせていただきます。

総合病院における精神科として他科との連携を

総合病院における精神科の役割が見直されてきていますが、当科では他科の外来・入院診療へのアシストの役割を重視しています。

スタッフ紹介



主任部長
高木 賢一 (たかぎ けんいち)

〈専門領域〉
■ 精神科一般

資格など

- 日本精神神経学会認定精神科専門医
- 精神保健指定医
- 一般病院連携精神医学専門医(精神科リエゾン専門医)
- 日本精神神経学会精神科専門医制度指導医

〈所属医師・スタッフ〉

- 専攻医 2名
- 非常勤医師 3名

診療対象となる主な疾患

● うつ病	● 強迫性障害	● ストレス関連障害	● 統合失調症
● 解離性障害	● 神経症	● 躁うつ病	● パニック障害
● 気分障害	● 身体表現性障害	● 適応障害	● 不安障害
● 急性ストレス反応			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

緩和ケアセンター/緩和ケア科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターの役割

1. 多職種から構成される医療チームが専門的ケアを提供し、全人的苦痛(身体や心の痛み、スピリチュアルな苦しみ)を緩和することで、患者さんと家族の希望に寄り添った生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)の向上をめざします。
2. 医療情報を分かりやすく提供して各科主治医との医療コミュニケーションを円滑にし、看護カウンセリングや人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)など心理社会的な支援を充実させ、豊かな人生を過ごすための意思決定や希望の実現をサポートします。
3. 地域に根差した緩和ケアセンターとして、地域の医療介護スタッフと密に連携した在宅療養支援を行います。

緩和ケア科

全人的苦痛の緩和

全人的な苦痛には、痛みなどの身体的な苦痛のみならず、気持ちのつらさやせん妄などの精神的苦痛、経済的不安や療養場所の選択などの社会的苦痛、生きる意味の喪失などの実存的苦悩(スピリチュアルペイン)が含まれます。こうした苦痛緩和は医師のみでは対処が困難ですので、看護師や薬剤師、療法士、栄養士、心理士、福祉士などとともに緩和ケアチームを組んで、より良いチーム医療を提供して参ります。

希望実現

希望とは、「その人にとって意味があり、実行することで実現が可能な願い」ですが、患者さんご家族の希望を初診時から伺いして、実現をめざしたお手伝いを多職種チームで実践させていただきます。



スタッフ紹介



部長 兼 緩和ケアセンター長
梶山 徹 (かじやま とおる)

〈専門領域〉
■ 緩和ケア
■ エンドオブライフ・ケア

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本緩和医療学会緩和医療専門医
- 日本緩和医療学会緩和医療指導医
- 公認心理師

診療対象となる主な疾患

- 各種がん
- 末期心不全や慢性呼吸不全、肝不全、腎不全などの生命を脅かす疾患
- 実存的苦悩(スピリチュアルペイン)例

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

乳腺外科

救急
消化
消化
循環
不整脈
心外
呼吸
呼吸
脳内
脳外
腫内
放治療
糖尿
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

迅速で正確な診断

検診精査目的や様々な症状で患者さんをご紹介いただいた場合、その日のうちにマンモグラフィと超音波検査を実施します。さらに乳がんが疑われる時には穿刺吸引細胞診または針生検などの組織学的検査を迅速に行います。病理検査にてサブタイプを決定し、CT、MRIなどの全身検査と併せて、患者さんごとに適した標準治療法を決定します。一人ひとりのライフスタイルをふまえて進めていきます。

最適な手術加療を相談

術前化学療法を積極的に取り入れ、症例によっては6カ月間で乳がんをほぼ完全に消し去ることに成功しています。CTなどの術前画像診断で腋窩リンパ節転移の可能性の少ない症例では、術中にセンチネルリンパ節生検(4個程度摘出)を行い、リンパ節郭清を省略します。2022年2月から「可視光投影装置」(Medical Imaging Projection System : MIPS)を導入し、よりスムーズな手術が可能になりました。リンパ節郭清が必要な場合は上腕からのリンパ流を確認し、リンパ浮腫防止に努めています。リスク低減手術や形成外科と連携して乳房再建手術にも取り組んでいます。手術時は前日入院で、在院日数が短いことも特徴です。就労支援も可能ですので随時ご相談ください。

遺伝性疾患へも対応

最近では遺伝性乳がん卵巣がん症候群(家族性乳がん)に関する多くの検査や治療が保険診療の対象となりました。臨床遺伝専門医、常勤認定遺伝カウンセラーとともに遺伝性疾患の可能性のあるご家族の拾い上げにも力を入れています。カウンセリングで十分な相談とケアを行いながら、保険内外の遺伝子検査、バリエーション陽性者のリスク低減治療や手術にも個別対応しています。院外からのカウンセリングについてもお気軽にお問い合わせください。

チームによってささえる個別化治療の実践

2014年プレストセンターを開設し、乳腺外科・形成外科・腫瘍内科・放射線科・病理・緩和ケア・リハビリ・地域医療機関など多職種で、患者さんの治療を計画しサポートしています。手術・放射線療法・内分泌療法・化学療法・分子標的療法また免疫療法などさまざまな治療を組み合わせ、乳がんの根治、再発リスクの軽減、症状の改善をめざしています。再発治療でもそれぞれの患者さんに適した治療計画を相談し、さらに担当看護師やがん相談支援センターが治療に伴う身体的あるいは精神的負担を軽減できるようアドバイスやケアを行います。京大病院と連携した臨床試験も実施しています。

スタッフ紹介



主任部長
高原 祥子 (たかはら さちこ)

〈専門領域〉
■ 乳腺疾患 診断・治療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会外科専門医
- 日本乳癌学会乳腺認定医
- 日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
- 日本乳癌学会乳腺指導医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医師
- 日本乳房オンコプラスティックサージャー学会責任医師
- ICD(インフェクション コントロール ドクター)
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
橘 強 (たちばな つよし)	副部長	乳腺疾患 診断・治療

医師名	役職	医師名	役職	非常勤医師 3名
吉本 有希子 (よしもと ゆきこ)	医員	板垣 あい (いたがき あい)	常勤認定遺伝カウンセラー	

非常勤医師 3名

診療対象となる主な疾患

- | | | | |
|-----------------|----------|-------------|-----------|
| ● 遺伝性乳がん | ● 授乳期乳腺炎 | ● 乳がん | ● 肉芽腫性乳腺炎 |
| ● 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 | ● 女性化乳房症 | ● 乳腺腫瘍、乳腺腫瘍 | ● 乳頭分泌異常 |
| ● 腋窩リンパ節腫脹、腫大 | ● 線維腺腫 | ● 乳腺症 | ● 葉状腫瘍 |
| ● 血乳、血性乳頭分泌 | ● 男性乳がん | | |

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

整形外科

救急
消化
消化
循環
不整脈
心外
呼吸
呼吸
脳内
脳外
腫内
放治療
糖尿
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

脊椎・脊髄病外科

日本脊椎・脊髄病学会指導医が常勤し、頸椎から胸腰椎まで除圧術、固定術などに最新の技術を導入した幅広い治療を行います。正確、かつ安全な手術のため、CTナビゲーションシステムを導入しています。

関節外科

人工関節手術(股関節、膝関節)は極めて良好な長期成績を誇っています。また、病期、年齢に応じて股関節臼蓋形成術、膝骨切り術など関節温存手術、関節鏡視下手術など、多様な治療法を選択しています。肩関節学会認定医師によるリバー型人工肩関節置換術も新たに導入、開始しています。

スタッフ紹介



主任部長
太田 雅人 (おおた まさと)

〈専門領域〉
■ 脊椎 ■ 脊髄病外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本整形外科学会認定専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 日本脊椎脊髄病学会認定指導医
- 日本脊椎脊髄病学会・日本脊椎脊髄外科専門医委員会認定専門医



部長
田村 治郎 (たむら じろう)

〈専門領域〉
■ 股関節外科
■ 人工関節(股、膝)

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本整形外科学会認定専門医
- 中部日本整形外科学会災害外科学会評議員

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
北折 俊之 (きたおり としゆき)	副部長	脊椎脊髄病外科、リウマチ外科
佐治 隆彦 (さじ たかひこ)	副部長	肩関節外科(関節鏡、人工関節)、膝関節外科(関節鏡、人工関節)、スポーツ整形外科
石橋 聖之 (いしばし まさゆき)	副部長	整形外科一般

- 専攻医 2名
- 非常勤医師 2名

診療対象となる主な疾患

- | | | | | |
|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|
| ● アキレス腱炎 | ● 頸椎症 | ● 手根管症候群 | ● 大腿骨頭壊死症 | ● ヘバーデン結節 |
| ● アキレス腱断裂 | ● 頸椎症性神経根症 | ● 手指腱断裂 | ● 大腿骨頭骨折 | ● 変形性股関節症 |
| ● 円状半月板 | ● 頸椎椎間板ヘルニア | ● 手指神経断裂 | ● 大腿骨頭すべり症 | ● 変形性膝関節症 |
| ● 黄色靭帯骨化症 | ● 腱鞘炎 | ● スポーツ外傷(膝・肩) | ● 大腿骨内顆骨壊死 | ● モンテジア骨折 |
| ● 外反肘 | ● 腱板損傷 | ● 脊椎圧迫骨折後偽関節 | ● 肘部管症候群 | ● 野球肘 |
| ● 外反母趾 | ● 後十字靭帯損傷 | ● 前十字靭帯損傷 | ● 突き指 | ● 腰椎椎間板ヘルニア |
| ● 肩関節脱臼 | ● 後縦靭帯骨化症 | ● 前腕骨骨折 | ● 橈骨遠位端骨折 | ● 腰椎分離・分離すべり症 |
| ● 滑膜炎 | ● 股関節臼蓋形成不全 | ● 前腕骨骨折変形治癒 | ● 橈骨遠位端骨折変形治癒 | ● 腰椎分離症 |
| ● ガングリオン | ● 骨髄炎 | ● 足関節骨折 | ● 内側側副靭帯損傷 | ● 腰椎分離すべり症 |
| ● 関節リウマチ | ● 骨粗鬆症 | ● 大腿骨顆部骨壊死 | ● 内反肘 | ● 腰椎変性すべり症 |
| ● 胸椎黄色靭帯骨化症 | ● 膝関節周辺骨折 | ● 大腿骨頸部骨折 | ● ばねゆび | ● 腰椎変性側弯症 |
| ● 頸椎症性脊髄症 | ● 手関節骨折 | ● 大腿骨転子部骨折 | ● 半月板損傷 | ● 腰部脊柱管狭窄症 |
| ● 頸椎後縦靭帯骨化症 | | | | |

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

当科の特徴と先駆的な取り組み

- 繊細な縫合と皮膚の操作技術により最小限の手術痕となるよう努力しています。
- 拡大鏡(ダーモスコープ)による皮膚の検査を行っています。
- 乳がん術後の組織欠損に対し、乳腺外科医と協力し人工物(シリコンインプラント)や自家組織(広背筋、腹直筋、遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁)による再建術を行っています。
- 原発性および続発性リンパ浮腫(体幹および四肢)に対しICG蛍光観察用光源装置を備えた顕微鏡で手術中に細いリンパ管を可視化しリンパ管細静脈吻合やリンパ節移植を行っています。
- 下肢静脈瘤に対し、通常の大伏在静脈ストリッピング手術に加え高周波治療を行っています。高周波治療は全身麻酔に加え日帰り手術にも対応しています。
- 皮膚の硬化やむくみ、潰瘍を生じた重症下肢静脈瘤に内視鏡を用いた筋膜下不全穿通枝切離術(SEPS)を行っている数少ない施設の1つです。筋膜下層に内視鏡を挿入し潰瘍の原因となっている不全穿通枝を切離します。この方法では病変のある皮膚に切開を加えず健全な皮膚からアプローチが可能ですので新たな潰瘍の発生や創部の治癒遅延を避けることができます。
- 顔面神経麻痺による閉眼障害(眼が閉じなくなること)がひどくなると角膜潰瘍が発症します。この角膜潰瘍に対し神経移行術による角膜知覚再建術を行っている数少ない施設の1つです。
- 顔面神経動的再建により、笑ったときや話するときの顔面のゆがみを正常に近づける手術を行っています。
- 小児の日帰り全身麻酔手術を行っています。
- 乳児血管腫やスタージウエーバー症候群、毛細血管奇形などの血管病変に対する可変式ロングパルス色素レーザー(Vビーム)照射を保険診療にて行っています。
- 美容外来で肝斑やアンチエイジング治療、ホクロやシミに対するレーザー治療や男性の髭を含む脱毛レーザー治療を行っています。

スタッフ紹介



主任部長
鈴木 義久 (すずき よしひさ)

〈専門領域〉

- 形成外科全般
- やけど
- 乳癌後乳房再建
- 唇裂・口蓋裂
- 多合指症
- 皮膚皮下腫瘍
- 眼瞼下垂症
- 脊髄損傷の再生治療

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本形成外科学会形成外科領域専門医
- 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
- 日本創傷外科学会認定専門医
- 日本レーザー医学会レーザー専門医
- 京都大学医学部臨床教授
- 神戸大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
石川 奈美子 (いしかわ なみこ)	副部長	形成外科全般、形成外科創傷治療、眼瞼下垂症、リンパ浮腫、皮膚皮下腫瘍、乳房再建、下肢静脈瘤、美容アンチエイジング
武田 孝輔 (たけだ こうすけ)	副部長	形成外科全般、頭蓋顔面外科、小児形成外科、四肢・顔面外傷、マイクロサージャリー

医師名	役職	専攻医 1名	非常勤医師 4名
武田 紘司 (たけだ こうじ)	医員		

診療対象となる主な疾患

● 腋臭症	● 頬骨骨折	● 臍ヘルニア	● 切断指	● 熱傷	● 皮膚皮下腫瘍
● 下肢静脈瘤	● 巨口症	● 耳前瘻孔	● 前頭骨骨折	● 癬痕	● 副耳
● 眼瞼下垂	● 血管腫	● 上顎骨骨折	● 多合指(趾)症	● 癬痕拘縮	● 母指形成不全
● 陥入爪	● ケロイド	● 小耳症	● 立ち耳	● 鼻咽腔閉鎖不全	● 埋没耳
● 陥没乳頭	● 口蓋裂	● 睫毛内反症	● 短合指(趾)症	● 肥厚性癬痕	● リンパ浮腫
● 顔面神経麻痺	● 合指(趾)症	● 褥瘡	● 乳房形成不全	● 鼻骨骨折	● 裂手(趾)症
● 顔面裂	● 口唇裂				

※また、当科では臨床応用を目的として脊髄損傷をはじめとした中枢および末梢神経の再生の研究やリンパ管再生の研究を行っています。
※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

生物学的製剤やJAK阻害薬は積極的かつ適正に使用

乾癬やアトピー性皮膚炎をはじめとして、皮膚科領域においても生物学的製剤やJAK阻害薬の適応疾患が増えてきました。高い効果が期待できる反面、医療費や副作用など懸念事項もある治療薬ですので、安心して治療を受けていただけるよう正確な診断と丁寧な説明を心がけ、患者満足度の高い診療を行っています。

乾癬診療には特に重点を

患者さんの重症度やライフスタイルに合わせ、外用療法、内服療法、ナローバンドUVB・エキシマライトなどの光線療法、生物学的製剤を適切に選択しながら治療しています。

円形脱毛症の治療にも積極的に

日本皮膚科学会のガイドラインを遵守しつつ、患者さんの症状やニーズに合わせた治療を行っています。入院でのステロイドパルス療法、JAK阻害薬による内服治療、SADBEを用いた局所免疫療法、光線療法などを行っています。



スタッフ紹介



主任部長 兼 医療安全管理部 室長
兼 治験管理センター長

吉川 義顕 (よしかわ よしあき)

- 〈専門領域〉
- 皮膚科学

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本皮膚科学会認定専門医
- 医療安全管理者
- 京都大学医学部臨床教授

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
古賀 玲子 (こが れいこ)	副部長	皮膚科学

医師名	役職	専攻医 1名
山上 優奈 (やまがみ ゆうな)	医員	
白居 志保 (しらい しほ)	医員	

診療対象となる主な疾患

湿疹・皮膚炎 <ul style="list-style-type: none"> ● アトピー性皮膚炎 ● 接触皮膚炎 ● 自家感受性皮膚炎 ● 脂漏性皮膚炎 ● 脂皮欠乏性皮膚炎 など 	紅斑症 <ul style="list-style-type: none"> ● 多形紅斑 ● 結節性紅斑 など 	ウイルス性皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> ● 帯状疱疹 ● 単純疱疹 ● 尋常性疣贅 ● 伝染性軟属腫 など 	皮膚真菌症 <ul style="list-style-type: none"> ● 爪白癬 ● 足白癬 ● 股部白癬 	掌蹠膿疱症 褥瘡・皮膚潰瘍 皮膚良性腫瘍 皮膚悪性腫瘍 円形脱毛症 尋常性ざ瘡 化膿性汗腺炎 壊疽性膿皮症
蕁麻疹 痒疹	薬疹 紅皮症 血管炎 <ul style="list-style-type: none"> ● アナフィラクトイド紫斑(IgA血管炎) 	細菌性皮膚疾患 <ul style="list-style-type: none"> ● 伝染性膿痂疹 ● 蜂窩織炎 ● 丹毒 など 	その他の感染症 <ul style="list-style-type: none"> ● 梅毒 ● 疥癬 など 	尋常性乾癬
	水疱症 <ul style="list-style-type: none"> ● 尋常性天疱瘡 ● 水疱性類天疱瘡 			

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

治療体制

- 白内障手術については各種眼内レンズをそろえており、患者さんの状態に合わせて乱視矯正レンズや多焦点眼内レンズなど使用可能です。また、従来の単焦点眼内レンズに比較して焦点距離の長い単焦点眼内レンズも新たに採用しました。白内障難症例にも対応可能で、特にチン小帯脆弱症例の白内障手術では予防的に嚢内縫着術を行っており、眼内レンズ脱臼症例には眼内レンズ縫着術や強膜内固定術を施行しています。
- 緑内障手術はレーザー治療から、流出路再建術や濾過手術、チューブシャント手術など初期から末期まで病状に応じた術式が選択可能であり、緑内障白内障同時手術も積極的に行っています。
- 網膜硝子体疾患の治療では、頻度の高い黄斑前膜や黄斑円孔に加えて、難治性黄斑円孔、裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症など難易度の高い疾患にも積極的に手術を行っています。
- 黄斑疾患の診断・治療では月1~2回黄斑外来を開設し、黄斑部の変性疾患、難治性疾患の患者さんに、的確な診断と最新の知見に基づいた治療（抗VEGF療法、光線力学的療法など）を提供しています。
- ぶどう膜炎の診断・治療では、月1回ぶどう膜炎専門外来を開設し、的確な診断と最新の知見に基づいた治療を提供しています。
- 中途失明の方のために、ロービジョンケア専門外来を設け、社会生活の維持のためのお手伝いをしています。

治療体制

- 北野病院は、地域の中核病院として質の高い医療を実践し、信頼される病院をめざします。
- 治療選択に際しては、情報公開・インフォームドコンセントを重視します。
- 鼓膜再生・突発性難聴の新治療を開始しました。
- 慢性中耳炎、真珠腫、錐体尖病変、聴神経腫瘍などの多彩な中耳・内耳・頭蓋底疾患に対する最新の手術治療を行っています。
- 突発性難聴、顔面神経麻痺の薬物治療を行っています。
- めまいの診断と保存的治療・生活指導ならびに難治性めまいに対する手術治療を行っています。
- 中等度難聴に対し、埋め込み型骨誘導補聴器による手術治療を行っています。
- 高度難聴に対する人工内耳手術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術などを得意としています。
- 聴神経腫瘍手術、錐体尖手術、側頭骨腫瘍手術を得意としています。
- 鼻副鼻腔において、ナビゲーションシステムを用いた内視鏡手術を行っています。アレルギー性鼻炎に対する後鼻神経切断術などの手術も行っています。
- 喉頭・音声障害に対し機能改善手術（喉頭微細手術・甲状軟骨形成術など）を行っています。
- 頭頸部がん（聴器がん、口腔がん、鼻副鼻腔がん、咽頭がん、喉頭がん、耳下腺がん、甲状腺がんなど）全般のがん診療を行っています。
- 進行頭頸部がんの治療は、放射線治療部・腫瘍内科・形成外科・消化器科・歯科口腔外科と共同で、最善の治療を協議し、患者さんに十分説明し、同意のうえ、診療を行います。
- 2021年度より、PET-CT検査を導入しました。また、強度変調放射線治療も行うことができるようになり、患者さんのQOLを重視した頭頸部がん治療をめざします。

認定施設

- 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医研修基幹病院
- 日本耳科学会耳科手術指導医制度認定研修施設
- 日本内分泌外科学会専門医制度関連施設
- 日本気道食道学会認定専門医研修施設
- 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修認定施設

スタッフ紹介

 <p>主任部長 前谷 俊樹 (まえたに としき)</p> <p>〈専門領域〉 ● 頭頸部腫瘍</p>	 <p>部長 金井 理絵 (かない りえ)</p> <p>〈専門領域〉 ● 中耳 ● 内耳</p>	 <p>特任部長 兼 難聴・鼓膜再生センター長 金丸 眞一 (かねまる しんいち)</p> <p>〈専門領域〉 ● 中耳・内耳・側頭骨・頭蓋底外科学 ● 頭頸部再生医療</p>
--	--	---

<p>資格など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学博士 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定指導医 ● 日本耳鼻咽喉科学会専門医 ● 京都大学医学部臨床教授 	<p>資格など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本耳鼻咽喉科学会認定指導医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医 ● 日本耳科学会認定耳科手術暫定指導医 ● 耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定耳鼻咽喉科専門医 	<p>資格など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学博士 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定指導医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 ● 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医 ● 日本耳科学会認定耳科手術暫定指導医 ● 公益財団法人先端医療振興財団臨床研究情報センター客員上席研究員 ● 京都大学医学部臨床教授 ● 京都大学医学部非常勤講師
---	--	--

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域	医師名	役職	専門領域	医師名	役職
原田 博之(はらだ ひろゆき)	副部長	頭頸部がん	北野 正之(きたの まさゆき)	副部長		柚木 稔平(ゆうき りょうへい)	医員
吉田 季来(よしだ みさき)	副部長	中耳、内耳	山口 智也(やまぐち ともや)	副部長	中耳、内耳、鼻副鼻腔		

● 専攻医 1名

当科で可能な主要検査

- | | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|-----------|-------------|
| ● CT | ● 電子内視鏡 | ● 聴力検査(純音、語音) | ● 耳管機能検査 | ● 誘発筋電図検査 | ● 穿刺吸引細胞診検査 |
| ● MRI | ● 発声機能検査 | ● 耳鳴検査 | ● 聴性脳幹反射 | ● 電気味覚検査 | ● 組織生検検査 |
| ● 超音波検査 | ● 音響分析検査 | ● 耳音響反射検査 | ● 平衡機能検査 | ● 神経興奮性検査 | |

診療対象となる主な疾患

- | | | | | | |
|---|--|--|--|--|---|
| <p>聴器・側頭骨・顔面疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先天性耳瘻孔 ● 外耳炎 ● 外耳道異物 ● 聴器がん ● 急性中耳炎 ● 慢性中耳炎 ● 鼓膜損傷 ● 真珠腫性中耳炎 ● 滲出性中耳炎 ● 耳管狭窄症 ● 伝音難聴 ● 先天性難聴 ● 機能的難聴 ● 心因性難聴 | <p>● 急性感音難聴</p> <p>● 突発性難聴</p> <p>● 耳鳴り</p> <p>● 平衡機能障害</p> <p>● メニエール病</p> <p>● めまい</p> <p>● 良性発作性頭位めまい</p> <p>● 舌腫瘍</p> <p>● 口腔がん</p> <p>咽頭・食道疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 咽頭異物 ● アデノイド増殖症 ● 鼻咽頭腔閉鎖不全 ● 咽頭喉頭炎 ● 急性扁桃炎 | <p>● 習慣性扁桃炎</p> <p>● 咽頭腫瘍</p> <p>● 上咽頭がん</p> <p>● 中咽頭がん</p> <p>● 下咽頭がん</p> <p>● 聴神経腫瘍</p> <p>● 顔面神経麻痺</p> <p>鼻副鼻腔・アレルギー疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アレルギー性鼻炎 ● 肥厚性鼻炎 ● 鼻出血 ● 鼻中隔湾曲症 ● 鼻内異物 ● 慢性副鼻腔炎 ● 副鼻腔嚢胞 | <p>● 嗅覚障害</p> <p>● 鼻副鼻腔良性腫瘍</p> <p>● 鼻副鼻腔がん</p> <p>口唇・口腔疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口唇貯留嚢胞 ● 上唇小帯短縮 ● 舌小帯短縮 ● 舌痛症 ● 口内炎 ● 味覚障害 ● 頸部食道がん <p>上気道・喉頭・気管疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 睡眠時無呼吸症候群 ● 上気道狭窄 ● 咽頭異物 | <p>● 気管異物</p> <p>● 声帯ポリープ</p> <p>● 声帯結節</p> <p>● 喉頭肉芽腫</p> <p>● 喉頭良性腫瘍</p> <p>● 反回神経麻痺</p> <p>唾液腺疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 急性化膿性耳下腺炎 ● シェーグレン症候群 ● IgG4関連疾患 ● 顎下腺炎 ● 唾石症 ● 唾液腺炎 ● 唾液性腫瘍 ● 耳下腺がん | <p>● 顎下腺がん</p> <p>● 舌下腺がん</p> <p>● 小唾液腺がん</p> <p>● 甲状腺機能亢進症</p> <p>● 甲状腺良性腫瘍</p> <p>● 縦隔甲状腺腫</p> <p>● 甲状腺がん</p> <p>● 副甲状腺機能亢進症</p> <p>● 副甲状腺がん</p> <p>● 側頸嚢胞</p> <p>● 甲状舌管嚢胞</p> <p>● 頭頸部腫瘍</p> <p>● 頭頸部原発不明がん</p> <p>● 頭蓋底腫瘍</p> |
|---|--|--|--|--|---|

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

スタッフ紹介

 <p>主任部長 田邊 晶代 (たなべ てるよ)</p> <p>〈専門領域〉 ● 緑内障</p>	<p>資格など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学博士 ● 日本眼科学会認定専門医 ● 京都大学医学部臨床教授 ● 京都大学医学部非常勤講師
--	--

 <p>部長 宮原 晋介 (みやはら しんすけ)</p> <p>〈専門領域〉 ● サージカル</p>	<p>資格など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学博士 ● 日本眼科学会認定専門医 ● 京都大学医学部非常勤講師
--	---

(所属医師・スタッフ)

医師名	役職	専門領域
山川 百季子(やまかわ ももこ)	副部長	涙道
日下 真実(くさか まみ)	副部長	眼科一般

<p>医師名</p> <p>遠谷 寛人(えんたに ひろと)</p> <p>高松 文乃(たかまつ あやの)</p>	<p>役職</p> <p>医員</p> <p>医員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 専攻医 2名 ● 非常勤医師 5名
--	-------------------------------	--

診療対象となる主な疾患

- | | | | |
|---|---|--|--|
| <p>水晶体関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 白内障 ● 眼内レンズ位置異常 <p>緑内障</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加齢黄斑変性 ● 黄斑変性症、ジストロフィー ● 網膜色素変性症 <p>網膜硝子体関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 網膜裂孔 ● 網膜剥離 ● 糖尿病網膜症 ● 硝子体出血 | <ul style="list-style-type: none"> ● 硝子体黄斑牽引症候群 ● 黄斑円孔 ● 黄斑上膜(網膜前膜) ● 加齢黄斑変性 ● 黄斑変性症、ジストロフィー ● 網膜色素変性症 ● 網膜静脈閉塞症 ● 網膜動脈閉塞症 ● ぶどう膜炎 | <p>視神経異常、眼球運動障害関連疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 視神経炎 ● 視神経症 ● 眼球運動障害 <p>前眼部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 角結膜炎 ● 角膜疾患 ● ドライアイ ● 翼状片 | <p>外眼部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 眼瞼下垂 ● 眼瞼炎 ● 霰粒腫 ● 麦粒腫 ● 内反症 ● 睫毛乱生 <p>涙道部疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 涙囊炎 ● 涙道閉塞 |
|---|---|--|--|

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

歯科口腔外科

顎矯正手術

顎変形症とは、上下顎骨の異常により顎顔面の形態的異常と咬合の異常をきたすものです。

当院では、正常な咬合関係の確立、各種口腔機能の回復、顔面の審美的改善をめざし、顎矯正手術に積極的に取り組んでいます。今年度は地域の矯正専門医との連携のもと、20症例を超える、上下顎同時移動術、SSRO/IVRO等の下顎単独手術、上下顎前歯部歯槽骨切り術を施行することができました。

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死、骨髄炎に対する歯科口腔外科的アプローチ

骨粗鬆症、がんの骨転移に対する特効薬に骨吸収抑制薬があります。特効薬である反面、投与中の抜歯等の処置が「顎骨壊死(顎の骨が腐る)」を起こす可能性があります。投与開始前のチェックに加えて、服用を開始している患者さんの抜歯や、顎骨壊死・骨髄炎を起こしてしまった患者さんに対する治療も口腔ケアを基本治療として、根治的な治療をめざして積極的に取り組んでいます。

周術期口腔機能管理

口腔ケアを行うことで、がん手術後の誤嚥性肺炎の発症率が低下し、入院期間の短縮に結びつき、結果として医療費削減という経済効果も期待されています。口腔ケアを行うことで、抗がん剤投与や、放射線治療による口内炎を起こしにくくなり、疼痛緩和等の症状改善にも貢献し、副作用は軽減します。これらを専門的には、周術期口腔機能管理と呼んでいます。その周術期口腔機能管理の適応はがん治療ばかりでなく、心臓の手術や、人工関節等を留置する整形外科手術、移植手術などにも適応が拡大してきています。

先天性無歯症外来

医学研究所北野病院では、歯の再生治療薬の試験を計画しています。ご本人あるいはご家族の方で、次に当てはまる方は先天性無歯症かも知れません。

- 15歳になっても乳歯が残っている。
 - 乳歯が抜けたのに永久歯が生えてこない。
 - 歯の数が4本以上少ないと言われたことがある。
- 2030年に患者さんへ治療薬をお届けすることをめざしています。上記に心当たりのある方は担当医にお尋ねください。



スタッフ紹介



主任部長
高橋 克 (たかはし かつ)

- 〈専門領域〉
- 歯科口腔外科
 - 顎変形症
 - 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死

資格など

- 医学博士
- 日本口腔科学会指導医
- 日本口腔外科学会口腔外科指導医
- 日本再生医療学会再生医療認定医
- 日本口腔科学会口腔外科認定医
- 日本口腔外科学会口腔外科専門医
- 日本小児口腔外科学会指導医
- 歯科医師臨床研修指導医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
上田 優貴子 (うえだ ゆきこ)	副部長	口腔外科、小児口腔外科

当科で可能な主要検査

- CT
- MRI
- 骨シンチグラフィ

診療対象となる主な疾患

● エプーリス	● 頬部蜂窩織炎	● 黒毛舌	● 先天性無歯症
● 開咬	● 口腔乾燥症	● 歯原性腫瘍	● 咀嚼筋腫・腱膜過形成症
● 下顎後退症	● 口腔内腫瘍	● 歯原性嚢胞	● 唾液腺疾患
● 下顎前突症	● 口腔内嚢胞	● 歯根嚢胞	● 唾石症
● 下顎非対称	● 口唇粘液嚢胞	● 上顎後退症	● 白板症
● 顎下部蜂窩織炎	● 口腔粘膜疾患	● 上顎前突症	● 抜歯(難抜歯、智歯抜歯)
● 顎関節症	● 口腔扁平苔癬	● 上下顎非対称	● プランダン・ヌーン嚢胞
● 顎関節脱臼	● 溝状舌	● 睡眠時無呼吸症候群	● 埋伏智歯
● 顎顔面領域の外傷	● 口内炎	● 正中過剰埋伏歯	● 疣性口腔粘膜黄色腫
● がま腫	● 紅板症	● 舌炎	

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

泌尿器科

泌尿器科領域における悪性疾患のみならず、尿路結石や排尿障害、尿路感染症などの良性疾患についても、質の高い内科的・外科的治療を行っています。結石発作、腎盂腎炎、急性陰嚢症などに対する救急治療にも積極的に対応しています。



ロボット支援手術(ダ・ヴィンチ)

当科では「ダ・ヴィンチ・サージカルシステム」によるロボット支援体腔鏡手術を行っています。現在までに250例以上の実績があり、前立腺がんに対する前立腺全摘除術に加え、2016年より腎がんに対する腎部分切除術、そして2022年からは腎がんに対する腎摘除術、腎盂尿管がんに対する腎尿管全摘除術、腎盂尿管移行部狭窄症に対する腎盂形成術も開始しました。

重症過活動膀胱に対する手術療法

重症の過活動膀胱に対する外科的治療として、2018年より仙骨神経刺激療法(SNM)を開始しました。特殊な電極を用いて膀胱に持続的に電気刺激を与えることにより、薬物治療が無効な患者さんでも良好な治療効果を得ることができます。また、2020年にはボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法も開始しました。尿道からの内視鏡操作にて、膀胱の筋層内にボツリヌス毒素を注入し、1回の処置で約6カ月間膀胱の過剰な活動を抑制することができます。

前立腺肥大症に対する経尿道的手術(PVP、HoLEP)

前立腺肥大症に対する経尿道的手術として、当科ではグリーンライトレーザーを用いた前立腺蒸散術(PVP)およびホルミウムレーザーを用いた前立腺核出術(HoLEP)を行っています。PVPは軽症~中等症の肥大症に対し、出血が少なく安全な処置を行うことが可能であり、HoLEPは高度な肥大症に対し、効率的でより根治的な組織摘除を行うことができます。

スタッフ紹介



主任部長
岡田 卓也 (おかだ たくや)

- 〈専門領域〉
- 泌尿器科全般

資格など

- 日本泌尿器科学会認定専門医
- 日本泌尿器科学会認定指導医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器腹腔鏡技術認定医



部長
宗田 武 (そうだ たけし)

- 〈専門領域〉
- 泌尿器科全般

資格など

- 日本泌尿器科学会認定専門医
- 日本泌尿器科学会認定指導医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会認定技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
- 日本排尿機能学会認定医
- 日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会認定泌尿器ロボット支援手術プロクター

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	医師名	役職
牧田 哲幸 (まきた のりゆき)	医員	大塚 光 (おおつか ひかり)	医員

● 専攻医 1名

診療対象となる主な疾患

● 陰嚢水腫	● 腎損傷	● 精巣上体炎	● 尿失禁	● 副腎がん
● 過活動膀胱	● 腎嚢胞	● 前立腺炎	● 尿道狭窄	● 副腎良性腫瘍
● 血尿	● 水腎症	● 前立腺がん	● 尿道損傷	● 包茎
● 腎盂尿管がん	● 精索静脈瘤	● 前立腺肥大症	● 尿路感染症	● 膀胱炎
● 腎がん	● 精巣がん	● 尿管狭窄	● 尿路結石症	● 膀胱がん
● 神経因性膀胱				

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

小児外科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
小児
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

断らない医療

「断らない医療」をモットーとしています。小児科との密接な連携のもと、24時間365日小児外科医がオンコール体制をとり、夜間休日でも救急対応しています。救急依頼や診療のご相談に関しましては、ご遠慮なく小児外科医にご連絡ください。

こどもに優しい医療

こどもに優しい(低侵襲)内視鏡外科手術(腹腔鏡手術・胸腔鏡手術)を数多く施行しています。内視鏡外科手術は傷が小さく、入院期間も短縮されます。日本内視鏡外科学会技術認定医(小児外科領域)が安全性を重視した手術をしています。

こどもや家族の負担を軽減する医療

「日帰り手術」を積極的に導入しています。鼠径ヘルニアや陰嚢水腫、臍ヘルニア、停留精巣、体表疾患など、全手術の半数の手術を「日帰り」で行っています。入院を必要としない「日帰り手術」は、子どものみならず御家族の負担も軽減します。

チーム医療

北野病院小児外科・小児科は、診療科の概念にとらわれることなく、こども中心の「チーム医療」を心がけています。小児外科入院患児は、常時小児科との併診体制がとられていますので、ご安心して治療をお受けください。



スタッフ紹介



副院長 兼 主任部長 兼 救急科部長
兼 初期診療センター長 兼 漏胸センター長
兼 医療の質管理本部長

佐藤 正人 (さとう まさひと)

〈専門領域〉

- 小児内視鏡外科 ■ 小児外科

資格など

- 医学博士 ■ 日本外科学会外科専門医
- 日本外科学会外科指導医 ■ 日本小児外科学会小児外科専門医
- 日本小児外科学会指導医 ■ 日本小児外科学会近畿地方会評議員
- 日本消化器外科学会認定医 ■ 日本内視鏡外科学会技術認定医(小児外科)
- 日本内視鏡外科学会評議員・COI委員会委員
- 日本小児血液・がん学会 小児がん認定外科医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 ■ 近畿外科学会評議員
- International Pediatric Endosurgery Group Member
- Pacific Association of Pediatric Surgeons Member



部長
福澤 宏明 (ふくざわ ひろあき)

〈専門領域〉

- 先天性胆道拡張症 ■ 小児門脈奇形
- 内視鏡手術(先天性胆道拡張症、胃食道逆流症、鼠径ヘルニアなど)
- 小児がん手術 ■ 新生児手術 ■ 鼠径ヘルニア

資格など

- 医学博士 ■ 日本外科学会外科専門医
- 日本外科学会外科指導医 ■ 日本小児外科学会小児外科専門医
- 日本小児外科学会指導医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医(小児外科、一般消化器外科)
- 日本小児血液・がん学会小児がん認定外科医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本周産期新生児学会認定外科医 ■ 緩和ケア研修修了
- 医療安全管理者養成講座修了 ■ 日本内視鏡外科学会評議員
- 日本小児外科学会近畿地方会評議員
- 日本膵胆管合流異常研究会世話人 ■ 日本LPEC研修会世話人

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
遠藤 耕介(えんどう こうすけ)	副部長	小児外科一般、小児内視鏡外科、小児がん
園田 真理(そのだ まり)	副部長	小児外科一般

医師名	役職	専門領域
東尾 篤史(ひがしお あつし)	副部長	小児外科一般

● 専攻医 1名

診療対象となる主な疾患

小児外科では脳脊髄、眼、心臓、骨を除くすべての疾患を治療します。

顔面・頸部	食道	小腸・大腸	肝・胆・膵・脾・門脈	泌尿器
● 耳前瘻孔 ● 副耳 ● 舌小帯短縮症 ● 正中頸嚢胞 ● 側頸嚢胞 ● 梨状窩瘻 など	● 先天性食道閉鎖症 ● 先天性食道狭窄症 ● 食道アカラシア ● 胃食道逆流症 ● 消化管異物 など	● 壊死性腸炎 ● 先天性腸閉鎖症・狭窄症 ● 胎便性腹膜炎 ● 腸回転異常 ● メッケル憩室 ● 消化管重複症 ● 腸重積症 ● 急性虫垂炎 ● 潰瘍性大腸炎・クローン病 ● 消化管ポリープ ● ヒルシュスプルング病 ● 腸閉塞(イレウス・腸管癒着症) など	● 先天性胆道閉鎖症 ● 先天性胆道拡張症 ● 胆石症 ● 膵炎 ● 膵嚢胞 ● 脾臓疾患 ● 門脈圧亢進症 など	● 水腎症・水尿管症 ● 嚢胞性腎疾患 ● 膀胱尿管逆流症 ● 尿道下裂 ● 包茎 など
肺・気管・胸壁	横隔膜	直腸・肛門	腹壁・臍・鼠径部・精巣・卵巣	腫瘍
● 肺分画症 ● 漏斗胸 ● 気管切開 など	● 食道裂孔ヘルニア ● 横隔膜ヘルニア ● 横隔膜弛緩症 など	● 鎖肛(直腸肛門奇形) ● 肛門周囲膿瘍 ● 痔瘻 ● 痔核 ● 便秘 など	● 腹壁破裂 ● 臍帯ヘルニア ● 臍ヘルニア ● 臍腸管・尿管遺残 ● 鼠径ヘルニア ● 陰嚢水腫 ● 停留精巣 ● 急性陰嚢症(精巣捻転など) ● 卵巣疾患 など	● 神経芽細胞腫 ● 腎芽腫 ● 肝芽腫 ● 横紋筋肉腫 ● リンパ管腫 など
胃・十二指腸	腸	その他		
● 胃十二指腸潰瘍 ● 胃軸捻転 ● 肥厚性幽門狭窄症 など	● 腸閉塞(イレウス・腸管癒着症) など	● 重症心身障碍患者 さんは成人症例も 治療しています		

太字：内視鏡外科(腹腔鏡・胸腔鏡など)手術が可能
下線：日帰り手術可能

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

産婦人科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
小児
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

総合病院の利点を生かした安全な妊娠・出産

大阪府の地域周産期母子医療センターに指定されており、OGCS搬送にも積極的に対応しています(早産症例は原則として妊娠26週以後)。また分娩時の疼痛管理に関しては、麻酔科と連携して予定帝王切開時の硬膜外麻酔併用による術後疼痛緩和を積極的に行うとともに、2024年2月より硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を開始しました。

婦人科良性疾患に対する低侵襲手術

子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)に対しては、1泊入院でのLEEP手術が施行可能です。また婦人科良性疾患に対する低侵襲手術に関しては、子宮・卵巣良性疾患に対する腹腔鏡手術、子宮良性疾患に対するロボット支援手術にも積極的に取り組んでいます。

子宮悪性腫瘍に対する低侵襲治療

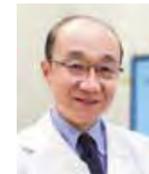
子宮頸がんに対してはセンチネルリンパ節生検、広汎子宮頸部摘出術による術後QOLの保持に努めています。また子宮頸がん、子宮体がんに対する腹腔鏡下根治手術、ロボット支援手術(子宮体がん)も学会の施設認定を受けて施行しています。

遺伝子情報にもとづく婦人科悪性腫瘍治療の個別化

院内遺伝子カウンセラーと連携しながら、家族性乳がん卵巣がん症候群の患者さんに対する予防的卵巣卵管切除術に積極的に取り組んでいます。また通常の卵巣がんや難治性婦人科がんに対しても、遺伝子情報に基づいて化学療法を選択を行っています。



スタッフ紹介



主任部長
樋口 壽宏 (ひぐち としひろ)

〈専門領域〉

- 婦人科腫瘍
- 産婦人科一般

資格など

- 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
- 日本産科婦人科学会産婦人科指導医
- 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医
- 日本婦人科腫瘍学会指導医
- 母体保護法指定医
- 全日本病院協会医療安全管理者
- da Vinci surgical system Off-site training program修了

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
吉岡 弓子(よしおか ゆみこ)	副部長	産婦人科、婦人科腫瘍
小園 祐喜(こぞの ゆうき)	副部長	産婦人科一般、ロボット支援手術、腹腔鏡手術
児嶋 真千子(こじま まちこ)	副部長	産婦人科一般

医師名	役職	医師名	役職	専攻医 6名	非常勤医師 3名
森部 絢子(もりべ あやこ)	医員	大月 美輝(おおつき みき)	医員		
河合 恵理(かわい えり)	医員	山内 綱太(やまうち こうた)	医員		
岩井 夏実(いわい なつみ)	医員	中村 しほり(なかむら しほり)	医員		
高折 彩(たかおり あや)	医員	三枝 遥(みえだ はるか)	医員		

診療対象となる主な疾患

● 異所性妊娠(子宮外妊娠)	● 子宮内膜症	● 常位胎盤早期剥離	● 切迫早産	● 双胎妊娠
● 子宮筋腫	● 子宮内膜ポリープ	● 子宮頸部上皮内腫瘍	● 切迫流産	● 卵巣・卵管・腹膜がん
● 子宮頸がん	● 子宮肉腫	● 正常妊娠	● 前置胎盤	● 卵巣腫瘍
● 子宮体がん				

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

麻酔科・集中治療部

麻酔科

豊富な麻酔症例

当院麻酔科では年間3,500~3,800件の麻酔症例を管理し、そのうち3,100~3,400件が全身麻酔です。生後間もない未熟児から100歳を超える超高齢者まで、様々な方の麻酔管理を日夜行っています。

充実した麻酔科スタッフ

常勤の麻酔科スタッフは14名、麻酔科専門医10名、レジデント2名(2022年4月現在)。夜間休日においても麻酔科医師1~2名が24時間365日、院内に常駐して緊急手術に対応しています。

説明と同意に基づいた麻酔方法

手術術式と患者さんの全身状態から判断して最適と思われる麻酔方法を考えます。執刀医や関係科医師らとも打ち合わせます。さらに実際の麻酔手順や麻酔の副作用などについて患者さんに詳しく説明させていただき、十分にご納得された上で麻酔方法を決めています。

疼痛管理

当院ではペインクリニック外来は開設していませんが、入院患者さんの疼痛に関しては可能な範囲で対応させていただきます。

スタッフ紹介



麻酔科 主任部長 兼 中央手術部 部長

加藤 茂久 (かとう しげひさ)

〈専門領域〉

■ 麻酔全般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医



集中治療部 主任部長

宮崎 嘉也 (みやざき よしや)

〈専門領域〉

■ 疼痛治療 ■ 集中治療医学
■ 麻酔全般

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本麻酔科学会認定医
- 日本ペインクリニック学会認定専門医
- I・C・D
- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医
- 日本集中治療医学会認定専門医



麻酔科 部長

黒崎 明子 (くろさき あきこ)

〈専門領域〉

■ 小児麻酔

資格など

- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医
- 日本小児麻酔学会認定医
- 日本小児麻酔学会代議員

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
原 朋子 (はら ともこ)	副部長	
前川 俊 (まえかわ しゅん)	副部長	麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療医学
直井 紀子 (なおい のりこ)	副部長	
村田 裕 (むらた ゆたか)	副部長	麻酔全般

医師名	役職	医師名	役職	
足立 健彦 (あだち たけひこ)	医員(嘱託)	中辻 史織 (いとう しおり)	医員	● 専攻医 5名
柚木 圭子 (ゆきの けいこ)	医員	辻 和也 (つじ かずや)	医員	● 非常勤医師 5名

中央手術部

中央手術部では外科系各科の手術および全身麻酔の必要な処置・治療が円滑に行えるように、管理運営を行っています。

当院では、年間8,000件ほどの手術を施行しており、医師・看護師・臨床工学技士などがチームとして協力して運営にあたっています。また、アイセンター開設に伴い、眼科ならびに局所麻酔用手術室を2室新設し、2023年1月より稼働を開始しました。さらに2023年秋には中央手術室を拡張し、新たにハイブリッド手術室と心臓外科専用手術室を稼働させました。

手術を受ける患者さんの不安が少しでも少なくなるよう、そして安全に手術が受けられるよう、スタッフが丸となって援助させていただきます。

デイ・サージャリー室(眼科ならびに局所麻酔用)



手術室



手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」を使用した手術風景



放射線診断科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

PET/CTを導入

2021年に高感度のPET/CT装置を導入し、悪性腫瘍の病期診断、転移・再発の診断に有用なFDG-PET/CT検査を行っています。院外からも地域医療サービスセンターを通じて検査のご依頼が可能です。経験豊富な専門医が診断を行う体制が整っています。

画像診断の質の向上

コロナ禍の中で導入された京大病院放射線診断科の専門領域のオンラインカンファレンスに積極的に参加し、院内各科や科内のカンファレンスともあわせ、画像診断の質の向上に日々取り組んでいます。

主な機器紹介

X線CT組合せ型ポジトロンCT装置 (PET/CT)

当院で導入されたPET/CT装置は、体軸方向に26cmという最大級の視野を持つ検出器を搭載し、従来機種に比較して圧倒的な高感度を実現しています。また、最新のPET画像再構成法により、「画質」と「定量精度」の向上を同時に実現しています。これらにより、病変の描出能の向上、隣接する病変の識別能の向上、肝などのノイズの大きな臓器での画質の向上が実現し、高い診断能によりがん診療に貢献します。



核医学診断用検出器 回転型SPECT装置

当院で導入されたSPECT装置は、新たな低エネルギー高感度・高分解能コリメータにより、画質の向上と短時間収集を同時に実現します。検出器が移動する間もデータを収集する新たな撮像方法により、SPECT収集カウンターの最大20%増が可能となり、撮像時間の短縮、病変描出能の改善をもたらします。さらに、最新の核医学装置専用ワークステーションを使用することにより、様々な検査目的を持つ核医学診断に適した定量解析が可能となりました。骨シンチ、脳血流シンチ、DATシンチ、そして心筋シンチなど、新たなSPECT装置により診療の質の向上をめざして参ります。

院外からの検査のご依頼にも対応

PET/CTだけでなく、CT・MRI・SPECT検査も院外からのご依頼が可能です。専用の予約枠を設けています。地域医療サービスセンターを通じてご依頼いただき、検査後には画像データ (CD-R) ・診断報告書をお送りします。

多職種連携したチーム医療で最適な検査を

画像診断は、放射線診断科医師だけでなく、検査ご依頼の医師、診療放射線技師、看護師など多くの方が関わるチーム医療で成り立っています。多職種間の連携を図り、患者さんに有益な検査・IVRが安全・適切に施行されるように努めています。

病理診断科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

京都大学の病理診断科と緊密に連携

当院の他の診療科と同じく、京都大学の病理診断科と緊密な連携をとり、スタッフの派遣や稀少症例の確定診断のための免疫染色やFISH法の実施などで協力体制を敷き、診断レベルの向上に努めています。

スタッフ紹介



主任部長
本庄原 慎一 (ほんじょう げん)

〈専門領域〉
■ 外科病理一般 ■ 病理診断

資格など

- 日本病理学会病理専門医
- 日本病理学会病理専門医研修指導医
- 日本臨床細胞学会細胞診断専門医
- 日本臨床細胞学会細胞診指導医
- 死体解剖資格

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職
小谷 健太郎 (おだに けんたろう)	医員

当科で可能な検査

- 細胞診断
- 手術で摘出された臓器・組織の診断
- 病理解剖
- 生検組織診断
- 手術中の迅速診断

スタッフ紹介



主任部長 兼 放射線部 部長
石守 崇好 (いしもり たかよし)

〈専門領域〉
■ 放射線診断科 ■ 画像診断
■ 核医学 ■ PET-CT

資格など

- 日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科研修指導者
- 日本核医学会認定核医学専門医
- 日本核医学会認定PET核医学認定医
- 京都大学臨床教授



部長
広川 侑奨 (ひろかわ ゆうすけ)

〈専門領域〉
■ 画像診断 ■ 核医学 ■ IVR

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本医学放射線学会認定放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会認定放射線科研修指導者
- 日本核医学会認定核医学専門医
- 日本核医学会認定PET核医学認定医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医 (評価A-S)
- 臨床研修指導医

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
久保 滋人 (くぼ しげと)	副部長	画像診断、女性骨盤、肝胆膵、心血管領域
澤田 健 (さわだ たけし)	副部長	画像診断、神経放射線
糟谷 誠 (かすや まこと)	副部長	画像診断

医師名	役職	医師名	役職	● 専攻医 3名
奥村 亮介 (おくむら りょうすけ)	医員 (嘱託)	高田 知和 (たかだ ともかず)	医員	
井上 依里香 (いのうえ えりか)	医員	伊藤 玲佳 (いとう れいか)	医員	
油谷 英孝 (ゆたに ひでたか)	医員			

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
歯科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
歯科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

重症感染症症例における感染症診療に関する助言・指導・診療

臨床検査部の協力を得ながら、菌血症症例などの重症感染症の診断・治療や無菌検体からの細菌検査陽性症例などを選択して、助言、指導、および診療をしています。各診療科の主治医や担当医師からの情報を得て方針を確認した上でカンファレンスにて全員で治療内容を検討し、感染症診療に関する治療上の問題点や方針を討議しています。

抗菌薬適正指導 (AST) 活動

広域抗菌薬・抗MRSA薬などを使用する重症感染症症例、治療薬選択が難しい薬剤耐性菌感染症症例などを当科が選択し、適切な抗菌薬治療の助言、指導、および診療を行っています。これにより、適切な抗菌薬使用推進をはかっています。

感染症コンサルテーション

様々な感染症に対して各診療科から入院・外来を問わず、随時対診を受けています。患者さんの状態や検査データなどから抗菌薬の選択や感染症治療に関する相談に加え、退院に向けたプロセスなど、長期的な視点をもったコンサルテーションを実施しています。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 後遺症の診療

COVID-19の感染拡大に伴いCOVID-19後遺症患者も増加し、その受診の受け皿がないことが問題となっています。後遺症の専門外来では、多彩な臨床症状を呈する後遺症患者の総合的なアプローチによる診療を行っています。



スタッフ紹介



部長 兼 病院長補佐 (感染制御対策担当)
兼 感染制御対策室長
兼 初期診療センター副センター長

丸毛 聡 (まるも さとし)

〈専門領域〉

- 気管支喘息
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 抗酸菌症
- 間質性肺炎

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医
- 日本結核病学会結核非結核性抗酸菌症認定医
- 日本結核病学会結核非結核性抗酸菌症認定指導医
- 日本感染症学会感染症専門医
- Infection Control Doctor
- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会内科指導医
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医



部長
羽田 敦子 (はた あつこ)

〈専門領域〉

- 夜尿
- 感染症
- 腎臓

資格など

- 医学博士
- 日本小児科学会認定指導医
- 日本感染症学会認定指導医
- 日本小児感染症学会認定暫定指導医
- 日本化学療法学会認定抗微生物療法指導医
- 日本小児科医学会子どもの心相談医
- 日本小児科学会認定専門医
- 日本感染症学会認定専門医
- 日本感染症学会評議員
- ICD (infection control doctor)
- 日本夜尿症学会理事

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域
井上 大生 (いのうえ だいき)	呼吸器内科部長 兼 感染制御対策室副室長	呼吸器内科全般
中島 俊樹 (なかじま としき)	リウマチ膠原病内科副部長 兼 感染制御対策室副室長 (感染症科 兼務)	臨床免疫学 (リウマチ・膠原病疾患)

医師名	役職	医師名	役職	非常勤医師 1名
山本 健人 (やまもと たけひと)	医員 (感染症科 兼務)	藤田 昌昭 (ふじた まさあき)	客員研究員	

診療対象となる主な疾患

● 脳膿瘍・髄膜炎などの中枢神経系感染症	● 感染性心内膜炎などを含む菌血症	● 肺炎・膿胸などの呼吸器感染症
● 腸管感染症	● 肝膿瘍・胆管炎などの肝・胆道系感染症	● 尿路感染症
● 皮膚・軟部組織・骨関節感染症	● ウイルス感染症全般 (COVID-19含む)	● 不明熱 など

※上記疾患以外の受診についても、地域医療サービスセンターまでお問い合わせください。

病院機能の活用による質の高い健診

個々の検査について専門医が診断し、健診を専門とする医師がそれらを統合して判定し、説明を行っています。当人間ドックで発見された異常については、関連各科と連携し、できる限り早期確定診断、早期治療ができるように取り計らっています。

チーム医療

医師、看護師、管理栄養士、検査技師、放射線科技師、事務といった多職種によるチーム医療で、単に検査するだけでなく受診者一人ひとりの個性や生活環境に応じた健康管理をめざします。

科学的根拠に基づく健診

検査項目などの選定だけでなく、結果のフィードバックや生活習慣改善への介入においてもEBMの実践をめざしたプログラムの開発をめざしています。また、この分野におけるエビデンスの発信を積極的に行っていくことを念頭に、臨床および研究活動を行っています。

人間ドックについて

当院では予防医学の重要性に早くから注目し、1955年に人間ドックを開業して以来、長年にわたり、人間ドックを行ってきました。当人間ドックでは受診日当日に医師による検査結果の説明と二次検査あるいは各科受診の指示を行っています。さらに、精査加療の必要性が認められた場合には、院内担当診療科への早期紹介や病状安定化後の経過観察も行っていきます。

● 1泊2日コース

14階の特別個室にお泊りいただき、時間をかけて全身チェックを行います。2日目に、糖負荷検査 (OGTT)、眼底検査、結果説明を行います。

● 日帰りコース

午前中に検査を行い、管理栄養士による食事指導を受けながらの昼食後、午後に結果の説明、および今後の生活習慣病予防のための指導を個別に行います。お忙しい方にピッタリのコースです。

● 脳ドック

MRI、MRA、頸動脈エコー、頭頸部X線検査に、心電図、胸部XP、眼底検査、血液・尿検査を行います。また、MRI、MRA、頸動脈エコー、頭頸部X線検査のみを行う「脳画像診断コース」もご紹介します。日帰りドックと同じく昼食後、午後からは脳神経外科、または脳神経内科医師による結果説明を行います。

● 心臓ドック (1泊2日コース)

運動負荷検査、心臓エコー検査などの心臓生理検査に加えて、長時間の心電図測定などの不整脈や心不全に関する検査や、睡眠時無呼吸に関する検査も実施いたします。2日目に、循環器内科医師による結果説明を行います。

※1泊ドックコースでは以下のオプション検査を追加することが可能です。

- 大腸検査 (大腸ファイバースコープ)
- 脳検査
- 心臓検査 (詳細または簡易)
- 肺検査
- PET-CT検査 (日帰りコースでも選択できます)

スタッフ紹介



センター長
塚本 達雄 (つかもと たつお)

〈専門領域〉

- 総合内科
- 腎臓内科学

資格など

- 医学博士
- 日本内科学会認定指導医
- 日本腎臓学会評議員
- 日本アフェシス学会認定血漿交換療法専門医
- 日本急性血液浄化学会認定指導者
- 日本内科学会認定内科医
- 日本腎臓学会認定専門医
- 日本透析医学会認定専門医
- 日本人間ドック・予防医療学会会員
- 京都大学医学部臨床教授



部長
中川 靖章 (なかがわ やすあき)

〈専門領域〉

- 心不全
- 循環器全般

資格など

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本内科学会指導医
- 日本循環器学会循環器専門医
- 日本人間ドック学会遺伝学的検査アドバイザー
- 日本心不全学会代議員
- 京都大学大学院医学研究科客員研究員
- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本総合健診医学会総合健診医
- 補助人工心臓治療関連学会協議会植込型補助人工心臓管理医
- Fellow of the European Society of Cardiology
- 臨床研修指導医講習修了
- 京都大学医学博士

〈所属医師・スタッフ〉

医師名	役職	専門領域	専攻医 3名
豊田 絵子 (とよた えいこ)	副部長	予防医学、産業保健	
遠藤 真紀子 (えんどう まきこ)	副部長	予防医学、産業保健	
榊原 敦子 (さかきばら あつこ)	副部長	一般産婦人科学、婦人科腫瘍学	

リハビリテーション科

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

急性期リハビリテーション

急性期病院としての役割を担う集中治療期を含む早期からリハビリテーション介入をさせていただきます。早期介入による早期機能回復をめざしています。

訪問リハビリテーション

退院後の在宅生活において身体機能の回復・ADLの向上および疾病管理をめざし北区・都島区の方を中心に訪問リハビリテーションを行っています。病院と地域の方々の架け橋になるべく活動しています。

サイボーグ型ロボットHAL® (Hybrid Assistive Lumb®) 外来

サイボーグ型ロボットHAL® (Hybrid Assistive Lumb®) 医療用下肢タイプを用いた外来リハビリテーションを行っています。脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入対筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー、HTLV-1関連脊髄炎、遺伝性痙性対麻痺が対象となっています。



栄養部

救急
消内
消外
循内
不整脈
心外
呼内
呼外
脳内
脳外
腫内
放治療
糖内
腎内
小児
リ膠
血内
精神
緩和
乳腺
整形
形成
皮膚
眼科
耳鼻
齒科
泌尿
児外
産婦
麻酔
手術
放診断
病理
感染
健診
リハ
栄養
看護
薬剤
支援
チーム
がん

栄養管理業務

当院の管理栄養士は病棟にいます。診療計画と病態を把握した管理栄養士が患者さんのベッドサイドで「顔の見える管理栄養士」として食事摂取状況や体重・筋肉量の変動など多角的に栄養状態を評価し、栄養管理計画を策定しています。また、入退院サポートステーションにおいて、看護師・薬剤師と共に入院前から患者さんの栄養評価をしています。



チーム医療

チーム医療へは栄養サポートチーム (NST)、褥瘡対策チーム、口腔ケア・嚥下リハビリチーム、がんリハビリチーム、緩和ケアチームなどに所属し、職種部門を超えた活動に参画しています。



栄養食事指導・患者会

栄養食事指導を通じて患者さんの正しい食生活を支えます。外来と入院で個人栄養指導を、また糖尿病教室など、他部門と協力し集団栄養指導も行っています。継続した支援ができるよう患者会「糖尿病患者会 (パンジーの会)」へ積極的に参加しています。

給食管理業務

栄養管理計画に基づき、安全・安心・美味しい病院食を提供します。管理栄養士、調理師と「献立会議」を開催しおいしさの向上に努めています。



栄養指導

● 個別栄養指導 (1回約30分：予約制)

糖尿病や腎臓病の食事療法をはじめ、心疾患や肝疾患などの慢性疾患、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、手術後の食事、がん、摂食・嚥下困難、低栄養の患者さん、嚥下調整食など病状や食生活に応じた栄養食事指導を行っています。

● 集団栄養指導 (1回約60分：予約制)

集団指導	糖尿病集団指導
開催日時	毎週火曜日 14:00~15:00
備考	糖尿病をはじめとする生活習慣病の患者さん対象

スタッフ紹介



栄養部 部長
兼 糖尿病内分泌内科 副部長
本庶 祥子 (ほんじょ さちこ)

〈専門領域〉
■ 内分泌代謝 ■ 糖尿病

資格など

- 日本内科学会認定内科医
- 日本糖尿病学会認定専門医
- 日本内分泌学会認定指導医
- 日本病態栄養学会認定指導医
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本内分泌学会認定専門医

〈スタッフ〉 管理栄養士 17名

〈認定資格〉 糖尿病療養指導士、病態栄養認定管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、静脈経腸栄養 (TNT-D) 管理栄養士、腎臓病療養指導士 他

看護部

看護部では、地域の皆さまの信頼に応えられるように、急性期病院におけるあらゆる疾患の患者さんに適切で質の高い看護を提供できるよう取り組んでいます。

幅広い看護の知識・技術をもったジェネラリスト看護職を育成することと、より専門領域に対応できるスペシャリスト看護職を育成することを両輪として、看護職員の育成を推進し、患者さんやご家族の多様なニーズに応じた看護実践をめざしています。

また、高度先進医療を提供できるように医師・コメディカルと協働し、患者さんを中心としたチーム医療を強化しています。

看護部の理念「へだてなく、よりの確に、こまやかに」

より質の高い看護を分け「へだてなく」公平に、患者さんの病状・状況に応じて「よりの確に」、個性に応じた温かみのある看護を「こまやかに」提供できるように、日々努力しています。

看護部の方針

1. 看護専門職として、一人ひとりが高い倫理観に基づいた自律的な看護実践を行う。
2. 科学的根拠に基づいた安全で質の高い看護を提供する。
3. チーム医療メンバーとして多職種と協働し患者中心の看護を提供する。
4. 病院職員として、病院の健全経営に参画する。
5. 看護専門職として実践・教育・研究の能力を継続的に開発し、組織の発展に努める。

看護部ビジョン

1. やりがいを持って働き続けられる組織
2. 一人ひとりの成長とキャリア開発による質の高い看護の提供
3. 現場の声へだてなく届き改善につながる組織

看護部体制

看護部門の職員は、看護師、助産師などの看護職者と看護補助者、保育士で構成されています。一般病棟、ICUなど集中治療が必要なユニット、小児科病棟、手術室、外来部門など、院内の各部門・部署で活動しています。また、専門看護師・認定看護師などのスペシャリストを病棟や外来あるいは専従者として配置しています。

看護部の特色

1. **地域連携を強化し、安全・安心な入退院支援を行います**
患者さんが住み慣れたご自宅や地域の医療機関から安心して当院に入院し、退院できるように、医師・薬剤師や栄養士などと協働して入院前から退院までの安全・安心な看護を提供します。外来・病棟の全看護職員が地域の医療・福祉・行政機関と連携する重要性を理解して患者さんやご家族を支援できるように、地域医療サービスセンターとの連携を強化しています。
2. **専門性の高い看護を提供します**
当院では、専門性の高い知識や技術をもった専門・認定看護師が2024年4月現在16領域21名います。専門・認定看護師は患者さんに専門性の高い看護を提供するとともに、当院の看護職の相談に応じ、指導するなど、全看護職の看護の質を高めています。専門・認定看護師たちは患者さんや看護職の資源であり、「リソースナース」(右表参照)として活動しています。特定行為研修を修了した看護師も6名いて、医師の手順書・指示のもとに患者さんにタイムリーな対応ができるよう活動しています。
3. **医療チームの一員として患者さん中心の看護を提供します**
急性期病院としての機能を果たすために、どの部署の看護職も急性期の看護を提供できるように院内集合教育とOn The Job Trainingを充実させています。患者さん中心の看護を医療チームの一員として提供できるよう多職種と連携し、患者さんの生活背景を理解し、一人ひとりの患者さんに応じた看護を提供できるよう努めています。



スタッフ紹介

〈リソースナース〉

●専門看護師(日本看護協会認定)	
がん看護専門看護師	1名
感染症看護専門看護師	1名
●認定看護師(日本看護協会認定)	
感染管理認定看護師	1名
糖尿病看護認定看護師	1名
皮膚・排泄ケア認定看護師	2名
緩和ケア認定看護師	3名
乳がん看護認定看護師	1名
集中ケア認定看護師	1名
認知症看護認定看護師	2名
慢性心不全看護認定看護師	1名
がん放射線療法看護認定看護師	1名
がん化学療法看護認定看護師	1名
がん薬物療法看護認定看護師	1名
手術看護認定看護師	2名
救急看護認定看護師	1名
新生児集中ケア認定看護師	1名
●特定行為研修修了看護師(再掲)	
皮膚・排泄ケア認定看護師	2名
がん薬物療法看護認定看護師	1名
緩和ケア認定看護師	1名
手術看護認定看護師	2名
16領域 計 21名	

薬剤部

治療方針

- 患者さんや他の医療従事者から信頼されて活躍できる薬剤師をめざします。
 - 北野病院の理念、運営および地域医療に対して積極的に貢献します。
 - 薬剤部職員がやりがいと医療人としての誇りを感じ取ることができる薬剤部にします。
 - 「北野ビジョン」に対応する薬剤部にします。
- 下記の項目を推進・貢献します。
- 医療安全の確保
 - 病棟業務・チーム医療の充実
 - 病院経営への関与
 - 医薬品の適正使用の推進
 - 生涯学習(自己研鑽)・臨床研究
 - 教育・改善・ICT・広報



体制

入院患者さんに対する関わり

- **入院前からの持参薬確認**
地域連携を強化させる上で、現在服用中の薬剤を把握することは入院後の治療をより適切に行う上で最も大切なことです。患者さんの薬と手術や検査などに関わる安全性のさらなる向上をめざして、入院が決まると外来通院中に薬剤師が持参薬を確認し、必要に応じて医師の指示のもと服用中止などの説明を行います。紹介される際には、薬だけでなく、薬袋・薬の説明書・お薬手帳も大切な情報源ですので必ずお持ちいただくようお願いください。入院当日も薬剤師が面談を行い、正確な服薬状況を把握し、入院スタッフと情報共有をはかっています。
※持参薬とは、患者さんが入院時に持ち込まれる普段お使いになっている薬(飲み薬・点眼薬・貼り薬・注射など全てのお薬)
- **チーム医療**
感染制御や栄養サポートなどの組織横断的な専門医療チームにも参画しています。
- **病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務**
薬物療法の有効性と安全性の向上、チーム医療の充実をめざして、全病棟に病棟薬剤師を配属しています。処方歴、電子カルテ、カンファレンス、看護師の申し送りなどから患者さんの情報を収集し、得られた情報から服薬状況の把握・確認、患者指導や副作用モニタリングなどを行っています。院内フォーミュラーも導入し、また、多職種協働でポリファーマシーにも積極的に取り組んでいます。入院中の薬は、調剤室・注射室などに所属している薬剤師が、処方箋に従った正確かつ安全な調剤・監査を実施し、各病棟へ薬を供給しています。特に抗がん剤については、厳密な監査を実施し、薬剤師が安全キャビネット内で調製を行っています。退院後はご自宅や紹介施設でのフォローとなることが多いため、薬の説明書やお薬手帳シールを使用して退院時の薬の内容を患者さんに理解してもらうよう努力しています。

外来患者さんに対する関わり

- 当院では、全面「院外処方箋」となっています。2020年1月より、患者さんの検査値の一部を処方監査に必要な情報として院外処方箋に記載しています。
- 外来で注射薬の抗がん剤治療を受ける患者さんに対しては、朝夕に行われる化学療法センターのミーティングに参加し、患者さんの情報を共有しています。複数の薬剤師が抗がん剤の投与量や投与スケジュールを確認した後に、調製しています。また、必要に応じて患者さんに治療スケジュールや副作用の説明などを行っています。
- 数ヵ月に1回の頻度で、近隣の保険薬局、大阪市北区薬剤師会、大阪市北区の基幹病院と情報交換会を開催しています。
- 保険薬局を対象に年1回、吸入指導の勉強会を開催し、地域で吸入指導の統一化を図っています。現在、大阪市北区基幹3病院で吸入依頼書と吸入報告書を統一しています。
- 連携充実加算の質的向上をめざし、年1回以上、保険薬局を対象に抗がん剤に関する研修会を開催しています。
- 保険薬局からの服薬情報提供書(トレーシングレポート)を介して医師への情報提供を行っています。

その他

- 治験事務局があり、治験薬の管理・調剤などを行っています。
※治験薬とは、厚生労働省の製造承認を得る前の治療効果を調べている段階の薬剤のこと。動物実験を終え、人間について臨床試験を行っているときのもの。

血液浄化センター

血液透析、腹膜透析、アフレスिसなど、あらゆる血液浄化療法にチーム医療で対応します。また保存期腎不全での患者指導も行います。

活動内容

1. 末期腎不全では個々のライフスタイル・生活設計に合わせて血液透析、腹膜透析、腎移植まで対応します。
2. 合併症や疾病治療のため他診療科に入院中の透析を病態に合わせて行います。
3. 急性腎障害に対して迅速に対応し、診断と原因の除去・透析を行います。
4. 保存期腎不全の段階での透析予防指導、腎代替療法選択指導を行います。
5. ショント造設、ショントトラブルに対応しLPTAなどを行います。
6. あらゆるアフレスिसに対応可能で、種々の病態に対し他診療科と連携して治療にあたります。
7. 保存期腎不全検査教育入院や腎臓病教室を通して、腎臓病教育と知識の普及のサポートをしています。
8. 透析患者さんの足病変に対して、早期発見と早期治療介入を行っています。
9. 院内全ての血液浄化療法を各部署のスタッフと情報共有しながら、一元的に管理・担当しています。

腎臓病教室

腎臓病の予防、進行の防止をめざして医師・看護師・薬剤師・検査技師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーなどが講師となって1シリーズ4回の公開講座を年2回開催しています。この教室は「大阪府慢性腎臓病対策協議会」の後援で行われる企画であり、北野病院に受診歴のない患者さんあるいは患者ご家族の方でも参加無料です。日程などの詳細につきましては随時ホームページに掲載していきます。

※コロナ禍により2024年4月現在実施していません。再開の目処が立ちましたらホームページにてお知らせいたします。



キドニーデー

腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な取り組み「世界腎臓デー (World Kidney Day)」が毎年3月の第2木曜日に制定されています。当院でも、腎臓病について沢山の人の人に知っていただくため、世界の腎臓病デーに合わせて、毎年3月にキドニーデーを開催しています。

腹膜透析

専用診察室 / 2床 (火曜日午後および木曜日午前)
腹膜透析は基本的に自宅において自分で治療を行います。通院が月に1回程度と少なく済むため、仕事を優先したい方、家族と過ごす時間を大切にしたい方などがこの治療法を選択されます。当院では、導入時より担当看護師がついて丁寧な指導を施行します。高齢者の方にも退院後の腹膜透析治療が不安なく実施できるように、訪問看護ステーションと連携してサポートを行います。

看護外来

平日 10:00~15:00
慢性腎臓病を有する患者さんに、初期の段階から腎臓を守る方法について生活指導や支援を行っています。また腎不全が進行した患者さんへの腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)の説明と療法選択支援を行っています。

外来内容 / 腎臓病指導外来、糖尿病透析予防指導外来
移植後患者指導外来、腎代替療法選択外来

血液透析

透析ベッド / 20床 月~土(祝日・休診日も通常通り)
治療時間 / 9:00 ~ 15:00

アフレスイス

血漿交換・血液吸着・末梢血幹細胞採取など

難聴・鼓膜再生センター

種々の原因による鼓膜穿孔の閉鎖に対して、これまで様々な治療がなされてきました。しかし、現行の治療法は鼓室形成術や鼓膜形成術といったそのほとんどが手術療法であり、皮膚外切開と自己組織採取などの創傷を伴います。また、正常鼓膜が形成されず形成された鼓膜が極端に分厚くなったり、ツチ骨との接触が不十分だったりなどの原因から聴力がさほど改善しないこともしばしばあります。さらに手術時間や麻酔、術後の不快感や後遺症、一定期間の安静や入院、さらには高額な医療費、手術不成功による再手術と患者さんに対する多くの負担と制約を伴っています。

本治療法の意義と成果

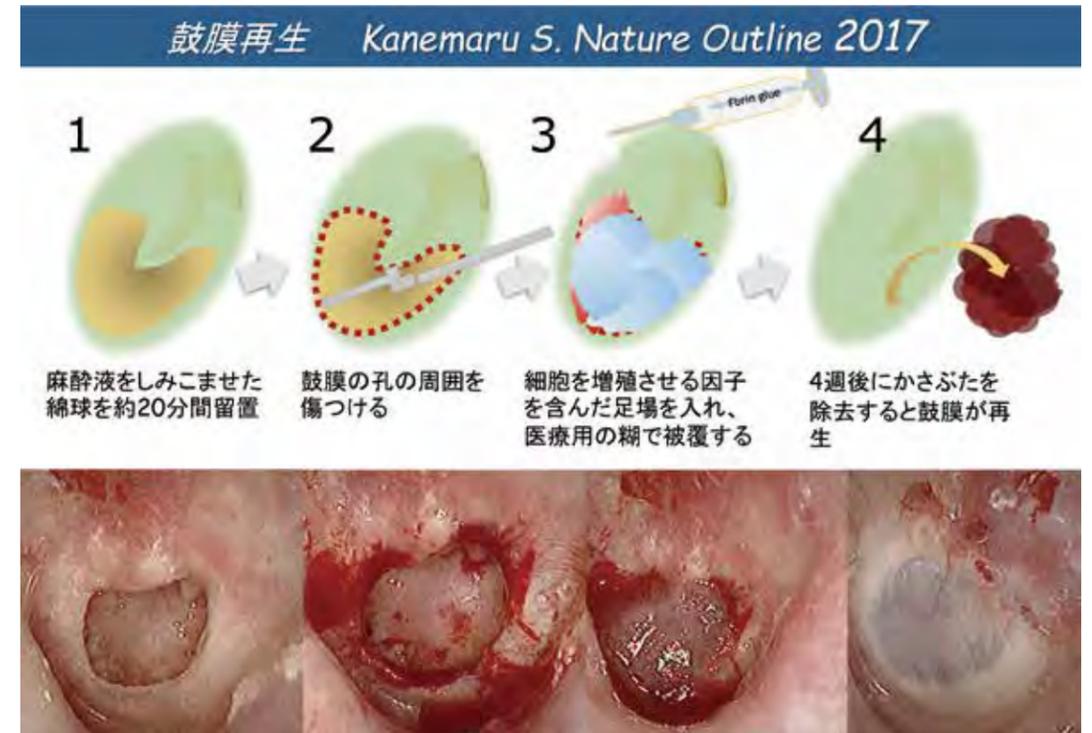
本治療法は、従来の皮膚外切開や自己組織採取などは不要で、わずか20分間程度の外来処置のみで、処置直後より聴力が改善し、高い成功率で鼓膜穿孔の閉鎖が可能な再生医療による全く新しい治療法です。治療後の日常生活での制約もほとんどなく、正常あるいはそれに近い鼓膜の再生が可能なため、聴力も理想的な改善が得られます。本治療により、耳科手術は、全く新しい局面を迎えることになると考えられます。

適応症例の診断基準

鼓膜穿孔のある慢性中耳炎で中耳・外耳に活動性の感染・炎症がない症例、外傷性鼓膜穿孔で自然に治癒する見込みがないと判断される症例、滲出性中耳炎による鼓膜切開ないし鼓膜チューブ留置後に孔が残った症例などを対象としています。

治療の流れ

外来診察において鼓膜穿孔がありかつ活動性の感染・炎症がないことを確認し、4%キシロカインに浸した綿花を鼓膜穿孔部に当てるように外耳道内に挿入します(下図内1)。約15分間後、外来診察用の顕微鏡下に、鼓膜穿孔縁に鼓膜切開刀で傷をつけ穿孔縁の上皮を全周性に除去します(下図内2)。引き続き鼓膜穿孔より大きなゼラチンスポンジ塊にbFGFを浸潤させて、鼓膜穿孔部位を十分覆うようにゼラチンスポンジ塊を留置する。この後、これをフィブリン糊で固定します(下図内3)。患者さんには、強い鼻すすりや鼻かみなど耳に圧力がかかるようなことはしないように指導し、3~4週間後に外来受診をさせます。鼓膜上の痂皮を除去し、再生を確認します(下図内4)。1回の処置で穿孔が閉鎖しない症例に対しては、4回を目途に同処置を繰り返していきます。



当院での受診には、診療情報提供書とご予約が必須となっています。
疑わしい症例がございましたら、当院耳鼻咽喉科宛にぜひご紹介をよろしくお願い申し上げます。

漏斗胸センター

当院に漏斗胸の診断・治療を複合的に行える漏斗胸センターを2018年10月に開設しました。

漏斗胸とは？

胸壁の中央部が凹んでいる変形を漏斗胸といいます。肋軟骨の変形が原因とされており、胸の凹みの程度は人により様々で、軽い凹みから非常に高度の凹みまであります。以前は気づかなかつたのに、背が伸びてきて目立ってくることもあります。約1,000人に1人程度の割合で起きるといわれ、まれな症状ではありません。幼児期では凹み以外の症状はないことが多いですが、思春期以降では胸痛、動悸、労作時の呼吸苦があります。学童期、思春期では「心」の問題、いじめに関連する精神的悩みが漏斗胸患者さんにとって大きな問題になります。

侵襲の少ない“Nuss手術”

1998年にNuss先生が報告した低侵襲手術である胸腔鏡補助下胸骨挙上術(ナス手術)を行います。両側胸部に3~4cmの皮切から金属のバーを胸の中に埋めて、前胸部を持ち上げて凹みを治します。従来の方法と違い肋骨や胸骨を切らないので、手術時間が短く、出血量も少なく、傷も目立ちません。金属バーは1年半から3年後に抜去します。両脇に傷跡が残りますが、正面には残りません。肋軟骨を矯正するため強い痛みを伴いますので、背中から硬膜外カテーテルを手術の時に立てて疼痛管理を行います。小児外科医が中心になりますが、センター化で成人の症例にも対応できるようになりました。



受診方法

- 小児外科外来(水曜日午前、木曜日午後)で受付、小児外科医が診察します。
- 小児外科もしくは漏斗胸センターあてに紹介状をお願いします。

医学研究所北野病院 漏斗胸センター ホームページ
(https://www.kitano-hp.or.jp/section/funnelchest_center) を参照してください。



こどものヘルニアセンター

こどもで頻度の高い鼠径ヘルニア“脱腸”と臍ヘルニア“でべそ”治療の専門センターを開設しました。鼠径ヘルニアの腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア門閉鎖術(LPEC法)と臍ヘルニアの臍形成術を日帰りで行っています。

小児と若年成人の鼠径ヘルニア・臍ヘルニアを治療

小児と若年成人鼠径ヘルニアのLPEC手術、臍ヘルニアの臍形成術を日帰りで行うセンターです。LPEC手術は径3mmの内視鏡で実施、手術時間は15分程度で対側の隠れたヘルニア門も閉鎖します。類縁疾患の陰嚢/精索水腫にも適応できます。臍ヘルニア手術は30分程度です。手術日は月曜、火曜です。「こどものヘルニアセンター」はまず小児外科外来を受診してください。

受診方法

- 小児外科外来(火~金曜日)で受付、小児外科医が診察します。
- 小児外科あてに紹介状をお願いします。

医学研究所北野病院 こどものヘルニアセンター ホームページ
(https://www.kitano-hp.or.jp/section/shonigeka/hernia_center) を参照してください。



臨床検査部

当検査室は、国際規格「ISO15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)」認定を受けています。検体検査、生理検査および輸血を担当しており、24時間365日の緊急検査、緊急輸血対応、および迅速報告体制に尽力しています。また、検査の質を重視し、毎年日本医師会、大阪府医師会、日本臨床検査技師会などの外部精度管理サーベイに参加し、優秀な成績を収めているほか、看護部門などの協力をいただいで、検査の全過程における精度保証活動を展開しています。さらに、検査情報(LI)室を設置し、医療者および患者さんからの検査に関する相談を受け付けています。また、栄養サポートチーム(NST)に参加し、栄養指標検査実施、低栄養症例スクリーニング、情報発信などの活動や、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)として薬剤耐性菌の疫学調査、また感染制御チーム(ICT)での院内環境ラウンドなど、院内感染予防活動にも力をいれています。糖尿病教室、腎臓病教室およびリウマチ膠原病教室にて、検査についての講座も担当しています。

検体検査部門

血液・尿など、体から採取したものを対象としています。血液・一般、生化学・血清、細菌の検査を実施しているほか、外注検査を一元管理しています。正確なデータを迅速に報告するため、検査の依頼・採取・測定・報告の過程を全てコンピュータで管理しています。必要な検査データがいつでも即時に報告できる「ノンストップ・リアルタイムの検査室」をめざし、血液・尿・生化学・血清・ホルモン・感染・腫瘍マーカーなど、ほとんどの検査が迅速検査・即時報告体制をとっています。結果が出たその瞬間から院内各部署のコンピュータ端末の画面で医師が参照できるようになっています。

生理検査部門

2階生理検査室で、心電図・脳波・超音波など身体を直接に対象とする検査を専門のトレーニングを受けた臨床検査技師が、各科の医師とともに担当しています。生理検査、超音波検査の報告書・画像はコンピュータに取り込んで管理しており、院内の各部署の端末で参照できます。

主な検査項目

- 循環器生理検査(心電図、負荷心電図、ホルター心電図、脈波伝播速度、皮膚灌流圧など、心臓や血管の機能検査)
- 呼吸器生理検査(肺活量、気道可塑性、呼吸抵抗、呼気NOなど、肺の機能検査)
- 神経生理検査(脳波、神経伝導、誘発電位、筋電図など、脳・神経系・筋肉の機能検査)
- 超音波検査(心エコー、腹部エコー、頸動脈エコー、下肢エコーなど、各部位の画像検査)
- 熱画像検査(サーモグラフィ)
- 睡眠時呼吸検査(睡眠時無呼吸簡易検査、ポリソムノグラフィなど)

輸血部門

血液製剤(アルブミン製剤含む)発注・保管・輸血検査・在庫など、全てを24時間365日臨床検査部で担当、認定輸血検査技師を含むスタッフが一元管理しています。輸血の安全体制を重視し、厚生労働省の指針に準拠した管理体制をとっています。輸血検査データはコンピュータ管理により厳重な照合を行っています。自己血採取(瀉血)装置・チューブシーラを管理し、採取部署に貸し出すとともに、採取された自己血の保管と在庫を行っています。末梢血幹細胞移植用の自己および同種幹細胞凍結保存管理を行っています。また輸血管理料I・輸血適正使用加算算定の認可を受けています(輸血管理体制および適正な輸血実施を評価するものです)。

臨床工学部

高度で専門性の高いスキルが要求される医療機器の操作や適切な点検修理を行い、安全で効果的な医療が提供できる医療機器環境を整えています。

医療機器中央管理業務

中央管理業務は、医療機器の保守点検から、病棟での不具合対応、各部門への機器の貸出・返却・所在把握、機器購入時の機器選定、院内スタッフに対する医療機器の操作安全講習など、院内の医療機器全般に関連する業務を行っています。

心臓センター業務

経皮的冠動脈形成術(PCI)や頻脈性不整脈へのアブレーション治療などの心臓カテーテル治療における臨床介助、心臓外科手術での人工心肺装置の操作などを行っています。また、ペースメーカーの遠隔モニタリングなども行っています。

血液浄化センター部門

透析液の水質管理や透析機器の管理を徹底し、安全な治療を提供するとともに、透析を受けられる患者さんのQOLの向上をめざしています。

感染制御チーム (ICT)

当院ICTは、医療関連感染防止対策の組織として感染制御全般に関与しています。ICTのリーダーは感染管理認定看護師(ICN)が務め、メンバーには医師(ICD)、感染管理認定看護師(ICN)、感染制御認定薬剤師(BCPIC)、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、事務などが加わっています。

週1回ICTミーティングと院内ラウンドを実施し、安全で安心できる医療環境を提供できるよう感染予防活動を行っています。

活動内容

1. 院内感染事例、院内感染発生率に関するサーベイランスなどの情報分析・評価
2. 院内感染防止対策の実施状況の把握・指導
3. 抗菌薬の適正使用の推進
4. 感染対策マニュアル・規程の更新・周知
5. 職業感染防止対策の推進
6. 職員研修の実施
7. 感染防止対策地域連携医療機関との合同カンファレンス
8. ワクチン集団接種や針刺し・抗体価など衛生管理



抗菌薬適正使用支援チーム (AST)

近年、不適切な抗菌薬の使用による薬剤耐性菌の増加・蔓延に対する対策は世界的にも大きな課題となっています。そこで個々の患者さんに対して抗菌薬を使用する際、最大限の治療効果を導くと同時に有害事象を最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できるように支援を行う事を目的として2017年6月に発足しました。

感染症科医師や薬剤師、臨床検査技師、看護師が所属し、活動しています。

抗菌薬適正使用と的確な感染症治療の推進

今後の活動予定

1. 院内感染発生事例、菌血症など重症感染症、全診療科感染症患者の情報分析・評価
2. 広域抗菌薬の使用状況の把握・指導
3. 抗菌薬の適正使用の推進
4. 感染対策マニュアル・規程の更新・周知
5. 職業感染防止対策の推進
6. 職員研修の実施



褥瘡対策チーム

当院の褥瘡対策チームは、医師、看護師、理学/作業療法士、管理栄養士、薬剤師、事務職と多職種から構成されています。各々の専門性が十分に発揮できるようコミュニケーションを大切にしながら、褥瘡発生の予防や治療効果をあげることを目的にチームで取り組んでいます。

毎週木曜日には、院内の褥瘡患者さんをラウンドし、主治医・病棟看護師も一緒にあって課題を検討し、最善のケア方法や治療の提供に努めています。また、院内の職員へ向けた啓発活動として、年間計画に基づいた研修会を定期的に開催しています。深い褥瘡の場合には入院中だけでは治癒に至らず在宅に戻られてからも継続して治療が必要となることもありますし、新たに褥瘡を発生させないためには在宅での予防やケアが重要となります。褥瘡対策は院内での活動だけでなく、地域の医療機関や施設とも情報を共有し、地域で取り組む必要があると考えています。地域の先生方のご助言・ご協力をお願いすることもあると思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



認知症ケアチーム

チームの対象者は、身体疾患をもって入院された認知症患者さんや認知機能の低下した高齢患者さんとそのご家族です。そして、直接ケアを行う病棟看護師をはじめとしたスタッフへの指導や支援を行っています。

身体疾患の苦痛に加えて、認知機能低下に伴う大きな不安を抱えた患者さんご家族が安心して治療にのぞめること、そして入院を契機とした、身体機能低下、認知機能低下予防を行い、その人らしさが保てる生活へ戻れることをめざしています。

活動内容

1. 週に2回(火・金)チームカンファレンスと、病棟ラウンドを行っています。
2. 病棟看護師ともカンファレンスを行い、コミュニケーションや環境調整、在宅復帰への支援、介護支援連携、家族支援、ポリファーマシーの調整、向精神薬や身体拘束の緩和、中止の提案や支援を行っています。また認知機能低下や高齢患者さんにおける倫理的課題への支援(臨床倫理カンファレンスなど)、ACPの視点を提案なども始めています。
3. 定期的に院内研修を行い、当院医療スタッフのケアの質向上をはかっています。
4. コロナ禍で面会できず、モバイルツールを活用できない患者さんのために、現在はiPadを活用したオンライン面会を行っています。

遺伝性疾患サポートチーム

遺伝性疾患サポートチームは、私たちの体の設計図である遺伝子や染色体に生まれつきの変化を持っていることが原因で病気を発症しやすい体質をお持ちの方や、そのご家族のサポートを行っています。

このような遺伝子や染色体の変化は全身の細胞で起きているため、一つの診療科だけではなく複数の診療科が連携して診断・治療フォローアップなどを含めた遺伝診療を行います。

当院では臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラー(遺伝カウンセリングを専門にする医療者)を中心に乳腺外科、消化器内科、消化器外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、血液内科など多くの診療科の医師、さらに認定看護師、臨床心理士、臨床検査技師が連携をとりチーム医療を行っています。また、遺伝性疾患サポートチームが関わる診療は、患者さんだけでなく血縁者の方々にも関わる可能性があります。認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを通して、遺伝医療に関わる様々な情報提供や、希望された場合の遺伝学的検査の体制整備、その後のフォローアップなどをチーム一丸となって実施しています。



呼吸ケアチーム (RCT)

医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士という複数の医療専門職が呼吸に関するそれぞれの分野の専門知識を持ち寄り、安全かつ効果的に呼吸療法が行われるよう、アドバイス・選択・実践する医療チームとして、2010年10月に組織されました。

当院では人工呼吸器対象の患者さんだけでなく、NPPVやハイフローセラピー中の患者さんのラウンドも行い、機器の点検や装着による皮膚損傷の有無など安全に使用できているかを観察しています。

活動内容

1. チームラウンド：毎週木曜日に病棟ラウンドを行い、該当患者さんのベッドサイドにおいて診療を行っています。
2. チーム会議：第4木曜日に会議を開き、事故予防策や事故発生時の問題解決、人工呼吸器や酸素療法に関する物品の検討、研修の企画などを行っています。
3. スタッフ教育：定期的に研修を開き、当院医療スタッフの意識向上をはかっています。研修内容としては、呼吸器系の解剖生理、人工呼吸器、NPPV、ハイフローセラピーの正しい使用・装着方法、呼吸理学療法、吸引技術などについて看護師および臨床工学技士、理学療法士向けに研修を開催しています。



支援部門 (チーム医療)

がんリハビリテーションチーム

がん患者さんは、がんやその治療によって体力が低下し、日常生活に支障をきたすことがあります。がんのリハビリテーションは、がんと診断された直後から、各治療や病期に応じたリハビリテーションを展開して、がん患者さんの日常生活の質を、できる限り維持・向上することを目的としています。

当院では、指定の研修会を受講したスタッフを中心に、がんのリハビリテーションを実施しています。2015年9月、がん患者さんに対するリハビリテーションなどの医療の質向上を目的として、「がんリハビリテーションチーム」が発足しました。当チームでは、がん患者さんに対するスタッフの知識向上を図るため、院内勉強会の開催を始めとして、他チームとの協同や研修会参加の推進などを通じ、院内におけるがんのリハビリテーションの拡充を進めています。



緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは専門の医師や看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・臨床心理士など多職種から構成されています。がんの診断時からあらゆる時期における、身体的・精神的なつらさを和らげ、患者さん・ご家族さんのQuality of life (生活の質)の維持・向上、および、「その人らしく過ごせること」を目標に活動しています。退院後は、必要に応じて、緩和ケア外来やがん相談支援センターで継続してサポートし、入院・外来問わず、継続して緩和ケアを提供できる体制の構築に努めています。

活動内容

1. 専門の医師や看護師が定期的に患者ラウンド(回診)を行い、主治医や病棟の担当看護師と連携しながら苦痛緩和に努めています。
2. 週に1度、多職種メンバーによるチームカンファレンスを行い、患者さんがより良い生活を送るために必要な支援を検討しています。
3. 外来移行後は、患者さん・ご家族さんのニーズに応じ、緩和ケア外来やがん相談支援センターでサポートしています。



口腔ケア・嚥下リハビリチーム

医師(耳鼻咽喉科、リハビリテーション科)、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、と複数の医療専門職で構成しています。食事摂取が困難な入院患者さんを対象とし、食べる喜びを支えるための専門医療チームとして2014年に組織され、活動しています。

チームで毎週火曜日12時から病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドにて嚥下内視鏡検査による嚥下機能評価、口腔ケア、食事形態や姿勢調整およびその指導を行っています。多職種での評価により適切な食事提供を行っています。その他、院内講習会を開き、患者さんが日々安全に食べてもらうことを目標とし、病院全体として知識・技術向上に努めています。



糖尿病サポートチーム

糖尿病のコントロールはすべての疾患の経過に影響します。糖尿病サポートチームでは、入院中の血糖コントロールを専門の医師、看護師、管理栄養士などの多職種でサポートいたします。また、糖尿病以外の疾患の治療目的で入院された患者さんにも適切な糖尿病診療・ケアを早期から提供できるよう活動を行っています。

チームで毎週金曜日に病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドでの診療・ケアを行っています。薬剤の調製、治療に必要な手技指導、栄養指導などの介入を早期から行うことで、スムーズな退院や転院の支援につなげています。こうしたチーム診療活動を通じて、患者さんとそのご家族への糖尿病の知識の普及、さらには治療に関わるすべての医療スタッフも含めた診療技術の向上をめざしています。また、新型コロナウイルス感染症対策に準じながら院内研修会・勉強会開催にも取り組んでいます。

活動内容

1. 週1回、金曜日に病棟ラウンドを行い、患者さんのベッドサイドで診療・ケアを行っています。
2. 薬剤調整、手技指導、栄養指導などを早期から介入することにより、スムーズな退院・転院支援を行っています。
3. 診療活動と通じた患者さんとそのご家族の知識の普及、さらに医療スタッフも含めた知識の向上をめざしています。
4. 院内研修会・勉強会を開催し、スタッフの知識向上を図っています。



栄養サポートチーム (NST)

当院の栄養サポートチーム(NST)は、医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・事務員で構成され、患者さんに適切な栄養管理を提供するためのチームです。

病状や治療のために入院患者さんが十分な栄養を経口摂取できない場合などに適切な栄養補給の提案や、手術などの術後合併症予防のため、術前からの計画的な栄養管理の提案などを行っています。この活動により、栄養状態の改善、治療効果の向上、合併症の予防、QOL(Quality of Life:生活の質)の向上、在院日数の短縮などを目標として活動しています。

毎週木曜日にチームで病棟ラウンド(回診)を行い、患者さんのベッドサイドに訪室、多職種でカンファレンスを行い栄養管理の提案を行います。定期的なメールマガジンの配信、勉強会の開催を通して、院内において栄養管理についての啓発活動も行っています。



がん診療センター

当院は大阪府がん診療拠点病院として、がん診療を病院の中核事業の一つと位置づけ、診療の充実、質の向上に取り組んでいます。その一環として、最新の放射線治療機器（リニアック、密封小線源）を導入した放射線治療センターの開設、化学療法センターの移転拡張、緩和ケアセンターの設置、がん相談支援センターの移転拡張などを順次進めてきました。当センターではがん患者さんを身体的・精神的・社会的に多職種で幅広くサポートする体制を整えています。これからも「がん診療センター」として、患者さんとそのご家族の方々のさまざまな苦痛や悩みに誠実に対応できるよう努めてまいります。

取り組み

- 「医学研究所附設の臨床病院」として、安全で先進的ながん診療に、チームで取り組みます。
- 科学的根拠に基づき、かつ患者さんのニーズに応じた最善のがん診療を提供します。
- 多職種の医療チームが、多角的にがん診療をサポートします。
- がん相談や情報提供の体制を整え、患者さんやご家族を支援します。
- 緩和ケアチームが、身体的、精神的苦痛の緩和に努めます。
- 住み慣れた地域での生活を支えるために、かかりつけ医や介護事業者などとシームレスな連携を行います。
- 京都大学とともに、がん診療の発展をめざし、研究・教育・研修に努めます。

院内がん登録

当院は、2009年4月に大阪府から「大阪府がん診療拠点病院」の指定を受け、院内がん登録の取り組みを行っています。この情報は、「当院のがん診療の実態把握および診療の質の向上」、「患者さん、ご家族の方の支援」を目的とした以下の活動に活用しています。

- 病院の対がん医療活動の企画、評価のための資料提供
- 診療活動の支援、研修、教育のための資料提供
- がん患者さんの受療状況の把握
- 院内がん患者さんの生存率の計測
- 院内がん患者さんの継続受診支援
- 臨床疫学研究の支援
- 国や大阪府などへの届出

がん診療体制

がん診療センターが全体を統括する形で、がん診療にかかわる院内の各部門が連携して患者さんにとって最適な治療を提供します。



がん局所療法	外科的切除、内視鏡治療、血管内治療、焼灼療法など
がん薬物療法	化学療法センターおよび各診療科での薬物療法
放射線治療	リニアック、密封小線源を用いた放射線治療
緩和ケア	多職種による身体的、精神的苦痛の緩和
がん相談	がん専門相談員による相談支援、がん情報室での情報提供
地域医療連携	かかりつけ医や地域の医療機関との連携、介護事業者などとの連携
がん登録	院内がん登録の実施
がん診療サポート	チーム医療（緩和ケア、がんリハビリ、遺伝性疾患、栄養サポート、口腔ケアなど） がん治療と就労の両立支援、妊孕性・生殖機能温存のサポート

放射線治療センター／腫瘍放射線科

放射線治療センターでは最先端の治療機器を揃えて、各診療科と連携して以下の高精度放射線治療を提供します。

- 強度変調放射線治療（腫瘍の形に合わせて照射）
 - 画像誘導放射線治療（治療直前に治療ベッド上でX線画像やCT画像を取得、位置補正を行い正確に照射）
 - 肺がんや肝臓がんに対しての体幹部定位放射線治療（ピンポイント照射）
 - 呼吸性移動がある腫瘍に対して動体追跡照射
 - リモートアフターローディングシステム（RALS）を用いた小線源治療
- いずれの治療方法も腫瘍に放射線を集中させ正常組織の線量を軽減することによって、高い治療効果と副作用の低減が可能になり患者さんに優しい治療を実現します。

スタッフ紹介



副院長 兼 消化器外科部長
兼 がん診療センター長 兼 地域医療連携本部長
兼 地域医療サービスセンター長

寺嶋 宏明（てらじま ひろあき）

〈専門領域〉

- 肝胆膵外科
- 消化器外科
- ヘルニア外科

資格など

- 京都大学医学博士
- 日本外科学会指導医
- 日本消化器外科学会指導医
- 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
- 近畿外科学会評議員
- 京都大学医学部臨床教授
- 日本外科学会外科専門医
- 日本消化器外科学会消化器外科専門医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会評議員
- 京都大学先端・国際医学講座客員准教授

お問い合わせ

日時 月曜日～金曜日 / 9:00～17:00
※休日を除きます。

連絡先 **06-6131-3338**

場所 **1階 ⑫地域医療サービスセンター**

がん相談支援センター

病気になると、体のことだけでなく、様々な悩みや不安が出てくる場合があります。当院では2007年7月にがん相談支援センターを開業以来、そうした患者さんの様々な悩みに向き合い、対応してきました。現在では、がん専門相談員として研修を受けたがん領域の認定・専門看護師や医療ソーシャルワーカーが常時相談対応できる体制となっています。またこの度、患者さんがさらにゆっくりと「がん相談」や「がん情報の閲覧」ができるよう、2024年2月1日より、がん相談支援センターを拡張オープンすることとなりました。当院受診中でない患者さんも利用できますので、ぜひ当センターをご紹介ください。



例えばこんなことが相談できます

- 検査、治療、副作用のこと
- 不安や気持ちのつらさ
- 医療費や経済的な支援のこと
- 療養生活の過ごし方
- がん治療と仕事の両立について
- 家族や社会との関わり
- 緩和ケアについて
- 外見（アピランス）の変化への対応について
- がん治療と妊孕性について
- 医療者とのコミュニケーションについて など

アピランスケアコーナー

アピランスケアに関する各種パンフレットに加え、ウィッグ、ケア帽子、ネイルなど、実際試すことができるものも用意しています。



※販売はしていません。

がん情報室・検索コーナー

がん情報室にはがんに関する書籍やパンフレットを設置しています。また、検索コーナーには、がん情報を自由に検索いただけるパソコンを設置しており、プライバシーが確保された環境で情報収集いただけます。



がん患者サロン「ほっこり会」

北野病院ほっこり会は、がん患者さんが自分らしく少しでも快適な生活が送れる会をめざしています。がんサバイバーのボランティアの方々の協力のもと、患者さん同士で、療養中の過ごし方や日常生活での工夫点、現在の心配事などを遠慮なく話せる場です。



がん相談・予約方法

〈相談方法〉

- 対面相談（30分程度を目安）
- 電話相談（10分程度を目安）

※原則、ご相談は対面相談をお願いしています。
※事前に予約していただければ基本的にはお待たせすることなく、個室でのご相談が可能です。

〈予約方法〉

- 電話予約 / 下記受付時間内に06-6131-2555までお電話ください。
- メール予約 / 専用メールフォームからご予約をお願いします。改めて担当者よりご連絡させていただきます。なお、メールでのご相談は行っていませんのでご了承ください。

専用メールフォーム



- 直接ご来訪 / ⑫地域医療サービスセンター：がん相談窓口、へお声がけください。

お問い合わせ

日時 月曜日～金曜日 / 9:00～17:00
※休日を除きます。

費用 **無料**

場所 **1階 ⑫がん相談支援センター**

連絡先 **06-6131-2555**

最新機器紹介

ダ・ヴィンチXi

高度な内視鏡手術を可能にする、最先端の手術支援ロボットです。複数の関節を持つ専用鉗子による手術操作性の向上と10倍もの拡大率を持つ3D画像による立体視をできることが最大の特徴です。また保険適用の拡大により、適用疾患の幅が広がっています。



リニアック

がん病巣に集中して放射線を照射し正常な組織への線量を低減することにより患者さんにやさしい高精度放射線治療の実施が可能です。本機器は、強度変調放射線治療(IMRT)、回転型強度変調放射線治療(VMAT)、画像誘導放射線治療(IGRT)などの高精度放射線治療に対応し、従来の機器より高い線量率での照射が可能で短時間の放射線治療が可能です。



PET-CT

最新PET画像再構成機能は、従来法では困難であった「画質」と「定量精度」の向上を同時に実現しています。これにより、微小病変の描出能の向上、隣接する病変の識別能の向上、肝などのノイズの大きな臓器での画質向上が実現し、がん治療における診断能が向上します。



MRガイド下集束超音波治療器(MRgFUS)

本態性振戦やパーキンソン病の新しい治療法としてMRガイド下集束超音波治療を導入しました。このMRガイド下集束超音波治療では皮膚や頭蓋骨を切らず治療機器も埋め込みません。ふるえやからだのこわばりの原因となる脳の一点に超音波を集め、神経の異常活動を抑え、ふるえやこわばりを軽くします。「きる」手術ではなく、手術の危険性や治療機器の埋め込みを心配なさる方にもお勧めできます。



医学研究所北野病院 FAQ ～よくある質問～

Q1 予約なしでも受診できますか？ 外来受付時間を教えてください。

A 予約なしでも当日受診は可能です。受付時間は8時45分～11時30分です。土、日、祝日、年末年始は休診です。ただし、神経精神科、心臓血管外科、歯科口腔外科、小児専門外来、火曜日の整形外科は完全予約制です。診察待ち時間が長時間になる場合がありますが、ご了承ください。

Q2 紹介状がなくても受診できますか？

A 受診していただけますが、当院初診の患者さんは、初診料金の他、選定療養費1万1,000円が別途かかります。※整形外科・耳鼻咽喉科・眼科・心臓血管外科・歯科口腔外科では初診の患者さんは紹介状をお持ちの方のみとさせていただきます。

Q3 選定療養費とは何ですか？

A 厚生労働省により制定された「紹介受診重点医療機関のうち一般病床200床以上の病院で、初診時に紹介状をお持ちでない患者さんを対象に自己負担金をいただく制度」です。ただし、次に該当する場合は、ご負担いただきません。

- 他の医療機関からの紹介状をご持参の場合
- 今回受診する診療科は初めてだが、別の診療科に6ヵ月以内に受診歴のある方

Q4 検査だけでも予約できますか？

A 放射線診断科(PET-CT・CT・MRI・Rシンチ・骨密度)・生理検査(腹部エコー・甲状腺エコー)・胃内視鏡検査は、医療機関からの申し込みのみ検査予約ができます。

Q5 患者からでも診察予約は取れますか？

A 紹介状をお持ちの患者さんは、事前予約を受付けています。お申し込みは、FAXまたはインターネット(<https://www.kitano-hp.or.jp/section/local>)をお願いしています。診療科によっては紹介状の取り寄せが必要となりますので、当院より紹介元の医療機関様へ連絡させていただくことがあります。予約方法については、**地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へお問い合わせください。

Q6 駐車場はありますか？また、料金はいくらですか？

A 駐車場は、当院地下にごございます。受診当日の利用料金は、1時間まで200円、1時間以降5時間まで400円、5時間以降1時間毎に100円となっています。その他の優待割引もごございますので、詳細につきましてはお問い合わせください。

Q7 セカンドオピニオンは予約制ですか？

A 予約制です。セカンドオピニオン利用申込書にてお申し込みください。料金は、一回3万3,000円です。お申し込みは医療機関からのみ受け付けています。なお、以下の事例での相談は受けていません。

- 主治医が了解していない場合
- 医療過誤および裁判係争中に関する相談
- 死亡された患者さんを対象とする場合
- 相談内容が、当院の専門外の場合
- 「診療情報提供書」、検査データ、画像データなどの資料、また当院が指定した資料をお持ちでない場合
- 現在受診中の病院・主治医に対する不満
- 医療費の内容、医療給付に関わる相談
- 患者さん・ご家族さん以外からの相談

Q8 救急受診の連絡はどこへするの？

A 8:45～17:25までは地域医療サービスセンター06-6131-2955へ、ご連絡ください。速やかに、受診手配をいたします。17:25～翌日8:45までは、**代表電話 06-6312-1221**へご連絡ください。救急受付事務が対応いたします。時間外の救急受診の場合は、初診・再診に関わらず救急車での来院や紹介状をご持参の場合を除き、選定療養費が必要となります。

Q9 地域医療従事者向けの講演会・研修会はありますか？

A オンラインを中心に状況を見ながら対面でも開催しています。予定は医学研究所北野病院ホームページをご覧ください。

Q10 最新の外来診察表・診療情報提供書・封筒が欲しい。

A **地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へご連絡ください。郵送させていただきます。

Q11 入院患者の様子を診に行きたい、主治医に会いたい時はどのようにすればいいのでしょうか？

A **地域医療サービスセンター 06-6131-2955**へご連絡ください。入院病棟・主治医へ連絡いたします(名札をご準備させていただきます)。なお、面会は状況を見ながら一定の制限下で実施していますのでご了承ください。